大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十二年三月二十五日印刷納本・昭和十二年四月一日發行（毎月一回一日發行）

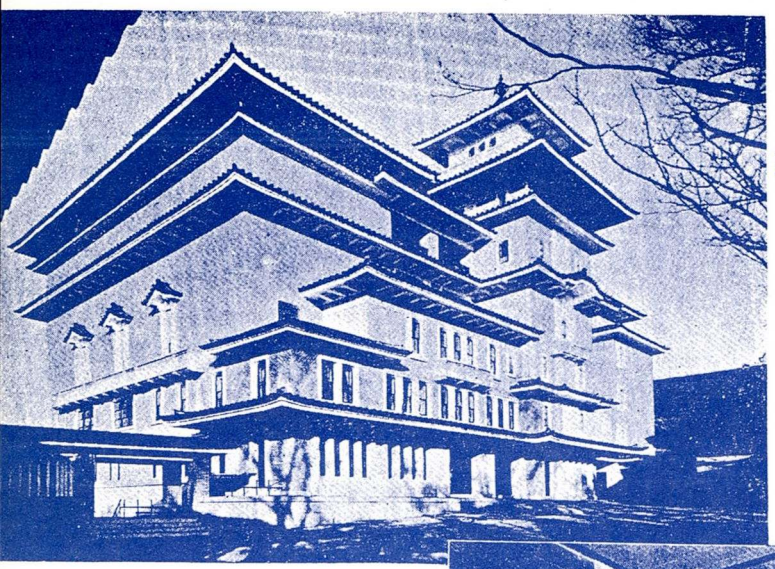
建築と社會

4

四月號

第二十輯第四號・昭和十二年四月一日

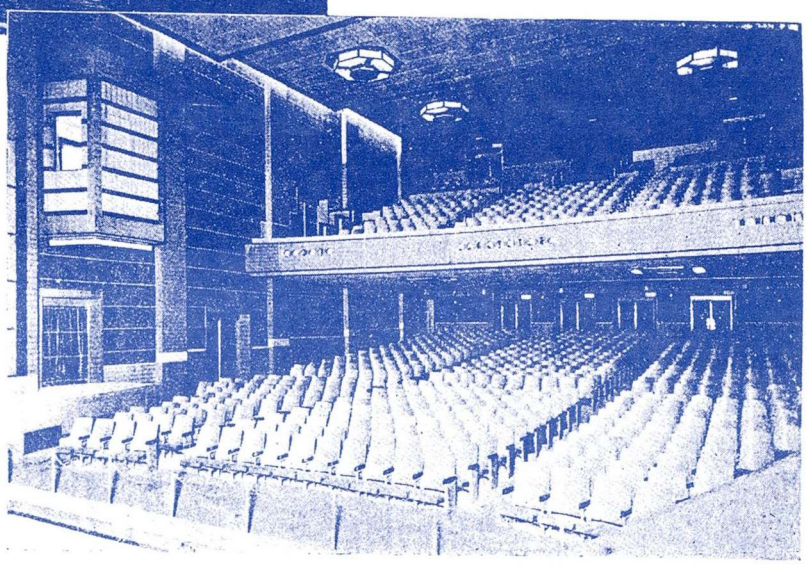
日本建築協會



設備を誇る

京都

彌榮會館



東鋼式サツシ、ドアー

三機工業納入

冷房換氣設備

東洋キヤリア工業請負施工

諸建築材料及附帯設備一式

設計監督・工事請負並ニ材料販賣

三機工業株式會社大阪支店

東洋キヤリア工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島三丁目(大阪三井ビル内)

電話 三機工業 土佐堀㊹ 8360 (3) 8365 (5)
東洋キヤリア 土佐堀㊹ 1587・1588・3197

(型錄贈呈)

第六版　（昭和十一年四月改訂）

美麗表紙
本綴
上質紙印刷
菊判截版

市街地建築物法令

日本建築協會版

本書は現行の**市街地建築物法を始め本年改正實施された**
“市街地建築物法施行令”・“同法施行規則”・“同法施行細則”
（大阪府、兵庫縣、京都府、警視廳〔東京府〕、神奈川縣、愛知縣）等々**その他“同法關係法令”**を全部網羅編纂したるものである。本書はその性質上校閲に最も力を費し關係官廳諸技師の援助を受けて出來得る限りの正確を期した。表紙は堅牢にして本綴となし又上質紙を使つて印刷の鮮明を計りその裝幀の美麗と携帶の至便とは多大の絶讃を博すること確信す。
建築家、建築業者、建築學生其他苟しくも建築に關係ある者の必要欠くへからざる定本として敢て本書を薦む。

●定價50錢　送料6錢●

日本建築協會發行　大阪北區朝日ビル4階　振替口座大阪39975

賣捌　丸善本支店　柳々堂書店

建築と社會

第20輯 第4號　昭和12年4月發行

四月號

目次

次に來るべきもの……大須賀巖（1）
Hopper 窓の機構……伊藤正文（8）
熔接接手の强度計算……淺野新一（13）
茶室……澤島英太郎（24）
都市と綠地の科學……橫山三四次（30）
新名古屋驛建築工事を通じて見る旅客驛建築の使命……增田誠一（41）

・建築時報・

ジードルング技術並に都市計畫の觀點より見たる大ベルリンの區域……菅陸二（47）
台灣都市計畫令施行規則……（52）
松室重光君を悼む……武田五一（60）

・新建築欄・

祇園彌榮會館（京都）
レストラン內部の種々相
バーリントン女學校（イギリス）
リバプール附近のローマンカトリック教會（イギリス）
穀物倉庫（アメリカ）
國立家具寮（フランス）
名古屋旅客驛
Saint Louis のガソリンステイション（アメリカ）
ウエスターン・ユニオン電信會社の事務所（アメリカ）
ロミンテンの國立狩獵館（ドイツ）
新らしい硝子の用途（イギリス）

會報……（61）

次に來るべきもの

大須賀巖

東京帝國大學新聞の新年號に載する、市浦健氏の「生活に即して」といふ建築批評論文は、尠なからず、わたくしの注意を惹いた。論旨は、表題に示す如く、建築は生活に即すべきものであつて、既成建築が多くルネサンス以後の文化として、藝術至上主義に墮したことは、明日の藝術を生れしむる所以でないと說き、而して氏は更らに「吾々はすべての造形變化の發達は、生活の容器である建築を中心として、現代生活に立脚したものでなければならぬと確信するのである」といふてゐる。

氏がこの論文を書いた目的は、氏等が主張し實行運動にまで乘り出した「日本土作文化精神」の主義を宣揚せんとするが爲めであることは、いふを俟たぬが、その宣言するところのものは、要するに「日本建築」への批判とこれに對する對策とである。氏は先づ「現代の日本に『日本建築』と云へるものを持つて居ただらうか」と疑問をなげつけて居る。勿論氏はこれを否定して「發達してるかの如く見らるる日本の建築學といふものの實は、その內の建築工學だけしか向上して居らないのである」と指摘し、且つ建築と不可離の文化的關係にある目的工藝についても、それは有閑工藝に過ぎないものであるが、日本を誇ふる輸出工藝が代表とされてるのでは、大衆及びその生活とは離れた、既成藝術といはざるを得ないといふ。すなはち、氏は、建築の規範として、建築が生活の容器としてあるには、それが衞生的に工業的にある以上に工藝的であり更らに社會的にまた都市計畫的でもあり且つ經濟的でもあることを要するといふ見解にあるものの如くである。このことは、本誌上に、これまで載せられた諸論文を通じても、いはれたことであるが、今日わが國の建築及び建築家として、反思再考をさせられるものが無いとはいはれぬと思ふ。建築を依頼するものが建築に關して無智文盲であり、建築家の尊嚴を傷つけるやうな注文をしたり、これに應ぜなければ、建築家は生活を脅かさるることがないとは、いへぬ實情もあるのであるが、建築家の例として、斯る社會の啓蒙問題の外に、建築家とは工藝、社會、經濟、政治の外にあるものでないといふ反省が、所謂非常時日本の今日に於て、必要ではないと斷言出來ぬ。市浦氏が「常に現代の日本の文化の一部として、最も健全なそして最も美しい工作文化を生み出す事に努力しやうとして居る」と結論する所以であるであらう。

○

建築がその時代と別に存するものでないことは、今日わたくしどもが、日本の過去の建築を通じてその時代と文化を知る如くに、大建築の如何なるものも判底は時代的所產である

に過ぎぬ。この事は、獨り建築ばかりでない。一つ一つが創作であつて複製品と原版とを當格に區別する點に於て、建築と或種の共通を持つ浮世繪の（德川時代に發達して、嚴格にいへば、その時代に於てのみ終つた）短い發達及び衰亡史についても、これを認むることを得る。下剋上の時代に於て、古い文化は崩れて新らしい文化が未だ生まれざるとき、社會は最早、貴族藝術であるところの美術を以て、その鑑賞の目的とはせない。現實の社會に則するもの、桃山藝術を產むだ古典的繪畵は、時代風俗を描いた屏風、襖が代つて封建諸藩の室を裝飾したにとどまらず、元和偃武の庶民の生活安定は、資本階級の興隆を來たして、數寄屋建築がその內容に於ては、反つて上層階級に優るところの美術工藝を內包して、浮世繪前期の發達を遂げた。而して、大衆の向上は木版浮世繪を發生せしめ、異國風物の要求は、丸山應擧を長崎に學ばしめ、銅板には司馬江漢由善の出現を見、大御所時代の華美と白川樂翁公や水野越前守の肅正主義とは、廣重、北齋、歌麿等の浮世繪末期を盛衰せしめた。これに代つて、錦繪が幕末明治初期の變遷に時代的要求として起り、繪入新聞から現代の新聞雜誌に至るまで、いづれも、これ等藝術の一つ一つがその時代の政治、經濟、社會の反映でないものはない。況んや、建築がより以上に、人間の生活に則するものであるとすれば、これに支配されぬことはない譯である。

よつて、時代は英雄を作るの筆法からすれば、何も今日の建築家がヤキモキせずとも、この時代に出來る建築は自らに、その時代をあらはして、建築が自らに色を作すともいひ得るのである。しかし、上述の浮世繪についても知り得るやうに、時代は英雄をつくると同時に英雄が時代を作ることもうかがはれ得るのである。甲府から入つた好學將軍の政治が浮世繪の第1期に如何に影響したか、紀州から入つた貴公子將軍政治と白川樂翁公水野越前守の政治が如何なる影響を來たしたか、德川幕府の全時代を通じて、わが國の建築は、貴族藝術として日光の陽明門を以て代表せらる、細部的技藝に於てのみ人目を眩かす封建的建築が出現した一方、社會安定の下に新興階級が、その實力を內部的に發散する方向としての數寄屋建築が（大名旗本が武具旗印を飾つて端午を祝へば、民衆は鯉のぼりを以てこれに對抗するといふ風に、利休以來の御茶事を根底とする樣式が發達した。それが、上述の政治と社會情勢とによつて、1は不昧公等一連の大名的茶道が發達し1は平民文學としての俳句（花にうき世、我酒白し食黑し——芭蕉）と共に、蘆巴情緒を中心とする田園建築と櫛比連接する家屋に箱庭を娛しみ盆栽を愛好する都會建築とが生れた。しかも、都會建築は、東西の二大都たる政治と經濟の兩中心を繞つて、各々異つた生活と樣式を生んだ。而して、その都會的生活は、世期末雰圍氣の發散をつづけつつ、世は王政維新の一大政治社會變革を來し、前時代の文化に代はる外國文化の急進的輸入と模倣とを經て、東京の大震災を劃期として、わが國の建築は日本人の手によつて日本人の頭によつて作らるることとなつたのは、人の知るところである。時代は英雄を作るが、英雄の時代を作ることも、各時代にあらはれた名匠巨手の事蹟について考へれば容易に解し得ることで

ある。しかも、その英雄的なものの大きければ大きいほど　多い程その時代色を明らかにして、建築より工藝よりが高揚され、その時代的彩色を濃厚に示して居る。庶政の一新か或は非常時を叫ばれる今日の後に來るものが何であるか、建築に關する限り、矢張り建築家がこれを負ふものであらねばならぬ。然かも１人や２人の獨力的文化工作は問題たり得ない。協力的集團的の力によつて、大衆的にこれを作さなければならぬ。從つて責任は、建築家全體のものとしてこれをうけとらねばならぬこととなる。單に家を建てる丈ならば、斷じてこれは大工の仕事であつて、建築家と大工とは異る。

○

「日本の建築」といふ言葉は、これまでとても屢々繰り返されてゐる、先輩諸氏も本誌上に語るところもあり、わたくしも聊かそれについて述べたこともある。今それを繰り返そうとするものでない。

大震災前から設計に着手されて、昨年落成式を擧げ、今議會に華々しく（？）、二・二六事件後の言論を復活した議會として、日本の政治が議せられた帝國議事堂は、今日の日本の建築の雄偉なるものであるに相違ない。この時代の殿堂建築として正に後代に誇るべきものでもあらう。これに關與した、わが國建築の權威者の如何に心血を絞られたかは、本誌１月號に語られて、讀むものは感激ただ泣あるのみであつたと信ずるのであるが、また東京驛頭に聳ゆるガラスと鐵の明朗廳舍、東京郵便局の如きも、時代を代表する傑作であるであらう。その他本誌上に毎號掲げられる新建築、これまた當代建築の粋と稱すべきであらう。が、これ等が今日の民衆と民衆生活にピツタリと、一體を爲して居るものであるか否かは、多くの人の疑とするところであらうと思ふ。明日に約束される「日本建築」は他にあるのではないか。今日の民衆はこれに對して遊離して居るのではないだらうか。聚落の宏壯な建築は、當時の民衆が仰ぎ見て讃稱したと史家はいふが、豐臣氏が亡んでも聚落が喪はれても、民衆は別に悲しみも惜しみもせなかつたと思はれる。何故なれば共に民衆とは別個の存在であつたからである。

官僚は、統制の名の下に、仕切りとその官僚政治を強化しつつありといふ聲が、わたくしどもの耳に響く。滿洲がわが國々防の第一線であり、生命線であるとして、日滿同一色の建築が高唱せられ、東京九段下の軍人會館と滿洲の諸廳舍とは、類似樣式にあることもいはれる。日本現代の建築樣式とは、これに包容せらるるところのものであるであらうか。わたくしどもの社會生活の通則として、物に不滿を感じ不平のあるとき、そこに新なる生成と創造の生ずるのが常道である。大なる不滿と不平とは大なる生成と創造のあることも、略々常則である。何が今日の不滿であり不平であるかを知ることを得れば、これを充足するものも從つて知ることを得る。

今日世界の問題として、民族性と階級性が取扱はる。西班牙の内亂を中心として歐洲の天地に漲る陰雲の、この問題を中心とするものであることは何人も認むるところである。

わが國に於て、建築の問題として、萬國博覽會の建築についてもオリンピックの施設についても論ぜられて居ると聽く。國粹論者は現代建築の餘りにも國際的であるのに不平であるのであらうし、急進論者は餘りにも傳統的で因襲的であると喞つであらう。この二つの思想は、大きくいへば、いづれの時代にも相反目して對立し、この2重點の中心點が相聚つて一線を爲すところが社會の進行する方向であるといへる。しかし、2重點間の中心點は必ずしも常に相半ばするところに位置するものでないので、或は左に右に、時としては左へ行つたり右に傾いたり、中心點の相聚る線は直線を爲さないで、オカシナ曲線を描くこととなる場合もあり得る。斯る昏迷はその社會の不安全を示すものである。今日の建築が餘りに國際的であるとの非難は可なり聲高くこれを聽く。曾て東京に博覽會の開かれた折の如きは、一代の文豪幸田露伴氏までがそれを強く主張した。此一群の人々には、德川氏時代の藝術が全く地を拂つて無となる如くに感ぜられたであらう。しかし、わたくしをしていはしむれば、再考すべきことであると思ふ。前に浮世繪の例を引いたので、ここに浮世繪に關する評論家の一節を引用するならば「江戸趣味がなければ浮世繪の成立不能であると考へるならば、其等の人々は大いに其觸覺を伸ばすが良いと思ふ。現在も尙德川時代の浮世繪師が見たのと相似た藝妓も居れば、芝居もあるばかりでなく、あの時代よりも數倍乃至數十倍の內容ある民衆生活の種々相が展開して居る」といふ代はりに、建築もまた今日とでも江戸趣味の傳流は喪はれずにあるのである。ただに外貌に於て存するばかりでなく、民衆生活の內容に於てその種々相を認め得るのである。「浮世繪の精神は今日の時代にも尙存在して居るばかりでなく、其精神は永久に民衆と共にあるのであらう。從つて新しい時代には新らしい浮世繪が存在し得る。末期の浮世繪が最も雄辯にそれを物語つてくれると思ふ。何故なら最も烈しい戰ひの經驗を經たものは末期の浮世繪であり、其中には浮世繪の持つあらゆる問題が含まれて居るからである。現代の畵家はも一度靜に、浮世繪の生れた時代、華かだつた時代、奮鬪の時代、苦戰の時代等々を顧みて浮世繪のエッセンスを過去のあの畵業の中から絞り出して、現代にそれを生かせ益々ユニークなものを作り上げてほしい。西洋では陶器と版畵の趣味が最も高尙なものとされて居ると聞くが、新浮世繪は現代人の高く優れた趣味に適合したものであり度い」ともいふてゐる。わが國の傳統的建築精神は今日の時代にも尙存在して、永久に民衆と共にあつて、新しい時代の新らしい建築が存在して差支ない道理である。現代の建築が、わが國建築の時代と生き、華やかに、奮鬪し、苦戰した過去の業績から迸りいづる或者を新時代に生かすは勿論、西洋とてもまた西洋人とても、わが國建築の粹については、これを稱讃し研究しつつあるのであつて、新日本の建築の高く優れた趣味を創造すべきであることは當然である。

日本精神が高揚せらるる時、必ずやこれと、ともなふて神社崇敬のことが主張せらるる。メートル法實施がわが國粹に反するといふ運動にも、或建築權威者は大神宮御造營のことについて主張した。わたくしは、近頃、わたくしの鄉土神、香取神宮の古文書すなは

ち「香取文書」を閲みした折、はからずも、大宮司盛房が豊臣秀吉の家康に關東の地を營營せしむるによつて、家康の家臣がその所領として神宮領を没收したに對して、上言した大宮司盛房言上書を讀むで、「日本は神國也、日域無雙靈神、忽可有怠失者歟云々御寄進候者、只偏天地長久可地御禱外无他候、然者彌御繁榮不可有御疑候」の句を見て、最も至極の訴訟であると思つたのであるが、同じ大宮司清房が德川光圀の同文書跋文の「惟願長屏佛法之息。一興宗源之道。則神威日隆。社稷年昌。」の文句を眞正直に解釋して、元祿11年の神宮改造に神域內の愛染堂儒藏が接近しこのを憚し、これを造營個所の製圖から省いて差出したため、別當金剛寶寺から訴へられ、幕府社寺奉行の糺問にあふて「御吟味の上奸曲之仕方不屆被思召候」の判決の下に流浪し、光圀に身を寄することとなつた挿話は、日本の建築を考ふるについても、味はふべき、再吟味と深省とを示唆する事實であるやうに思はれる。

建築が藝術であるか否かの論を超越して、建築は生活に則すべきものであるとの主張から、工學だけあつて藝術のない日本の建築は見直さなければならぬといふ、前揭市浦氏の主張並びに運動は、大都市主義から農村主義へ急轉直下した近時日本の社會政治的思想をも見なければならぬといふ主張をもともなふ。農村主義の高唱される時代に於て、農村建築が高揚さるべきことは當然である。これについて、わたくしは、本誌上に曾て述べたことであり、その後わたくしの眼にふれた或建築家の文獻もあるのであるが、この方向への建築家の關心は未だ以て充分であるとは、わたくしには思はれない。

わが國の農村建築は、德川時代の封建制下にあつて、寺院建築と代官屋敷をめぐつて、名主豪農等のそれに模する建築の外に、所謂夕顔棚の下に夕涼みを稱嘆する——自然美を讃ふる以外に何物もない、恰かもその憐むべき被壓迫者の姿をあらはすものの如き建築があつた。それが明治以後に於て、代官屋敷は勿論これに模した豪農等の家も次第に喪はれて、下層農家のトタン葺の新家のみが目につく、古つぼけた一色のただゴツタ返した混雜の農村が都市の華美に對して存することとなつた。もう其處には自然の風景も簡易生活の素朴さとてもない。都市に於ける小住宅が顧みられなかつたと同樣に農村の住宅は建築の關心の外にあつた。しかるに、ここに電氣の農村進入といふことが、地方的工業分布の新らしい傾向となつた。農村は明るい生活を電燈と電力とに見んとした。社會問題政治問題また經濟問題として農村は流行兒となつた。電力國營の有難さが遞相賴母木氏の著「電力國營の急務」に說かるる。氏は序說に「現下我國の當面してゐる內外の情勢は、決して、尋常一樣な場合でないことは申すまでもない所で、現內閣が成立の當初聲明した如く『政府は徒らに舊慣に囚はるることなく、廣く內外の大勢を達觀して時世に適切なる改善を行はんことを期す』『其の是なりと信ずる所に向つては斷乎として邁進し敢て一時を糊塗して百年の大計を忘るるなからんことを期す』るのみである。私としては何よりも先づこの電氣の豐富低廉なる提供を確保するため根本たるべき方策を定むるといふことは、我國の

國情としても、人類永遠の福祉の上からも、絶對的の要求で、瞬時も躊躇を許さぬもの と確信する」とその大抱負大決心を述べ、次の章「庶政一新と電力國策」の第7項「農村に對する電氣の普及」に論じて、「暗き田舍を明るくし、ラヂオも響かせ、動力の本を授けることは、國家的に極めて必要な事であつて……兎に角よいと思ふことはどしどし試みることである。文句は後で聞くべきである。悪いのは何も出來もせぬ癖に唯人のする事に難癖ばかりつけることである」と絶叫してゐる。電力國營が農村生活を改新し農村生活の改善は當然にこれにともなふ農村建築の改善を來すことは順序である。が、ただ茲に、皮肉な觀方として建築家諸君からお叱りを蒙るかも知れぬが、何故これまで小住宅と農村の建築とが、わが國建築家諸君から顧みられなかつたといふ原因について美しくいへば叙上の社會情勢によるともいへるが、わたくしとしては、小住宅や農村住宅を扱つて居たのでは、資本主義體制の下に生活するわが國建築家諸君は、所謂 The iron constraint of ill-requited toil for more suboistense の惠まれない生活を餘義されるからであつたと思ふ。大ビルヂングの建築を作する建築家も小住宅と農村建築を作する建築家とが、報酬に於て相等しいものとなるのでなかつたならば、如何に小住宅の必要性が高唱せられ農村建築の必要が叫ばれても、實現は困難であらう。醫師なき村への醫療普及が社會問題であり國策の大問題であると同じく考慮される問題である、これについて、これもまた東京帝國大學新聞に載するところの岡正雄氏の「地を離れる哲學」にいふ「さて人間が社會的人間である限りその個人生活は社會的事情に依據すること言を俟たない。社會狀勢の大きな波は、たとへ科學者の靜かな生活にもどよめいて來る。しかし既に述べたやうに、科學者の場合にはその個人生活はそれをとりまく社會が如何なる事情にあらうとも物質的にも精神的にもいささかの擾亂をも許さない。失業者が巷に溢れて居やうと、自分は、自分だけは失業してはならない……非科學的な傳統に平氣で從つて居る。……今度は仕事が科學性を表失するといふ氣の毒な運命に彼等は逢着してゐるのである、勿論これは彼等だけに歸せしめ得る責任ではない。だが彼等とても自分たちが何故かかる自ら完全な意味に於ての責任を負ひ得ないやうな事態の間に、置かれてゐるか位の疑問は當然有たねばならぬのではないか」といふてゐることは、建築家諸君への提言でもあるといへる。

要するにわが國の建築の嚮ふべき方向は、已に定つて居るやうに、わたくしには思はれるのである。日本人の生活が佛蘭西人の生活をするのでない以上、佛蘭西の建築文化が如何に優れて居るものであつても、佛蘭西の建築がそのまま日本の建築たるべきでない。ムツソリニ氏やヒツトラー氏を要せない日本に、ファツシヨ建築そのまま受取らるる筈がない、況んやソウキート建築は尚更である。已に西洋人の建つる西洋建築も、またその模倣建築からも逸脫して、日本人の手によつて、日本の材料を以てする日本建築は作られて居る。日本人は幸にも、2000年前にその歷史を喪ふた支那と歷史を作りつつある亞米利人との間に位置して、その傳統を今日にも生活歷史として把握して居る。歷史なき國民の悲

裏、決意なき國民の憂鬱は、わが國としては無いところである。傳統と民衆の生活との合流點は、その建築の上にあらはされる精神であると同時に形成である。すなはち決論として、現代風俗畫に關する或論者のいふところの「現代の時々刻々進展して行く生活狀態、それと共に進展しある現代的氣分とを絶えず注意しつつ、その現代人心の傾向と歩調を一にしてこそ現代の風修は意義があるのである。其處には流行の一時的現象も見られやう。それらはまた後世に風俗の資料となつても殘るものであらう。とにかく現代の現代風俗描寫の風俗畫には洋々たる前途があることはたしかである」といふところのものを、風俗畫の代はりに建築或は建築家といふ字を以てしたならば、ピツタリと當てはまると考へる。尙或る人が東京の娘等を評して、美人もなく不美人もなくドレこれも相似たものに見へる、これは大量生産のしからしむるところであらうといふたが、わが國の建築の次に來るべきものの特色もまた、そうした類似性が擧げられると思ふ。

Hopper 窓 の 機 構

伊 藤 正 文

目 次

Ⅰ Hopper Inlet.
Ⅱ 目的と機能
Ⅲ 實際に就ての問題と處置
Ⅳ 實施の効果

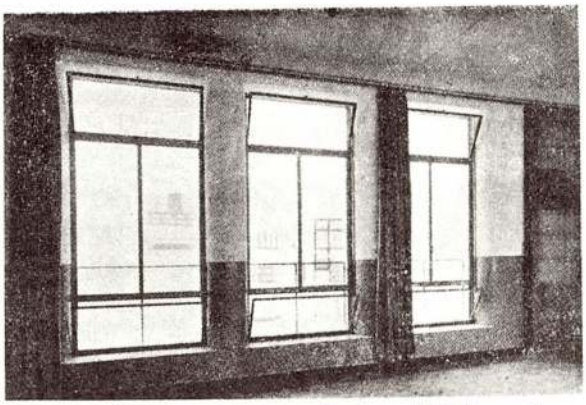
I. Hopper Inlet.

Hopper Inlet は直譯すると、「漏斗型給氣孔」といふ意味であるが、主として英國に於て Hopper Inlet と云はれるものは、窓の障子の一部が、上向きの漏斗型に內廻轉する裝置を云ふものである。

窓によつて自然換氣を行ふ場合、冬季寒冷の日、直接外界から給氣すると、在室者は忽ち賊風を浴びることとなるのは當然である。窓の上部に欄間を設けて之を開くとしても、溫暖な空氣が之から逸散し、室の部分によつては賊風を生ずる憂がある。こうゆう不都合を何とかして避け、しかも適度の通氣を行ふ方法として工夫されたものが此Hopper Inletである。

英國ではHopper Inletと云つてゐるがHopper ontlet の意味をももつもので、給氣排氣相對的關係に設備して初めて効果を擧げ得るものである。その意味からHopper Windowと云ふ言葉も用ひられてゐる。英國以外の諸國では、此障子を、換氣反射板、入氣反射板、轉向板といふ意味で云ひ現してゐるが、我國の建築學上未だ然るべき名稱が與へられてゐないので、爰には原語によつて Hopper窓として置く。けれども、その目的から呼ぶとすれば、「自然換氣調節窓」といふ意味が表はされたいものである。

Hopper Inlet が考察され、又實施されたのは1907年に、英國の建築家 F. Hutchings氏が、醫家 Ried 氏と協力して、stafford shire の Darleston の小學校に適用したのが始めで、豫想外の好結果を實證し得た處から、Widdow氏により Derby shire の學校にも採用され、South-on-sea の學校では、教室の開口部全般に Hopper を設け、出入口の扉のパネルまでも Hopper とし、教室配置を片廊下式とし、此廊下を Open Verandah として取扱ひ、充分な通氣を計つて成功した。以來、教室配置法が改變せられ、從來中廊下又は、中央ホール式のプランであつたもの(學校管理法の建前から)が、換氣衞生の見地から、世界諸都市小學校の現行の形式に向つて改良されるに到つたものである。故に、Hopper Inlet は、單獨に一つの窓構機としての施設でなく、適度の幅員を有する室の相對する壁面に一對として設けられ、しかも廊下を Verandah とする意味で、建築の平面の構成に迄



第1圖・歐米に於ける實例

影響を與へたものである。

其後、片廊下教室が採光並に換氣の上から有利であるとして各國に普遍されるに伴つて、Hoppet も漸次に採用されて行つたらしく思はれる。

最近になつて、Hopperが Sash の一形式として造られ、學校の教室以外の建築に應用され、Office Building の窓の下部等に多く見受けられる。けれども現在の事務室の窓に設けられてゐるものは、通氣に主要な目的があるのではなく、多くは、普通の上げ下げ窓を開いた場合に卓上の書類が風に逸散することを避ける意味で、夏日、風を通しながら書類の動搖に氣を配る必要がない様にと云ふ所から始められたものである。

勿論こうゆう意味合から設けられた Hopper も、或程度の効果を通氣に關して期待出來ぬものではないが、前に述べた様な在室者に對して可感的な氣流が當るか否かの點では、多くの難點が殘されることとなる。

最近では、歐米各國各都市の學校や寄宿舍の自然換氣法の施設として採用されてゐる例が多くなつた。極最近の2、3の實例を擧げて見ると、

Alger の Cher chell の幼稚園舍

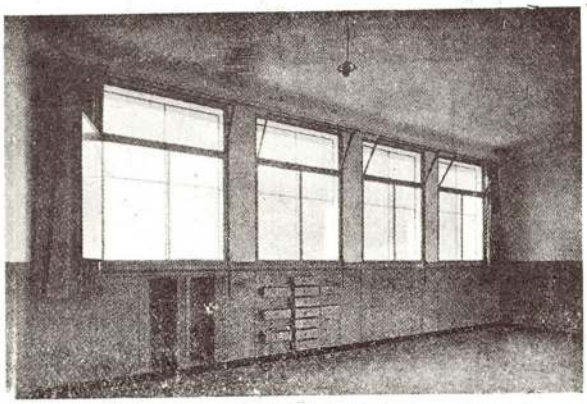
（M. H. Chis tofle 氏設計）

Zurich の幼稚園舍

（K. E. Hofmann 氏設計）

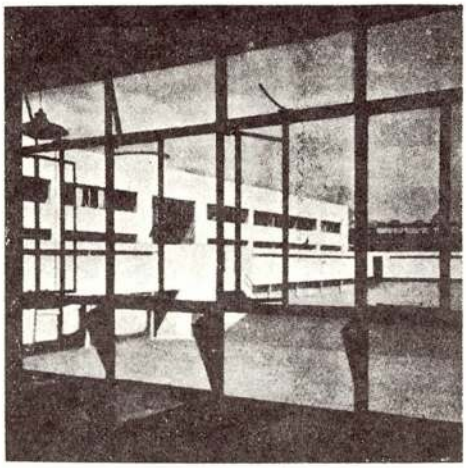
Brighton 郊外 Preston Park

Whittinghame Colledge 校舍等がある。我國の例としては、大阪市の天王寺第二小學校の昭和5年2月竣工の教室を初めとして現に十數校に及んでゐるもの、その他 Office Building に設けられてゐるもの等であるが、これ等は、換氣を主目的としたものでなかつたこと前述の通である。從つて室



第2圖・歐米に於ける實例

內氣流の調整方法として設けられたものは未だ我國に於ては實例が殆んどなかつたのであるが、たまたま大阪市小學校々舍の風水害復興の大量設計に當り、教室の自然換氣方策として Hopper 通氣法を採用することとし、現にその實施中である。



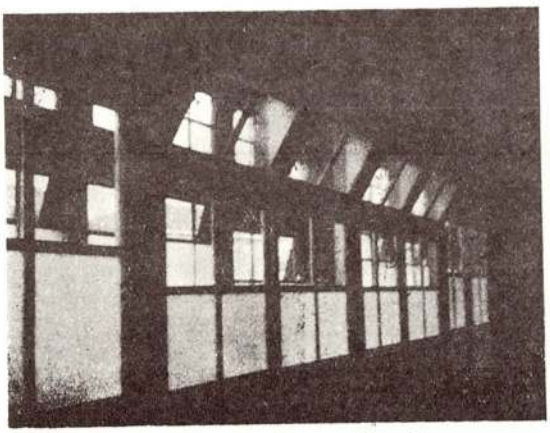
第３圖・歐米に於ける實例

II. 目的と機能

Hopper 窓の目的は、窓ばかりの自然換氣法で、冬季暖房時に於ても、之を開放し、賊風を感ぜずに、快適な狀態に於て作業することが出來る樣な通風を行ふことが第一、もう一つは、室內の何處も、なるべく平等な通風狀態にある樣にすることである。

先にも申した樣に、Hopper 以外の從來の窓機構では殆んど開放時の賊風を免れ得ないが爲に、高い欄間でも冬季には殆んど開かれることが稀になり、小學校等でも、餘程注意深い當事者のある場合にのみ10分間の休憩時間に窓を開いて換氣が行はれてゐる狀態である。此場合、室溫の損失は僅であるとは云へ、風雨の日等は、全く窓を閉して置かねばならぬ場合も多く、濕度が上ると共に通風がない爲に、一層不快感と臭氣とに覆はれることが常である。此點から考へると現在の窓の機構としては、Hopper が最も至當な方策であると考へられるとともに、その本來の目的を充分に達成する樣に取付け操作する方法は、土地の狀況と、經濟的關係、並に建物の用途によつて然るべく充分に考案されて然るべき問題であらうと思ふ。

Hopper 窓の機能は、定常なき外界の風が、Hopper 障子の面に添つて室內に流入し、此冷い氣流が室の上層部を流れて對側面の Hopper から流れ出ることに重點が置かれる。



第４圖・大阪の實例

但し、室溫が外氣溫よりも高き場合の氣動は流出する氣流が原因であつて、流入する氣流が結果であることは云ふ迄もない。

而して在室者によつて、發散さるる溫熱或は、暖房裝置によつて溫められた上昇する流が、天井面に近く流れてゐる冷い氣流と、室の上層部に於て混流し擴散するわけである。上層部を流れる主流は、室斷面の形によつて異るが大體に於てある撓み

を現しつゝ對側 Hopper から流出する。此時汚染空氣は流出する氣流に誘はれて幾分宛出て行く。從つて在室者に賊風を寒ぜしめずに換氣が出來、Hopper の配置方法と、開角度とによつては、室内の氣流が、平均した好適な條件を得ることが出來る理である。

英國の經驗によると、小學校の教室で、Hopper を設けて以來、生徒の健康がよくなり、感冒罹患率が特に減少したと報告されてゐるが、此機構による効果を窺ひ知ることが出來やうと思ふ。

Hopper による室内の氣動狀態については、教室の型式について模型實驗を行つた筆者の報告を參照されるならば幸である。*

III. 實際に就ての問題と處置

英國の小學校で實施した場合には、先づHopperの高さを重要視した。窓上部にHopperを設けると、冷い流入空氣は天井に直接當り直に下降して賊風となる恐れがあるとし、Hopper の top を床上5呎6吋に押へた。障子の高さは少くとも1呎以上、開角度は17度乃至23度程にしてゐる。

從つて Hopper の上下の位置は凡そ窓の最低部に當り、全開しても窓の懐に障子が納る様に設けられた。

米國に於ても、紐育換氣委員會、(N.Y.C.V.) の研究によると、同様の位置に Hopper を設けることを主張してゐる。但し英國の方法は、室の相對する壁面の窓に設け相方の外部は直接外氣に接することを原則とするが、紐育の方法としては、Hopper を Inlet に用ひ、排氣は室の對側に近く排氣筒による方針である。

即ち英國の方法は室内の氣流速度の均等なる分布を考へることとなり、紐育の指示によれば、流入氣流の賊風を考慮したる上は、他の壁面からダクトにより任意に排氣する方法であつて英國の如く相對する壁面と廊下に迄考慮を拂ふ必要を認めないこととなる。尙、紐育の委員會の指示による Hopper としては曲面轉向板がある。從來の Hopper は、平面の硝子障子であつたが、之に曲面を與へた裝置である。之によれば、流入氣流は全く上向するものであり、天井面に當つて擴散して後の氣動狀態は寧ろ甚だ複雜であると思はれる。

兩者共、窓臺下に暖房の放熱器を配置するものとしての考案であつて、その場合、窓低部の Hopper から流入する新鮮空氣は、窓臺下に於て暖められた濕氣の對流によつて上向を助けられ、且つ暖められ、甚だ有利である。

しかしながら爰に問題となることは、窓低部の Hopper は夏期に於て必要なる開口面の量を制限するといふことである。之については英國に於ても云はれてゐる處であるが、我國の如き、夏期濕度高く、他に比して高度の氣流速度を要求する土地にあつては、全く不

---

* 伊藤正文:「教室内氣流の模型實驗」建築學會論文集 3. 昭昭 11. 10.

都合な施設と化するは明である。蒸暑き夏の通氣を考慮する場合には窓低部に Hopper を設くることは策を得たるものではない。

又、無暖房時の換氣施設として、Hopper を窓低部に設くるならば、著者の實驗によれば、Hopper の top から生ずる入氣の渦巻が大となり、窓近い在室者に賊風を浴びせる憂がないでもない。同時に上層氣動の撓み下りが大きくなる傾向を持つこととなる。

更に又窓臺下の放熱器を設けない場合に於ても、上述の不都合を生ずることは考慮されねばならぬ問題である。

一方、氣流動態に關する著者の實驗の結果では、無暖房時の Hopper の位置としては大體普通の室では目通りの高さより稍上部に設けることが妥當であると考へられ、暖房時に於ても、勿論之によつて不都合を生ずるが如きことのないことを知つたので、要結する處、天井面に餘り接近せず、在室者が起立して目通の高さより高い位置を標準として差支ないと思ふ。

開角度は、最大30度を目標として施設すれば良いと思はれる。若し30度以上にも開く場合には、流入氣候は漸次水平の方向に近づき、整流によつてある方向を與へる機構の用を爲さぬこととなるからであり、餘りに小さい角度では、氣動が充分でないといふこと、20度前後ならば、斜に天井に向ひ、更に對側壁面へ流れる傾向を最もよく與へることが出來るといふ理由である。

構造法としては、爰に取立てて申すべき要點はないが、障子の兩側の耳板を要すること勿論であり、之によつて Hopper としての型式を具備する。若し之を取付けぬ場合は、兩側の間隙から賊風を生じ、却つて面白くない結果を呼ぶであらう。從來の實例に見て、耳板のない Hopper の型式は矢張り通氣の目的には即せず書類の逸散を防ぐ爲の施設としてのものであるに過ぎないこととなる。

操作法としては可及的簡單を良しとすること、之も申す迄もない。

IV. 實施の効果

上述の理由に基いて考案した Hopper 窓を、大阪市の小學校教室に實施する計畫に先立つて、假教室の二三に之を適用して見たが、之に關する學校當事者の數ケ月間に於ける使用上の經驗から得た主觀的報告につき、非常に興味をもつことが出來る。

昨秋11月以來、窓を締切り、Hopperのみは30度に全開し、寒冷の日も之を開いたまゝであるが、先づ從來の教室内の様に、一種の臭氣を全く感じない。石炭ストーヴを設けぬ期間、丁度11月末から12月初旬の比較的外氣溫の低い日でも、教室内に居て寒さや風を感じない。概括した處、從來の教室よりも非常に快適であるといふことであつた。

又之につき、衞生學的な測定吟味を行つた結果も、氣流分布の均等比較的可良であり、外風速、外界溫度の變化に對して、室内に於ける濕力タ冷却力は比較的變化なく、快適狀態を保つことを認めることが出來る。

之は一つの應用實例であるが、Hopper の實施によつて、作業環境の改善を得られる様な建築は學校の他に多々あると思ふ。

例へば、工場、病院、宿泊所等の場合の如き、更に有効なる自然換氣の方策として役立つものではなからうか。(12年2月12日)

熔接接手の強度計算

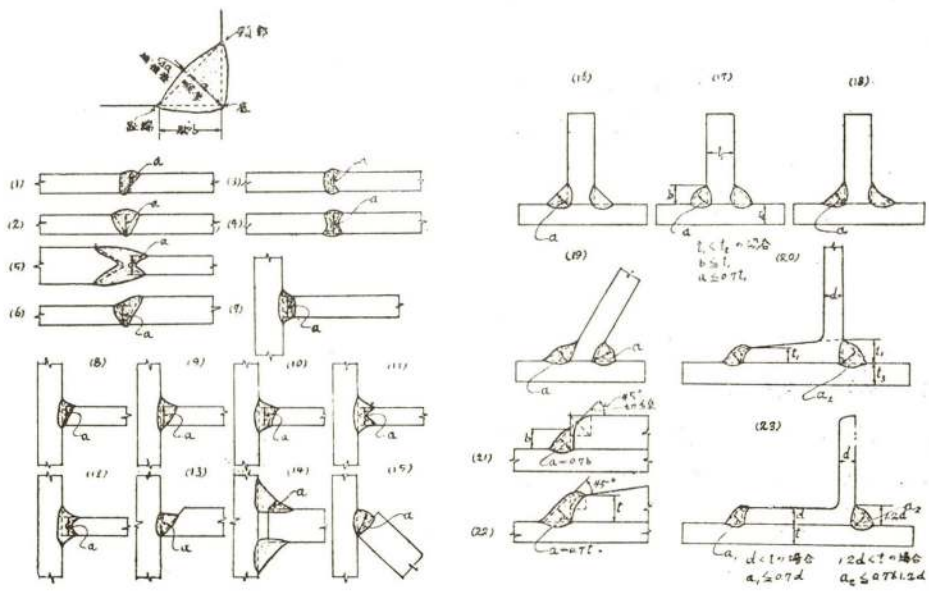
淺野新一

雜誌の性質上本文の様に講義めいたものを澤山載せて頂くのは憚られますので極く掻いつまんで從つて分類も充分盡す事なく熔接接手の實用強度計算の原理だけを、初心の方々を目當てに御紹介申し上げます。

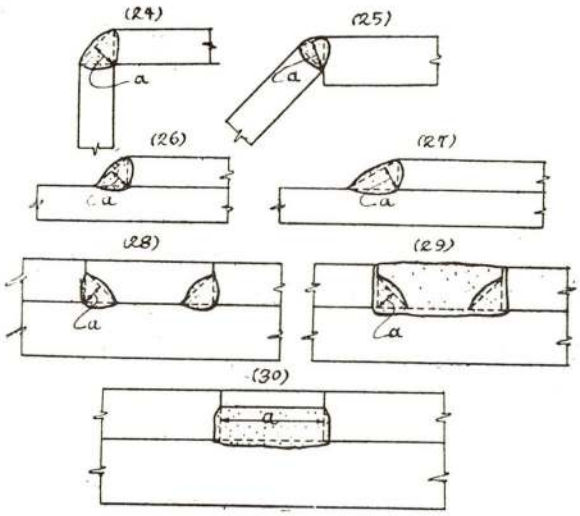
〔I〕豫備知識

(1) 喉厚の採り方[1]

喉厚と云ふのは第1圖に示す如く熔接部斷面に於て、底を通ずる直線に沿つて測られた補強盛厚を含まない熔接部の最小厚であつて、種々の熔接接手に對するその具體的な採り方は第1圖に示す通りである。(1) 乃至(13)は衝合熔接を用ひて構成せる種々の接手を示す。その中 (7)乃至(13)はその形狀によりT接手と呼ばれる事もある。又(14)乃至(29)は隅肉熔接を用ひて構成せる種々の接手を示す。その中(14)及(16)乃至(18)はその形狀によりT接手と呼ばれる事もあり、又(15)及(24)乃至(25)は熔接部が母材によつて造られる角形の角に當るので角接手と呼ばれる事もある。尙(28)は溝の內側の隅角を熔接してあるので溝熔接とも呼ばれ、(29)は(28)に於ける溝の部分を母材と同一面となる迄金屬で填充し



第 1 圖



第 1 圖 の 2

となるし急冷による柱狀組織(硬くて脆い)にも豐むから此の部分は接手の強度計算に於ては有効でないと看做す。又熔接の終りの點即ち終端には所謂壺と稱する凹所が出來、此の部分は斷面寸法が著しく小となるので之亦強度上有効ではないと看做す。從つて強度計算上有効と看做す熔接部の長さ即ち有効長さは實際の長さから始端及壺の部分を控除した殘りの長さである。而して始端及壺の長さとしては普通何れも當該熔接部の有効部分の喉厚に等しいと假定する。それ故之を式で表せば、

$$l = L - 2a$$

茲に l: 有効長

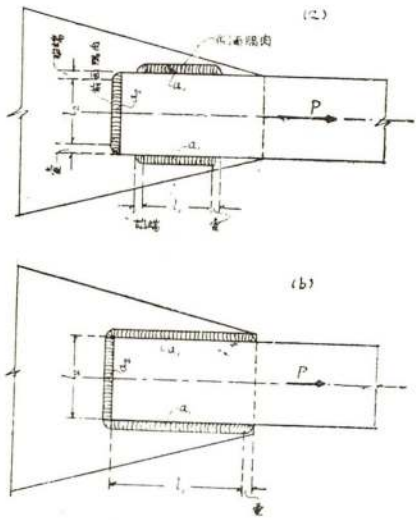
L: 實際長

a: 喉　厚

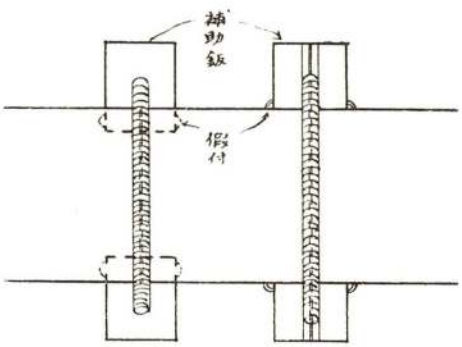
となる。(第2圖參照)但し始端及終端を仕上によつて實際に除いた場合は、勿論仕上後殘る實際の熔接長を、又第3圖の如く熔接に際して喉厚以上の幅の別の材片を添置し、此の材片から熔接を開始してもう一つの同樣の材片に至つて止め、熔接終了後此等の添置せる材片を取り除いて了ふ場合、又は材側に充分た場合を示す。最後に(30)は母材の一方に孔を貫通させ、之を他の母材に重ね、孔に金屬を、下の母材に熔け込む如く熔融填充せるもので、恰も栓を挿した如きものであるから栓熔接と呼ばれる。

(2) 長さの採り方[2]

隅肉熔接に於ても衝合熔接に於ても、熔接の始りの點即ち始端に於ては熔け込みが不十分となり勝であるし又斷面寸法も小

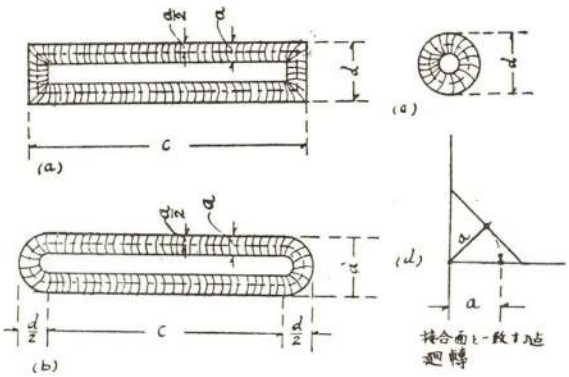


第 2 圖



第 3 圖

食み出す様に熔接し、始端及終端が材側に生じる様にした場合は材幅の全體を有効長さとする。尙溝熔接に於て、溝の周邊を連續熔接にて熔接が完全に閉鎖する如く接合する時は、有効長さとして第4圖に示す如く幅喉厚に等しと假定せる有効接合面の中心線の長さを採る。從つて同圖の



第　4　圖

（a）に於ては、
$l=2(c+d-2a)$
（b）に於ては、
$l=2c+(d-a)\pi$
（c）に於ては、
$l=(d-a)\pi$
となる。

（3） 設計用應力の採り方[3)]

一般に構造物の設計に用ふる應力としては、鉛直荷重に因る應力と、地震風其の他の原因に因る水平力に基づく應力の中最大なるものとの和の中、正及負の絶對値最大なるものを採る。即ち今特定の接手の自重に因る應力を S_d にて、動荷重の種々なる配置に對する應力の中自重に因る應力と同符號となるべきものを S_l にて、異符號となるべきものを S_l' にて、水平力に因る應力を S_h にて表し、此等は總て絶對値を表すとすれば、符號をも考へた設計用應力 S は次の様になる。（Sは勿論モーメント、軸方向應力又は剪斷應力を表す）

（a）自重に因る應力が正の場合

（i） $S_d \geqq \max S_l' + \max S_h$ の場合

$$S = S_d + \max S_l + \max S_h$$

（ii） $S_d < \max S_l' + \max S_h$ の場合

$$S_1 = S_d + \max S^l + \max S_h$$

及

$$S_2 = S_d - \max S_l' - \max S_h$$

（b）自重に因る應力が負の場合

（i） $S_d \geqq \max S_l' + \max S_h$ の場合

$$S = -S_d - \max S_l - \max S_h$$

（ii） $S_d < \max S_l' + \max S_h$ の場合

$$S_1 = -S_d - \max S_l - \max S_h$$

及

$$S_2 = -S_d + \max S_l' + \max S_h$$

唯常時著しく振動を受ける如き特殊の建築物や、橋梁、クレーン、クレーンガーダー等の如く動力學的な荷重を受けるものでは接手の疲れを考慮し次の如きものを採る。但し移動荷重又は衝撃荷重に因る應力の中自重に因る應力と同符號となるべきものを S_t にて、異符號となるべきものを S_t' にて表す。

（a）自重に因る應力が正の場合

$$\max S = S_d + \max S_l + \varphi \max S_t + \max S_h$$

$$\min S = S_d - \max S_l' - \varphi \max S_t' - \max S_h$$

$$S = \gamma \max S$$

（b）自重に因る應力が負の場合

$$\max S = -S_d - \max S_l - \varphi \max S_t - \max S_h$$

$$\min S = -S_d + \max S_l' + \varphi \max S_t' + \max S_h$$

$$S = \gamma \max S$$

茲に φ は衝撃係數を、γ は疲れ係數を表す。其の値は橋梁に於ては次の如く採る。

衝 撃 係 數

道路橋（DIN 1073）

$L_{(m)}$ 迄	5	10	20	30
φ	1.40	1.39	1.37	1.36
$L_{(m)}$ 迄	40	50	60	70
φ	1.34	1.33	1.31	1.30
$L_{(m)}$ 迄	80	90	100	110
φ	1.28	1.27	1.25	1.24
$L_{(m)}$ 迄	120	130	140	150
φ	1.22	1.21	1.19	1.18
$L_{(m)}$ 迄	160	170	180	190
φ	1.16	1.15	1.13	1.12
$L_{(m)}$ 迄	200			
φ	1.10			

純人道橋の主桁に對しては任意のスパンに對して $\varphi = 1.40$ 支持臺、基礎、及地耐力等に對しては $\varphi = 0$

茲に L はスパンを表す。以下之に準ず。

道路橋（F. Bleich）

$L_{(m)}$ 迄	2	4	6	10
φ	1.50	1.37	1.31	1.24
$L_{(m)}$ 迄	15	20	25	50
φ	1.22	1.21	1.19	1.16
$L_{(m)}$ 迄	100	150		
φ	1.13	1.10		

鐵道橋（B. E）

スパン L (m)	枕木式構造 $\varphi=1.11+\frac{56}{l+144}$	桁床式構造 $\varphi=1.00+\frac{60}{l+150}$
0.5	1.50	1.40
1	1.50	1.40
2	1.49	1.39
3	1.49	1.39
4	1.49	1.39
5	1.49	1.39
6	1.48	1.38
7	1.48	1.38
8	1.48	1.38
9	1.48	1.38
10	1.47	1.38
12	1.47	1.37
14	1.46	1.37
16	1.46	1.36
18	1.46	1.36
20	1.45	1.35
22	1.45	1.35
24	1.44	1.34
26	1.44	1.44
28	1.44	1.44
30	1.43	1.43
35	1.42	1.42
40	1.41	1.41
45	1.41	1.41
50	1.40	1.30
60	1.39	1.29
70	1.37	1.27
80	1.36	1.26
90	1.35	1.25
100	1.34	1.24
110	1.33	1.23
120	1.32	1.22
130	1.31	1.21
140	1.30	1.21
150以上	1.30	1.20

本表は繼目を熔接せる又は繼目無しの、レールを併用せる鐵道にのみ適用する。
l の中間値に對しては φ は大なる方の値をとる。

疲 れ 係 數

鐵道橋（Vorläufige Vorschriften für geschweisste, vollwandige Eisenbahnbrücken der Deutschen Reichsbahn-Gesellschaft）

$\frac{\min S}{\max S}$	St37 $\gamma=1.0-0.3\frac{\min S}{\max S}$	St52 交通頻繁なる場合（毎日25列車を超ゆる場合）交番域 $\gamma=1.235-0.709\frac{\min S}{\max S}$ 非交番域 $\gamma=1.235-1.237\frac{\min S}{\max S}$ （$\frac{\min S}{\max S}\leqq 0.19$迄有効）	St52 交通頻繁ならざる場合（毎日25列車迄の場合）交番域 $\gamma=1.105-0.645\frac{\min S}{\max S}$ 非交番域 $\gamma=1.105-1.102\frac{\min S}{\max S}$ （$\frac{\min S}{\max S}\leqq 0.095$迄有効）（主務官廳の許可を得たる場合のみ使用する事を得）
−1.0	1.30	1.944	1.750
−0.9	1.27	1.873	1.686
−0.8	1.24	1.802	1.621
−0.7	1.21	1.731	1.557
−0.6	1.18	1.660	1.492
−0.5	1.15	1.590	1.428

−0.4	1.12	1.519	1.363
−0.3	1.09	1.448	1.299
−0.2	1.06	1.377	1.234
−0.1	1.03	1.306	1.170
0	1.00	1.235	1.105
+0.095			1.000
+0.10		1.111	
+0.19		1.000	
+0.2			
+0.3			
+0.4	1.00		
+0.5			1.000
+0.6		1.00	
+0.7			
+0.8			
+0.9			
+1.0			

道路橋（Vorläufige Vorschriften für vollwandige geschweisste Strassenbrücken der Deutschen Reichsbahn und der Reichsautobahnen）

主桁に對する疲れ係數

$\frac{\min S}{\max S}$	St37 $\gamma = 1.0 - 0.2\frac{\min S}{\max S}$	St52 $\gamma = 1.04 - 0.46\frac{\min S}{\max S}$	0	1.00	1.040
			+0.087		1.000
−1.0	1.20	1.500	+0.1		
−0.9	1.18	1.454	+0.2		
−0.8	1.16	1.408	+0.3		
−0.7	1.14	1.362	+0.4	1.00	
−0.6	1.12	1.316	+0.5		1.000
−0.5	1.10	1.270	+0.6		
−0.4	1.08	1.224	+0.7		
−0.3	1.06	1.178	+0.8		
−0.2	1.04	1.132	+0.9		
−0.1	1.02	1.086	+1.0		

但し St37 及 St52 は夫々次の如き規格に從ふ構造用鋼材である。

St37

組　成　%	C	Mn	P	S
	0.10～0.16	0.50	<0.05	<0.05

力學的性質	降伏點 kg/cm²	引張强度 kg/cm²	伸　率　%
	2400～2800	3700～4200	20～30

St52

組成	C	S	P	S+P	Cu
厚 18mm 迄	≦ 0.18	≦ 0.06	≦ 0.06	≦ 0.1	≧ 0.25
厚 18mm を超ゆるもの	≦ 0.25				

力學的性質	降伏點 kg/mm²	引張強度 kg/mm²	伸率 %
丸鋼及小形鋼	≧ 36	≧ 50	≧20(大型試驗片) ≧24(小型試驗片)
壓延鋼材		52～62	
棒鋼	≧ 35	52～64	≧20(大型試驗片) ≧24(小型試驗片)
ボールト鋼		52～62	≧20(大型試驗片) ≧24(小型試驗片)

但し 大型試驗片のゲーヂレングスは 200mm
小型試驗片のゲーヂレングスは 100mm

我國の構造用鋼材（JES 20）は St37 と酷似してゐるから建築に於ては疲れ係數としては St37 のものを用ひれば宜いであらう。但し建築に於て主として問題になるのはクレーンガーダー位のものである。

(4) 許容應力度

熔接部の許容應力度は安全率を一定範圍に採るも、工事に從事せしむべき熔接手の技倆、從つて熔接手技倆檢定試驗規定の內容、電極棒及母材の品質、接手の種類並に應力度及載荷の、種類をも併せ考へなければ定らない。獨逸に於ては構造係數（Konstruktionsziffer）と稱する一種の接手の效率を表す係數を定めて鋼材の種類、接手の種類、應力度及載荷の種類に應じ母材の許容强度に此の係數を乘ずる事により許容强度を見出す方式を採つてゐる。之は最も合理的な方法ではあるが獨逸の樣に使用鋼材の品質や强度計算の方法に應じて異る許容强度を採り得る樣な Elastic な法規の適用を受ける所に於て特に其の特長を發揮するものであつて我國の樣に如何に優秀な鋼材を使用しても一定の低い許容强度に從はなければならない樣な法規の適用を受ける國に在つては徒らに煩雜を來すのみであるから適當な方法とは云へない。それ故大阪府の建築課に於ては同課施行の建築熔接手技倆檢定試驗の規定と熔接の特性とを併せ考慮し現在に於て最も適當なりと考へられる許容應力度として次表の如く熔接形式、應力度種別、及工場熔接なるか現場熔接なるかに應じて一定値を定めてゐる。之は偶然にも東京に於ける熔接研究會に於て發表せるものと實質に於て殆ど變つてゐない。

熔接形式	應力度種別	工場熔接	現場熔接
各種隅肉熔接	各種應力度 ρ_{allow}	700 kg/cm²	600 kg/cm²
衝合熔接	引張應力度 $t\rho_{allow}$	800 〃	700 〃
	壓縮應力度 $c\rho_{allow}$	900 〃	800 〃
	剪斷應力度 $s\rho_{allow}$	700 〃	600 〃

但し隅肉熔接に於ては、隅肉斷面の爲す三角形の鋼板に沿ふ二邊により成る頂點の內角は 70° 以上なる事を要する。

又同一接手に衝合熔接と隅肉熔接とを併用する場合は衝合熔接部の許容應力度も隅肉熔接の許容應力度並としなければならない事は申す迄もない。

〔II〕 接手の强度計算原理[4]

(1) 靜力學的載荷を受ける材の接手

(i) 軸方向力を受ける材の接手

熔接部に生ずる應力を ρ で表せば

$$\rho=\frac{N}{\Sigma(a\cdot l)}\leqq {}_t\rho_{\text{allow}} \text{ 又は } {}_c\rho_{\text{allow}} \text{ 又は } \rho_{\text{allow}}$$

となる樣設計する。茲に

N: 熔接接手を通じて傳達される材の設計用軸方向力

a: 熔接部の喉厚

等脚隅肉の場合は脚長を b とすれば

$$a=\frac{b}{\sqrt{2}}\fallingdotseq 0.7b$$

Σ: 問題の接手の熔接部全體に亘つて summation を施す事を意味する。

${}_t\rho_{\text{allow}}$: 衝合熔接部の許容引張應力度

${}_c\rho_{\text{allow}}$: 衝合熔接部の許容壓縮應力度

ρ_{allow}: 隅肉熔接部の許容應力度

但し壓縮力を受ける材の繼手を爲す衝合熔接接手に於ては、

$$\rho=\frac{N}{\{\Sigma(a\cdot l)\}\left(1-c\frac{l_k}{r_{\min}}\right)}\leqq {}_c\rho_{\text{allow}}$$

となる樣設計する。茲に

c: 挫屈係數

l_k: 挫屈長

$r_{\min}$: 斷面の最小廻轉半徑

(ii) 剪斷力を受ける材の接手

$$\rho=\frac{Q}{\Sigma_s(a\cdot l)}\leqq {}_s\rho_{\text{allow}} \text{ 又は } \rho_{\text{allow}}$$

となる樣設計する。茲に

Q: 熔接部を通じて傳達される材の設計用剪斷力

Σ_s: 斷面の中主として剪斷力を負擔する部分の熔接部のみに亘つて summation を施す事を意味する。從つて I. [の如き形の斷面に於ては web に位する熔接部のみに亘り summation を施す事を意味する。

但し矩形斷面の材の衝合接手及圓形、環形等の斷面を爲す材の接手に於ては

$$\rho=\alpha\cdot\frac{Q}{\Sigma(a\cdot l)}\leqq {}^{s}\rho_{\text{allow}} \text{ 又は } \rho_{\text{allow}}$$

となる様設計する。茲に

α: 斷面の形による係數で

矩形の場合は 3/2

圓形の場合は 4/3

環形の場合は 2

を採る。

Σ: 熔接部の全斷面に亘り summation を施す事を意味する。

(iii) 曲げモーメントと剪斷力と軸方向力とを受ける材の接手

(a) 隅肉熔接の場合

$$\rho_1=\frac{M}{W}$$

$$\rho_2=\frac{Q}{\Sigma_s(a\cdot l)}$$

$$\rho_3=\frac{N}{\Sigma(a\cdot l)}$$

$$\rho=\sqrt{(\rho_1+\rho_3)^2+\rho_2^2}\quad\leqq\rho_{\text{allow}}$$

となる様設計する。茲に

W: 幅 a 長 l なる熔接部の有効斷面群の中軸の周りの斷面係數

(b) 衝合熔接の場合

$$\rho_2=\frac{Q}{\Sigma_s(a\cdot l)}\leqq {}_{s}\rho_{\text{allow}}$$

なる事を確めたる上、

$$\rho_1'=\frac{M}{W_s}\qquad\rho_1=\frac{M}{W}$$

$$\rho_s=\frac{N}{\Sigma(a\cdot l)}$$

$$\rho=\frac{\rho_1'+\rho_3}{2}+\frac{1}{2}\sqrt{(\rho_1'+\rho_s)^2+4\rho_2^2}\leqq {}_{t}\rho_{\text{allow}} \text{ 又は } {}_{c}\rho_{\text{allow}}$$

及 $\rho'=\rho_1+\rho_3\leqq {}^{c}\rho_{\text{allow}}$

となる様設計する。茲に

W_s: 主として剪斷力を負擔する斷面部分の全斷面の中軸に關する斷面係數、從つて I 型又は [型等の斷面に於ては夫々の全斷面の中軸の周りの斷面二次モーメント J を該中軸より web の端に至る距離の中大なるものにて除したもの

特に壓縮力を受ける材の繼手に於ては

$$\rho_2=\frac{Q}{\Sigma_s(a\cdot l)}\leqq {}_{s}\rho_{\text{allow}}$$

なる事を確めたる上、

$$\rho_1' = \frac{M}{W_s} \qquad \rho_1 = \frac{M}{W}$$

$$\rho_3 = \frac{N}{\{\Sigma(a \cdot l)\}\left(1 - c\frac{l_k}{r_{\min}}\right)}$$

$$\rho = \frac{\rho_1' + \rho_3}{2} + \frac{1}{2}\sqrt{(\rho_1' + \rho_3)^2 + 4\rho_2^2} \leqq {}_c\rho_{\text{allow}}$$

及 $\rho' = \rho_1 + \rho_3 \leqq {}_c\rho_{\text{allow}}$

となる様設計する。

（iv）捩りモーメントと剪斷力とを受ける材の接手

$$\rho_1'' = \frac{M_d}{W_p} \leqq {}_s\rho_{\text{allow}} \text{ 又は } \rho_{\text{allow}}$$

なる事を確めたる上

$$\rho_{1v}''' = \frac{M_d}{J_p} \cdot e_h$$

$$\rho_{1h}''' = \frac{M_d}{J_p} \cdot e_v$$

$$\rho_2 = \frac{Q}{\Sigma_s(a \cdot l)}$$

$$\rho = \sqrt{(\rho_{1v}''' + \rho_2)^2 + \rho_{1h}'''^2} \leqq {}_s\rho_{\text{allow}} \text{ 又は } \rho_{\text{allow}}$$

となる様設計する。茲に

M_d: 熔接部を通じて傳達される材の捩りモーメント

W_p: 熔接部全斷面の重心の周りの極斷面係數

J_p: 熔接部の全斷面の重心の周りの極斷面二次モートント

e_h: 主として剪斷力を負擔する斷面部分の同上極より最遠隔の點迄の距離の水平主軸の方向の成分

e_v: 同上鉛直主軸の方向の成分

特に矩形斷面の材の衝合接手及圓形、環形等の斷面を爲す材の接手に於ては

$$\rho_2 = \alpha \cdot \frac{Q}{\Sigma(a \cdot l)}$$

$$\rho''' = \beta \cdot M_d$$

$$\rho = \rho_2 + \rho''' \leqq {}_s\rho_{\text{allow}} \text{ 又は } \rho_{\text{allow}}$$

となる様設計する。茲に

β: 斷面の形による係數

矩形の場合は $\frac{\psi}{b^2 h}$

$$\psi = 3 + \frac{2.6}{0.45 + \frac{h}{b}}$$

但し b 及 h は夫々矩形の幅及高さを表す。

圓形の場合は $\frac{16}{\pi d^3}$

但し d は圓の直徑を表す。

環形の場合は $\frac{16d}{\pi(d^4-d_0^4)}$

但し d_0 は環の內法直徑を表す。

(2) 繰り返し載荷を受ける材の接手

此の場合は唯設計用應力を〔I〕(3) に記述せる如く採る以外は靜力學的載荷を受ける材の接手に於けると同樣に計算すれば宜い。

註

1) DIN 4100 及米國熔接協會制定 Code for Fusion Welding and Gas Cutting in Building Construction の規定に依る。

2) DIN 4100 に依る。

3) DIN 4100 及 Vorläufige Vorschriften für geschweisste,vollwandige Eisenbahnbrücken der Deutschen Reichsbahn-Gesellschaft 及 Vorläufige Vorschriften für vollwandige geschweisste strassenbrücken der Deutschen Reichsbahn und der Reichsautobahnen に依る。

繰り返し載荷を受ける接手の設計用應力については DIN 4100 第2版迄あつた橋梁に關する規定をは採らない事にした。

4) 主として 3) に揭げた文獻に依つた他 O. Kommerell 著 Erläuterungen zu den Vorschriften für geschweisste stahlbanten I Teil 及 II Teil 及 Alfred Gregor 著 Der Praktische stahlhochbau 第4卷 Geschweisste stahlbauten 及 Stahlbau-Kalender, 1937 年版及 C. Bach, R. Baumann 共著 Elastizität und Festigkeit を參考にした。

軸方向力、剪斷力及曲げモーメントは總て同一面內に在り且斷面の主軸を含む面內に在る場合のみについて述べる事とした。

茶　室　(1)

——一心寺の茶室——

澤島英太郎

序

我國民の氣質が傳統的に富膽・濃厚・虛飾・誇張を好まないで、簡潔・淡泊・明朗・洗鍊・純眞・平靜といつた言葉で表はされる様なものを愛する事には古くも今も變りはないであらう。かゝる傳統的な氣質に基づき、高度の洗鍊を經て、高い文化的な水準に達したものを、建築の領域に於ては、例へば傑出せる茶室建築等に端的に認める事が出來やう。

然し乍ら、現代に於て古典的な「茶室」そのものを建てること其れ自體は、極めて限られた一部の人士の「道樂の範圍」に過ぎぬかも知れぬ。また數寄屋風な意匠細部の現代建築への轉用や、「古來繼承の個有日本的なるものゝ盲目的排他的尊重」は本誌新年號に大倉三郎氏も心配された様に「結局純日本的なるものの沈滯、死滅を來すに等しいもの」であるかも知れぬのである。

然し我々が茶室に求めるのは表面の形の問題でない。その背景をなす思想である。其處から不朽の哲理を攝むことにある。我々の周圍や、手近にある過去のかゝる作品に對し、正しい觀賞と冷利な批判の瞳を注いで、さうした簡素・瀟洒・幽玄なるものの中から美を抽象し、眞に傑れた「日本的なるもの」への感得を早め、新しい時代の工作文化の根底となる思潮をより高める事に役立てたい事に趣意が存する。

かゝる感得を基調としてこそ、「外國的なるもの」の自由攝取を原動として、眞の新らしい「日本的なるもの」への蘇生を俟つ事が出來、生氣ある展開を豫想しする事ができると思ふのである。東京朝日に載せられたブルーノ・タウト博士の手記「日本の綜合的印象」に「西洋の文化財吸收はすくなくとも技術と科學に關する限りでなければいけない。眞に文化的なるもの、すなはち藝術、倫理の領域に關しては自分の考へでは、あらゆる西洋的な影響から離れて固有の立派な文化の淵源を堀らねばならない。これによつて日本の近代的な文化は更に發展する」と結んで、簡單と簡素（Schlicht und Einfach）の法則は日本文化、日本藝術、日本工藝にとつての最高の美的法則であると信ずる旨を強調してゐる。その言は寔適切であると思ふ。

昨年の新春、東京麻布の三井男爵邸にある如庵（織田有樂好の茶室）へ、調査の要務で

堀口捨己氏と共に行つた時、靜かに茶室の躙口を開いて、室内を眺めた時言葉や文字で表現し難い凛然とした端正さと、幽玄な席内の雰圍氣に強く心打たれた事があつた。そして其時堀口さんから「自分が茶室に眞の傑れたる建築の美を感得し、それを極め様とした抑の動機は、この如庵の席を見て心惹かれて以來だ。」と伺つて、成程と感心した事があつた。さうして何よりもやはり本格的な傑れたものを見る事が大切だといふ事をつくづく感じたのである。

扨て國寶保存法なる法律を以て行はれてゐる古建築の保存が、其物の單なる維持修理のみを目的とせるやに誤解されてゐるのは遺憾である。勿論維持修理に依る永久保存は重要であるが、文化財としての眞の價値を顯彰、高揚せんとする事にも多大の意圖が存する事を知らねばならぬ。其事に從ふ局の一員としての立場から、また上述した様な意味に於て、大阪市及び其近郊の茶室等に就て、本誌上を折々出來ればお借りして、日曜祭日等を利し、見學される方の御參考ともし、またかゝる建築の史的價値やその特徴を述べる事も徒爾では無からうと思つて筆を取つた。

茲に述べやうとする一心寺の茶室は國寶でも何でもないが、相當名は知られてゐる。しかし傑れたものとはいへないので、最初にかゝげるのにはふさはしからぬかも知れぬ。然し研究すべき問題を含んでゐるのと、手許にノートがあるので、これに就て先づ述べる事としたい。

1　一心寺の茶室と寺傳其他

大阪市の天王寺區逢坂上ノ町、四天王寺の西門から西へ三町許りの所に、一心寺といふ淨土宗の寺院があつて、此處に小堀遠州好と傳ふる「八窓の茶室」が、境内庫裡の西方奥まつた所、八疊二間續きの簡素な書院の主室の南側に接して南面して建つてゐる。

遠州の作品で大阪市内に遺る茶室といふので注目を惹き、大分前からお茶人達の間では評判ものであつたらしい。例へば名古屋の著名な「猿面の茶室」に掲げられてゐる小田切春江氏識の扁額には、猿面′茶室の由來を述べた次に、

日本三茶席（一ハ大和國奈良春日六窓庵茶席今東京博物館ニ移サル、一ハ攝津國大阪府下一心寺ナル八ツ窓ノ茶席、一ハ猿面茶室ナリ）……云々

とあり、明治初年には數寄者の間に相當の名席と看做されてゐた事が此處から窺はれるのである。

然し乍ら自分としてはこの一心寺の茶室のできた年代や、遠州好といふ傳承や、建築の時代に不審を持つてゐるので、以下忌憚なく所見を述べて見たいと思ふ。

名稱は八窓の茶室であるが窓の數は八つはない。八窓の茶室と呼ばれるものは隨分他にも例がある。また八つ窓がなくてさう呼ばれてゐるものに、京都南禪寺塔頭金地院に國寶

の遠州好の八窓の茶室があるので、この名はさう今は問題とならぬ。

此茶室の由緒沿革に就ては、寺傳を調べるのに、明治卅六年三月版の同寺茶室掛の識せる「八つ窓茶室の記」に依ると、

「八窓茶室は樂山洞と稱へ三方明りの數寄屋にて世に夜話の席、勝利の席ともいふ。これは東照公の台命により茶伯小堀遠江守政一の好まれたるものにて當山の庭木をきりて主材とし、しかも風流を一室にあつめられたり。その樂山洞の額面は遠州の自筆にて、裏に政一三十四依台命造之君寢さめのみつの床なりと云々としるせり。さて茶室は書院の傍にありて地位も亦最も高ければ、大坂市街を双眸のもとにあつむ。そのかみ公こゝにありて敵の動靜を瞰望し悠然茶儀を弄び玉へりと、實に英雄の閑日月といふべし。此庭も同じく遠州の好まれたるものにして、庭上に大久保彦左衛門の手植の椿あり、世に大久保椿と稱す。」

云々と述べ、一心寺の事に就て、

「抑も一心寺は法然上人日本廿五舊跡の一にして文治元年の春四天王寺の寺務慈鎭和尙上人を招請して草庵を此岡に結び玉ふ……慶長の初存牟（ぞんむ）上人三州より來り錫をとゞめて中興をはかり玉ふ。されば公と同じ三州の因緣あるを以て、公屢此草庵に入御し……」

と述べて、大阪冬夏の兩役其本陣を茶臼山に置くに及んで、德川氏と一心寺の關係が一層厚くなつた事を記し、最後に

「東照公の薨去以降殆んど 300年の星霜を經たれども、幸に丙丁の災を免れて、其茶室書院等今尙存在せり。」

と記してゐる。

「數寄屋建築史圖案」や、「林泉」昭和10年4月號重森三玲氏の此茶室に關する說明にはこれをそのまゝ書いてある樣である。

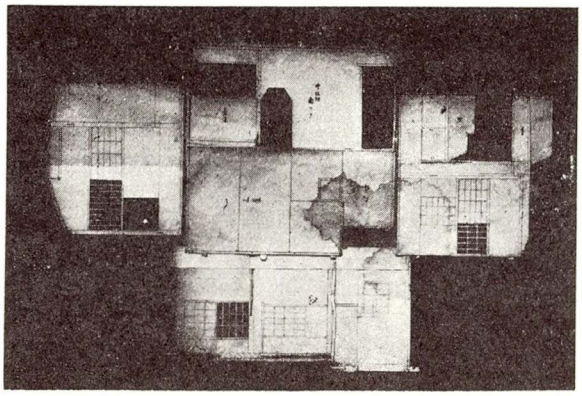
寬政10年刊（139年前）穉里箍嵜（あきさざりざう）著の「播津名所圖會」東生郡二の坂松山一心寺高岳院の項には、

當寺書院の側（かたはら）、遠州の三方明（あかり）の數寄屋は大阪城中よりこゝに移さる。數寄屋の襖は狩野常信の山水、八島軍の屛風は山樂の筆……云々

とある。

又東京の小堀宗明氏藏にかゝるもので、表紙に「大阪天王寺村一心寺、小堀遠州公數寄屋之圖」と書いた起（おこ）し繪（え）圖がある。圖がいつ頃のものか判然せぬが、江戶時代末期のものであらうと推察される。（第1, 2圖參照）此圖は現在の建物とよく符合してゐる。

上揭の幾つかの資料からは、此茶室が遠州好みで、當寺に建てられたか或は大阪城中に



第 1 圖・一心寺八窓茶室起し繪圖

建てられたものが當寺に移建されたかして、現在に至つた由緒ある席と一應考へられる。尙寺藏の「樂山洞」の額の裏には、

正一三十四以台命造之
公睡覺の御みつ床也
慶長18年の初冬
遠江守宗甫　花押

とあるので、どうにも慶長 18 年に、東照公の命により遠州の好みで出來た茶室の樣に考へられるのである。然しこれには後述の如き疑問が存する。

2　一心寺の八窓茶室の構造形成

揭載の平面圖に就いて、また內外の寫影に依つて判斷して載きたい。茶室の廣さは三疊大目(だいめ)で、席內の窓は六ツである。(第1・3圖及第4・5圖參照)

書院の切妻造機瓦葺の屋根の大棟に並行して、茶室の入母屋造、杉皮葺の棟があり、躙口の外、踏石は軒內に配してあつて、此の上の化粧隅木を曲りくねつた控柱で承けてゐる。始めから、こうした意匠であつたかどうかははつきりしない。

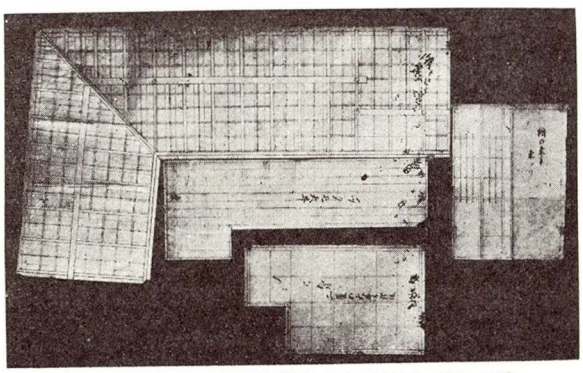
茶室內の意匠には別段特種な所とてない。たゞ化粧屋根裏即ち掛込(かけこみ)天井の化粧棰が多くの茶室では、竹棰か皮付の丸太等を用ひるのに此處のは、矩形の棰を用ひてゐるのが特に眼を惹く。

また變つてゐるのは勝手の大目二疊の地袋棚上の窓で、斜の側壁から採光し、行燈の樣に明障子を嵌めた窓がある所で、これは第6圖に示した。

其他に關しては特に取りたてゝ特徵のある席ではなく、三疊大目の茶室として、普通の意匠からなつてゐるに過ぎぬ。

3　當茶室に關する疑問の點

數寄者の間では日本三茶席の一つに擧げられた事も嘗てある此茶室である。寺傳や、二三の說が何の檢討もされないでゐるのはどうかと考へ、また果してしかく名席であるかどうか、所見を述べ、幷せて發問の點を指摘しておきたいと思ふ。

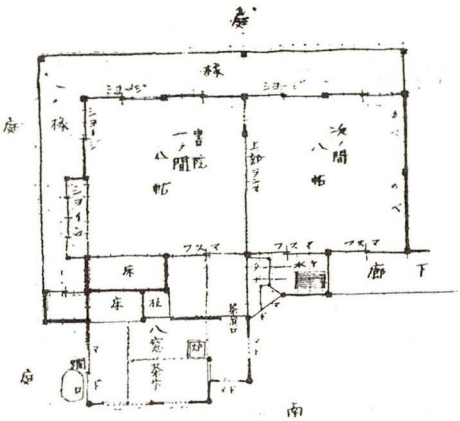


第 2 圖・一心寺八窓茶室起し繪圖子（堀氏藏）

此茶室を調べると、建築の構

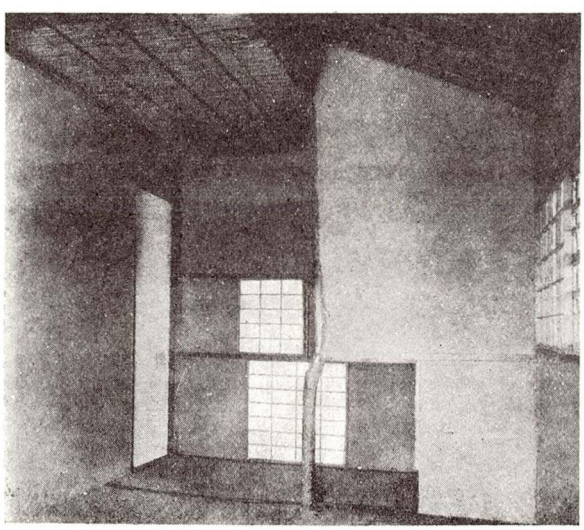
造手法や用材の古さから之を桃山末又は江戸初期の遺構と見る事は、大分無理がある様に思はれる。勿論累次の補修に、原形や古趣を損してゐる點が眼につき、また現在手入が行屆いてゐるとはいひ兼る狀態で、內外共大分荒れてゐる事も餘計にさうした感じを助長させるのであらうが、云ふ如く年緒を重ねてゐるとは認め難い。

名だたる名席……大德寺龍光院の茶室、眞珠庵の茶室、三井邸如庵、山崎妙喜庵の茶室、名古屋の猿面茶室等……の室內に入ると、簡素と幽玄の裡に、表現し難い心に迫り來る端正と凛然さ……張りのある意匠の強さを感じるのに、此處の茶室にさうしたものは感ぜられぬ。一回ではどうかすると理解し兼る場合もあるので二三度行つてもやはりさうである。



第 3 圖 ・ 一心寺書院及茶室略平面圖

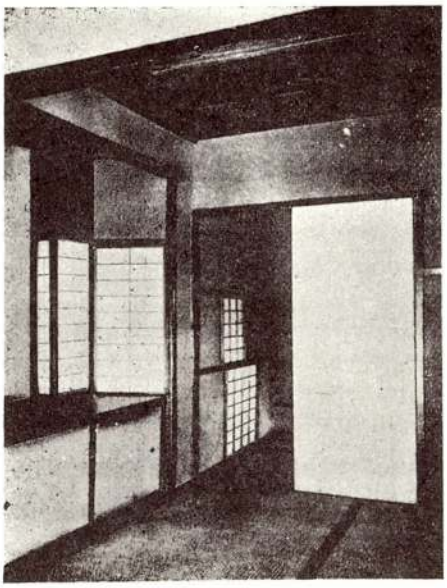

第 4 圖 ・ 一心寺八窓茶室南の外觀


第 5 圖 ・ 一心寺八窓茶室內(中柱・茶道口を望む)

形式や手法に就ての考察は、詮索が細密になり、且つ幾つも比較的考究して說明しなくてはならぬので是は他の機會に讓る事とする。兎に角建物の年代に一つの疑點が存するのである。

次に作者と由緒沿革の點である。上揭の說を要約して項示すると下記の様になるから、其の各項に就いて疑點を指摘し、後攻を期したいと思ふ。即ち

一、「樂山洞」の額の裏の記載によつて、慶長18年遠州が家康の命に依り作つたとする說、(これは當山の庭木をきり主材とし



第６圖・一心寺八窓茶室（茶道口及勝手の間地袋を見る）

たといふのであるから始めから此處に建てられたと見てゐるのである。）

二、大阪城中に遠州の好みで建てたものを當時へ移建したといふ說、（穉里篤嵩說）

の二つである。此二つをつき混ぜた新說もある。

扨て問題はこの一、の說の根據となつてゐる「額の裏書」である。樂山洞の額が始めから此茶室に掲げる爲のものであつたとすると、慶長18年家康の命に依り遠州が作つた事になるが、この「裏書」に二つの疑問がある。一つは其筆跡及び花挿に、他の一つは其年遠州は35才であるのに、「正一三四」とある點である。從つて後世の補筆でないかと考へられる。（尙筆跡に就ては專門家の指示に俟ちたいと思ふ。）

さて小堀遠州は慶長17年には、名古屋城の作事をつとめ、同18年には禁中御位御作事奉行をつとめてゐる。慶長19年には大阪冬の陣が始まり、彼は家康の下に參戰してゐる。家康が茶臼山に陣したのは此時で、彼は旗本に召されてゐた。從つて寺傳の家康が遠州に命じて、茶臼山の此處一心寺に庭木をきらせ云々の說は、19年とすれば考へられぬ事もないのであるが、其邊自分の記憶だけではない節がある。兎に角額の裏書に就ては充分の檢討を要するものと思ふ。史實に筆跡に明るい方の御教示を希ふ次第である。

次に二、の篤嵩說である。此說をなりたゝせる爲には、前記の額を全然無視してかゝる必要がある。大阪城中に建てられたとすれば、城が德川氏の手に歸して、城を修した後の事と考へられるから慶長18年ではおかしい。遠州は、大阪城に關聯しては、元和６年７月から７年迄域の「御門惣廻り御矢倉」の作事奉行をし、元和９年には本丸のかりの御殿の作事奉行、寬永３年正月から４年12月まで天守並本丸の幕府直轄關係工事の作事奉行をつとめてゐる。從つて茶室等城內に彼の好みで營まれた事は推察し得るが、何れも家康歿後の事であるから扁額や、上揭の寺傳と全然背馳する。

且つ元和、寬永年間に江戶幕府の手に依り、各大名の賦課及小堀遠州造營奉行の下になつた修築の大阪城も、其後30年足らずの後に相次ぐ雷火の見舞ふ所となつて、損壞甚だしく、此間かゝる茶室が、到底此等の災を免れたとは認め得ぬから、篤嵩の說は信ぜられぬ。

篤鳥の著作には單に當時の世の傳承を記載したと認められる事が多く、隨分虛構の事が記載されてゐるので、此はあまり當にならぬ。

「八つ窓茶室の記」には大阪城から移建した云々の事は書いてない。

之を要するに一心寺の八窓の茶室に關しては、文獻上からも、建築そのものから推定し得る事からも今の所確たる事は判明しないのである。尙機を得てよく調査をすゝめて明瞭にしたい。本稿は疑問の點を明かにし、後證を俟つ爲にも書いた次第である。一心寺の茶室に就ては一先づこれで筆を擱く。（昭和12年１月稿）

都市と緑地の科學

横山三四次

都市機構のいづれの部分も社會の生産關係に基かないで發展し或はそれが社會進化の狀態に背馳して尙且つ存在價値を認め得るといふことは、今日の社會狀勢の許に於て信ずることの出來ない事實となつてゐる。

都市構成要素の各分野に就いてこれを見る時、例へば建築の場合に於ても吾々は此の事實に反駁し克服し得る何等の科學的理由をも擧げ得ないのみならず、これと絶體不可分的存在であり更にその進展は相關性を有つて進むべき緑地が獨り野放的存在であつてよいといふ理由を發見することが出來ない。

有史以來各時代の都市發展史上夫々の民族性とか、經濟生活とか、或は自然環境といふものが、その凡てに反影してゐることは、單に建築の樣式に現はれてゐる細部の手法を檢討することによつても、直ちに首肯し得る事實であると、同時に近代都市計畫に於て緑地問題が今日の社會情勢を醸した經濟生活に如何なる直接的投影をなしつゝあるかを覗ふ時吾人は都市緑地の科學的再認識を要求されたのである。

我が國の都市緑地は如何なる社會に發生してゐるか、これを識るにはその發生の元素である庭、苑を社會科學的にその發達史を一瞥する必要がある。

現存するその遺構の殆んどは各時代の支配階級の所有物である慰樂的庭園、或は治外法權的存在である神社佛閣の外苑の强制的保存にて、譬へば王朝時代貴族によつて占有されてゐた寢殿造りの庭園、武家時代にあつては多くは武士の勢力を誇示するための政策的所産としての大規模な築山式林泉等、尙又其の間に僧侶或は一部富裕な商人等の小庭園が營まれ、更に傍系的に或時代の一流行としての茶庭が發生し、宗教的、天才的な造庭形式を創り出して、藝術的には殆んど達成の域に進展するに至つたのである。

其後時代の變遷と外國文明の移入に伴ひ、その形式には多少の庶民的な意志表現が織り込まれ、又或時代には文化的經濟生活の發展により社會機構の變革に直面して民衆的な造園手法の取り擧げられた時代もあつたのではあるが、要するに支配者及支配階級を憧憬し阿諛する者の藝術品である庭、苑を否定し得ないのであることを思ふに當り、今日吾々が都緑市地の根幹的存在として指示されてゐるのは凡てこゝに胚胎してゐるが故に、現今の造園技術は前時代の遺物を以て造園技術の最高峯として讃美され、已に都市機構の存在價値に終末を告げた非科學的なるものを以て緑地となし、今日尙その內に觀念的な手法を探り之が模倣踏襲を以て唯一の造園技術として、科學的生活を營みつゝある都市生活者に提唱

することの矛盾も甚しいことは、茲に駁辯を要しないことゝ信ずるのである。

この現狀にある造園界に於て提唱さるゝ綠地の大勢は、社會生活の現實を無視した造園理論を生み出し、都市生活者には既に無益であつて有害とさへ思はれる非生產的遺物を提供する歸結を齎らし、近代の造園技術が幾許の効用價値を都市生活者の生活原體に直接的反影を與へ得るかを疑はれ、消極的、遁世的な超現實を以てその根本精神とする茶庭の閑寂が都市科學の生產關係とは蓋し緣遠い存在であらう。庭苑が社會の特權階級の玩弄物視されてゐた時代に於ては、經濟界に於てもたゞ古典的存在であつたに過ぎないのである。

此の事はそのまゝ嘗ては建築に於て言はれた事實であつて、その後その一部はかゝる過去の觀念的な傳統から脫却し、清算と飛躍とが勇敢に斷行されて今日の經濟建築的基礎を創造したのである。即ち　經濟を無視した建築は呪はれ、効用を忘れた美術建築は社會の落伍者とされて當然であり、あらゆる事物的再批判によつて、所謂表面的美裝の衣を剝奪され畸形的なその骸骨は社會人に恐怖されたことの明白な現實であつた如く、綠地に鑑賞は二次的存在價値より與へられず、苔むした樹蔭を現代都市中に持ち來す時吾々は先づ憂鬱を感じ、濕潤な病源菌を危惧する。又徒らに技巧的な石組、百金を投じた畸形的樹姿等は、都市構成の單一性の前には、實に不自然であつて排斥さるべき非科學的なものとしての價値より持たないことを識り得る。

茲に於て都市綠地は如何なる性能を有し、幾許を必要とするか、或は社會生活の生產關係とは如何なる現狀にあるかを識る必要を認むるのである。これに對する學術的な計畫論は「造園研究」第4,5輯に關口鉄太郎氏が、世界各國の學說を引用された定見を述べられてゐるが、更に現今の我國に於ける統計的な數字からの將來の計畫指數に關しては、都市の地域的な建築面積と空地、及び人口との比率、現存綠地(私園を含む)の調査を俟つて、始めて理想的な計畫指數を得るものであることを考察するのであるが、今日その詳細を提示し得る資料に乏しいのを遺憾とする、然れども近き將來に於てこれが發表もなし得ることを確言して、今回は我國の都市計畫的社會政策の發生した史實により、綠地の社會的認識狀勢を大略檢討し、暫く諸賢の御批判を希ふことゝする。

扨て　都市綠地には道路綠地、公園、廣場、及其他に大別し得ることは既往の諸說からして現實を見る時判然とした事實であるが、その量に於て最も多く且つ綠地科學確立の先導的使命を有する公園に對しての社會人の認識動向を歷史的に檢討することにより、今日の都市綠地再認識を助成し得る資料としたいのである。

公園の發達史上一大劃世期である明治時代に於いてのそれは、我國造園史上最も興味ある足跡を印し、尙且つ當時社會人の認識狀態を以て今日の社會人に一警鐘とし得る現象であり、而もこの明治時代に於いての公園發達史上吾々は明かに一線を劃すべきで歷史的事實を認めざるを得ないのである。

即ち明治22年5月東京市區改正設計の告示こそは、我が都市計畫史上全く劃世的な現象であるものと思ふ。これが公園的觀念を培養した一因子であると云ひ得るのである。

然し公園に關する法制的なものを更に古く見る時は、既に明治6年1月「社寺其他ノ名區勝跡ヲ公園ト定ムル件」に就いて太政官布告が發せられてゐる、これが公園に關する法規としては最も古いものである、而も昭和6年4月國立公園の制定を見るまでは、その間何等これに改訂を加へられず、公園に關する唯一の根據法規であつたのである。

この布告たるや、爲政者が既に既往に於て公園の必要を認め居たる事實を反影しながらも、只單に社會生活の自然的現象により、「群衆遊覽の場所社寺境內緣地或は公有の名勝地は民衆の休養娛樂のため、永久的に開放すべく、これが爲には從前のまゝ放任するより、之れが存在を確保し又或程度の施設を行ふが社會政策的に適正である」と信じた結果によるのみであつて、時代の社會狀勢に順應して出來たものに過ぎないことは明かであると思はれる。

であるから他面これ等の場所は公園として都市には絶對的に必要であるとしての積極政策は何等そこに見出し得ないのである。即ち　群衆遊覽の場所で國有地である場合、公園的利用の目的を以て國有地無償使用の認可を申請する道を開いたといふ、全く消極的な觀念を有つことを表明されてゐる。

然るに　當時としては驚くべき英斷的な社會政策として、全國的な反響を得て、その實行性容易なことは、當時各地に公園設定の華やかな社會現象を生じたのである。之れ即ち名園としての遺構が公園化された最初のものであつて、現存の芝、上野、淺草、深川、飛鳥山、住吉、濱寺大阪府、嚴島、高知、栗林、兼六、等であつたのである、而して全國的に各地の名勝舊跡の類に公園の名を冠し、俄かにその社會的存在價値を騰貴せしめた樣に喧傳された情勢は、恐らく今日我が國の大風景地が國立公園候補地の名を得て、再價値付けられた幻影を抱いて地元の熱狂的歡呼を聞くと同樣の世想を想像し得るのである、尙更に當時の公園に關する出版物に現はれた情勢を見るに、古來の名勝が公園に編入され風致を增成した歡びを語り、公園こそは當代の日本に於て所謂文明開化的な最新の產物視されたことを知り得るのである、その文中の一端を記せば

「夫レ公園ハ人體健康ノ爲メニ缺クベカラザル遊步逍遙ノ地ニシテ元ヨリ朝旨優渥ノ賚ナレバ人ニ宜シク淸楚幽趣ヲ旨トシ假ニモ鹵莽不潔ノ擧動アル可ラザルハ言ヲ俟ハズト雖ドモ或ハ殺風等ノ徒モ亦無ニシモ非ス依テ左ニ該園ノ禁則條款ヲ示ス（下略）

これは當時大分縣權參事へ提出した「公園反別並持維方御屆」明治9年の公園政策の現はれである。

更に又「東京繁昌記」中に勸業博覽會の開催された圖を繪き公園を讃したことを見ると、公園の名を附したが故に新繁昌地を釀成し一般庶民の「自由」と「開化」とを現實に齎した樣に說いてゐることが覗知し得るのである、尙「通俗繪入東京開化繁昌記」中には

「人其心身を勞せざれば暫くも生活すべからず既に其心身を勞すれば之を慰めざるべからず。若し之を慰めざれば其の勞に堪ゆる能はざるなり、故に造物主は山川花木を造りて以て人の目を喜ばしめ、人の心を樂しましむ、若し日夜眼勉頭腦を勞して止まざれば精神衰微して恐らくは病患を生ぜん。是朝廷の、公園を都內各處に開きて庶民に縱覽を許し、其の勞を慰めらるゝ所以なり、府下の公園は淺草、上野、芝、飛鳥山、深川八幡境內の五處にして四時、雜沓暫も遊人の跡を絕たず(下略)」

とあるを見て吾人は當時社會人が相當徹底的な公園認識論を有つて居たことを識るのである。

然しこの社會的公園認識論がこの時代に於て始めて斯く迄の深刻さを有つて生れたかといふに、これは矢張り社會文化の發展の結果であることを立證し得る前時代のものを見出し得るのである。

公園的社會施設の嚆矢として認め得べきものは、既に江戶時代末期に於てこれを社會現象の一つとして特筆し得るのである。當時松平定信は白河に南湖を開鑿し灌漑を兼ねて風致修飾を行ひ、以て庶民共樂の地とした事實を擧げざるを得ないのである。當時の有樣は「白河古事考」を參照することによつて今日も尙よく山の狀況を偲び得るのである。尙又天保年間德川齊昭が水戶に偕樂園創設の事あり、その名の如く公開庭園を庶民に提供したことは周知の事實である。而して「偕樂園記」を繙くことによつて、公園認識論的には明治初代のものと大差なきを識るのである。

斯く通觀するに明治初代の社會に於ける公園認識論は、爲政者に於ては今日の科學的檢討下のものとその根本精神に於ては何等異なる點なきを肯定し得るも、社會人に於ける、即ち支配者と被支配者との關係に置かれた永らくの傳統と習慣を有つ民族性から脫却し得なかつた庶民と稱さるゝ一般人に於ては、公園認識ではなく公園禮讚であつて、この輿論は思想的には必ずしもさまで大なる飛躍とは考へられず、殊に公園に對する要求は何等都市計畫的根柢に基かず、只單に新時代の文化の表徵として、輿惠的所產として當時の經濟生活とは直接的關心を呼び起す程のものではなかつたのである。

然るに當時外國文明を視察して、彼の國の風俗事情を記した出版物中、明治20年5月の西村生著「西洋風俗記」には公園に關する一項が收められてゐるが、これによると「ロンドン」に在つては、公園は市民の日常生活に絕對的必要な社會政策的施設である所以を強調し更に彼れの公園に於て受けた感覺と、我れの當時のものとを比較するに、その社會施設的性能差甚だしきを慨歎されてゐることが明白なのである。

所で　當時全國的異數の例外として、明治文化の先驅的公園施設を現出した橫濱、札幌兩都市あることを看過することは出來ないのである。此の兩都市に於ては都市計畫的要素

としての公園發生が認められるのであるからである。

横濱に於いての公園は、その都市的發展が比較的近世に成された所に、夙くから居留外國人を居住せしめたことの結果、從來の天下り的公園の開設を待たず、外國人の日常生活に對して必然的な要求として或程度强制的に施設した事實は、慶應2年の條約書中に現れた彼れの要求からして我が政府自ら「横濱彼我公園」を開設した史實は、横濱市史稿に明かなことであり、その既設内容に於ても、當時の他都市の公園とは相異るものであつたのであるが、然し當時の横濱市民否その久しい後、即ち明治43年頃迄の我が國一般人にとつては奇異なその施設が民族性に適應しないのと、人種的優越感を抱いて傍若無人に濶歩する紅毛碧眼人が、公園を排他的に獨占使用する有様は、公園を我等の日常生活に即したものとして認識するに反して、卑屈な感情を以てこれを珍奇なものとしか思はれなかつた事情を數多の文献に發見するのは、甚だ遺憾なことであると思ふが、又或意味に於てはかゝる能動的な公園開設の原動力を與へられて公園發達史上に特記し得たことを感謝すべきであるかとも考へられるのである。

次に　札幌市を見る時、今日その市區整然たる規模雄大な市街の構成を感歎しないものはなからう、この構成根幹が既に明治初年に完成された事實の前には、當時の開拓判官島義勇氏に對するその超人的な努力と先見の明とを賞讃することを惜み得ないのである。彼れが札幌市街の基礎を築き上げたのは實に明治2年から始められたのである。其後判官の交迭あり、施政機構の變展はあつたにしても、當時早くも自由空地問題を考慮し、防火線的利用と相俟つて、造園的利用修飾を成され、空地保留を確定し後の公園素地を遺した市街計畫中の公園計畫的な準備は、太政官布告の如き公園觀念とは根本的相異あり、卓抜な先見に由來する所の都市計畫的史實である。當時の事情に就いては明治44年「札幌區史」にその委細を識ることが出來、尚更に如上の明治時代公園發達史に關しては造園研究第11輯の小寺駿吉氏の研究論説を參照することによつて得た資料であることを附言して置く。

斯くて我國都市改良的輿論中に公園を擧げられたのは、明治17年頃當時東京、大阪の如き大都市に於ては、商工業の發展に伴ひ人口集中の傾向著しい社會狀勢を鑑みて、西歐文明の移入により彼の都市改良計畫の發達してゐるのを識り、漸くその計畫的改良の必要を認識するに至つた如く考へられる。これは東京、大阪兩都市に於ての前述の劃期的事實といつた、東京市區改正條例の發布された明治21年前後に於ける公園に對しての社會的狀勢を考察することによつて明かであると思ふ。又同條例が當時の社會進化の結果都市發展の急進的なその狀態からして必然的に要求せられたことは、西歐文明の輸入消化に伴ふ經濟生活の形態變革から生產關係の都市機構の改革即ち都市計畫的施設による都市構成を誘導すべき機運を醸成した社會情勢を推察するに難くはないのである。

この情勢下に於て爲政者は都市計畫的に公園の性能とその絶對的必要價値を認識し、社

會政策の一つとして社會人に提唱することを斷行し、更にその積極政策的意志あることは第三條「市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京市内ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス」として事業費の捻出は新稅制を設けたことによつて明かに證明し得るのである。これは太政官布告の如く消極的なものとは全然その認識意志の相異を物語るものであることを表明するのである

この條例發布によつて都市構成の社會的運動中に現はれた公園に關する現象を、東京、大阪兩都市にこれを見るに、

先づ東京市に於ては事前、即ち明治18年に市區改正審査會を特設し、當時の下町に重きを置いた大小52ヶ所約115萬餘坪の計畫を樹立されたが、その事業執行の機運尙淺く、條例の公布に伴ひ、市區改正委員會の成立を見て、前案を改め大小49ヶ所約105萬餘坪となし全市に亘り普遍的な公園計畫とされ、その一部として日比谷其他4公園の開設を見たのであるが、當時の經濟狀態はその計畫全般の遂行を許さなかつたのである。

然るに明治36年この實績を徵し、道路、河川等と共に公園計畫も亦縮少されて22ヶ所約66萬餘坪となし、實現可能性あるものゝみを殘し、實現の機運に向つたのであつて、この年に於て我國の當時近代的公園の濫觴たる日比谷公園の開設を見て、始めて都市計畫的公園施設とは如何なるものたるかを社會人に認識せしむる一大敎唆を與へたものと言ひ得るのである。その後明治40年代に至り愈々人口稠密の度を加ふに當り公園の必要を痛切に認識され、更に9ヶ所の追加を斷行した事實を發見し得るのである。

大阪市に於ても明治19年市區改正建議案の提出を發端に、都市計畫的市街構成の根幹を樹立されたが、財源其他の關係は未だ社會政策的實行性を發揮し得るに至らず、產業經濟の發展は都市人口の飽和狀態を招致し、市域擴張の必要を生じ明治30年4月近接町村編入を機として、都市計畫的市區整理を發案し、街路、堀川、公園、等を含む相當大規模の市區整理案の作成を見たのである。

この間公園に關して未だ都市計畫的意志の許に開設されたものを擧げ得ないが、こゝに特筆すべき大阪市の公園としてその濫觴とも見るべき「中ノ島公園」が開設されてゐる。即ち明治24年國有地なる河川敷を公園利用の目的を以て無償使用を許されたのである。この發生事情は、前時代の太政官布告によるものと斷定さるを否定する何等他の社會的理由を見出し得ない故に計畫的なるものとしての嚆矢とすることは出來ないのである。といふ事情はその後更に數次に亘りて地域擴張が國有地なるを以て比較的容易に遂行せられた事實を見るも明かに判定し得ることであるが、而し本邦最古にして屈指の水邊公園として、水都大阪を美化するには全く適切なるものと思はれる。

その後明治42年天王寺公園が第五回內國勸業博覽會場跡を利用して築造に着手されるまでは、殆んど公園の開設されたのを擧げ得ない狀態に置かれた社會情勢は、はたして何を

意生味するか、生産都市としての躍進的發展を以て自負する大阪人の經濟觀念が甚しく打算的であり、商工業に直接的生産關係を持たないと表面的な批判の許に、公園が認識不足のまゝ、只管蓄財にのみ忠實であつた、偏見的社會思想を以て都市構築に當つて居た様に考へられるのである。

茲に於て吾人は明治末期に至る迄も我が國一般社會人は公園に對する認識が全くその自然發況にのみ支配されて來たことを確言し得るのである。即ち東京市に於けると、大阪市に於けるとのその相異甚しきことを見ても、如實にこれを物語つてゐることである、尚更にこの狀態は、大正時代を通じても顯著な事實として現はれてゐることは兩都市の公園發生の由來を見れば歷然とした事實である故こゝにその詳述を省くことゝする。

これ等の社會狀勢に於てその後の法制的改革を如何と見て、我國都市發展史上組織的な計畫規範を擧げ得る事は、都市生活者に取つて誠に感謝さるべきことゝ思考するのは、既に世人周知の都市計畫法の制定である。

大正8年4月同法の制定される迄、緣地全般的關係法規として次のものを擧げ得るのである。

明治41年3月「神社財產ニ關スル件」中の第二條「地方長官ノ許可ヲ受ケズシテ神社財產ヲ擔保ニ供シ又ハ處分シタルトキハ之ヲ無効トス」とあり。その財產の一部なる境內地の確保が規定されてゐる。これは今日その境內地の一部が公園化され、或はその隣接地を含む公園施設の現存を誘致した所以であつて、計畫的所產ではないが公園に類する緣地問題に關して見逃すべからざる一事であるが。これも太政官布告の範を出ない消極的政策である。然しこれは他面我國民精神涵養上重大なる關心を有つものとして、緣地問題の精神文化的方面には、その反影する所大なることはこゝに拙論を提することの畏いことはいはずもがなである。

そこで近代文明の所產であつて、都市社會人の指針ともなるべき都市計畫法に現はれた公園認識感はと見る時。先づ

第一條「本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衞生、保安、經濟ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ增進スル爲(以下略)」

とあるはその辭句の名文なることに於て、その抱含量の宏大なることに於て、確實に公園の科學的認識を推察し得るものと思はれるが、同法規中公園に關する條項を摘出するに

第十六條「道路、廣場、河川、港灣、公園其ノ他勅令ヲ以テ指定スル施設ニ關スル都市計畫事業ニシテ內閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナ土地ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得」

とあるが公園は正しく都市計畫的社會施設の一要素たるとを明言してゐながら、その後に何等の規範がないことは全く有名無實の名文に過ぎないものの様に考へられる、このことは現實に大阪市の都市計畫公園がその配置系統に於ても量に於ても、全然非科學的所產

の結果、その計畫決定後10年に滿たんとする今日尙實現率の僅少な事實を以ても充分に說明し得る狀態である。

次に都市計畫法施行令第十三條には風致維持に關する制限令を見得るのであるが、これも單にその破壞的工作の制止に過ぎず、風致を助成しこれを都市構成機關とすべき何等の積極政策とは受けられないのである。

又これ等施行上の經濟關係法規中大正13年3月特別都市計畫法施行令の第一條「行政官廳ノ執行スル特別都市計畫事業ニ付關係公共團體ニ負擔セシムル費用ハ左ノ如シ

一、道　路　費　　二分ノ一以內
一、運　河　費　　四分ノ一以內
一、公　園　費　　四分ノ一以內

とある公園費は誠に潤澤な額であつて、何等異議ない社會施設費であるが、これが捻出の方法に關しては、不徹底なものとしてより現はれてゐないのである、即ち都市計畫事業執行に當つては特別賦課稅及受益負擔制を適用し得る規定を見るのみで、公園に關するその方法論的な規定は何等擧げられてゐない。然しその費用の輕減を計り得る一方法として、用地問題に關しては土地收用法の適用を可能ならしめ、尙更に土地區劃整理による全面積の一定割合に相當する土地を無償にて收用することを得る規定に基き、內務省督勵內規には提供土地の3%を元則として綠地とすることは、多少の便法を與へられたものと言ひ得るのであるが、これもその3%の內容に關しては何等規定されてゐない爲該事業當事者の公園認識不足から生れる雜然としたその配置等に至つては、全く都市社會人に取つては不可解な所產としてか認容されてゐないことは旣征の同事業々積を打診する時、甚だ非科學的な結果を齎らしてゐることによつても判然と立證されるのである。

こゝに於て吾人は公園に對する社會人として、都市生活者に取つてはその機構の一つとして缺く可らざるものであることを强制的に認識させられざるを得ない趨勢にあることを識るのであるが、その實施的方法論に至つては科學的根據ある定說を聞かず、尙又法規の不備なるため、その當事者は全く去就に苦しむの已むなき現狀にあるのではないかと考察するのである。故に都市公園を主體とした綠地法案等の整備を俟つて、都市構成の他の諸機關の如く都市計畫本來の使命を果すべく、都市生產關係との直接的交響狀態を闡明し、都市綠地科學の研究の許に法制的手段の確立を要望されるのである。

試みに都市計畫的都市諸機構に關する法の制定年を擧げれば

明治23年	上、下水道法
明治44年	廣告物取締法
大正2年	運河法
大正8年	都市計畫法

同　　市街地建築物法

同　　史蹟名勝天然記念物保存法

以上の如く古きは明治23年既に都市機構の社會施設に對する科學的檢討による手段方法的法制は確立され今日迄その結果を以て次に來るものに對する、計畫的社會施設を改革し進化せしめ事つた事實からしても、公園のみが獨り放從性を有つて、都市生活者に目見えて居ることの不合理な事實は、實に不可解なる社會現象であると思はれる。

都市綠地の主體たるべき公園でさへ斯くの如き現狀からして、綠地全般の社會的認識程度は推して識り得ることであらうと信ずる。

處で事少しく餘談の如く感じはするが、都市計畫論に對する急進的慷慨とも思はれる驚異的なもの、ル、コルビジエ氏の「巴里のヴオアザン計畫」を聞くに

先以て土地を大掃除をすること

「廓下街路」を打壞すること

と最初に提言した後

「都市計畫に於て、藥治療法的解決法は囮に過ぎない。それは誘惑だ。そして何の解決も齎さない、高價につくばかりだ。外科手術的解決法のみが解決し得るのだ。」

と積極政策の必要を說き

都市の計畫は金を使ふことではない。

都市の計畫、それは金を儲けることだ。

それは金を掃へることだ。即ち都市の計畫をすることは價格低下ではない、それは價格引上げだ(中略)

金つまりＡＢＣ地價の釣上げによる收入利益は國家の懷に入つて行く。然し國家は前に約束した、通行や排水、便等の利便を保證するとね。こいつが仲々金を食ふ仕事なんだ。地下鐵、自動車道、車道、「高い」道路、公園、運河、等々々。で特許權者達が交通や公衆事業を經營する。國家は諸會社に言ひ付ける。

「諸君は毎日此の場所へ40萬人以上の人間を運んで來る樣にしなくてはいけない。この經營によつて生れる純益をmとしよう。此の純益の一部が諸君の交通網建設費の一部利子と償還金に充てられる。國家は絕體的に剩餘金を支拂はう。私は補助金を交付する。私は土地價格の騰貴による莫大な利益を處理するだけなんです。此の利益の一部分を更に技術的設備、衞生設備、娛樂機關に充てる。

結局こんなことは國家の仕事なんだから。差引殘高は事業街に入る聯絡交通の實況に供する」

といつて都市機構の凡てが生產關係の直接的存在であることを雄辯に物語つてゐるのを興味深く感じるのである。如上により都市公園の効用的價値に就いては大略の第一次的認

識を得られたことと思ふが、第二次的な認識として都市美化の方面に關して都市綠地はその美化要素としては致命的に缺く可らざるものであることの拙論は大大阪第13卷2號に述懷してゐるから、こゝに詳論を省くが、この一方的理論も都市人の美的感情の生產關係への反影を顧みるに、譬へば我が國の紡織工場で働くぽつと出の田舍の少女らの美的感情の程度では金巾を織るのが關の山で、マンチエスターのいはゆる少女たち—勿論我が國よりも年長者である—はポプリンその他の高級木綿製品を織るのに適してゐる。生產工業社會でも生產者の美的感情訓練機關の設置が要望されてゐる。これは獨り生產工業社會のみの問題ではなく、都市として、市民としての人格に關する一般文化上の大問題であることは、最近都市問題を論ずる識者間に提唱され來つた今日、都市美化上絕對存在價値を有ち、人工材料に對する自然材料を以て、その全面的素材とする都市構成要素の一つである綠地が社會經濟生活と如何に直接的、間接的機能を發揮し得るかは論を要しない事實となつて來てゐるのである。

かゝる都市綠地が今日その實現々象の甚だ稀薄であつて　然も現存のものが社會人に取つてその生活源體に大なる反響を得てゐない事實は、社會人の認識不足と法制的不備によつて來つたとのみは言ひ得ないのである。これは又一方的原因として今日の造園技術界の大勢の然らしむる結果であることは序言的に說明した如くである故に、吾人は都市と綠地の科學としての結論は、今日否次に來る綠地に對する造園技術の動向が現實下に於て最も急迫せる覺醒問題であることを識り得るのである。

社會狀勢の發展と共に都市機構の進化せる今日、生產經濟を生活の根本とする都市人の要求によつて凡ての機構が更改された今日、綠地に對する欲求の一大變化が必然的の現象として造園技術上に科學的に飛躍と脫却を齎らさねばならない動向が、都市綠地の施設の現實に表はれなくてはならないのである。

綠地中私園的なものは、將來恐らく前時代の如き大規模な邸園は、先づ特異的な所產以外、之を期待し得ないことを、加之今後の經濟情勢にあつては由緖ある庭、苑もこれを破壞して建築化さる傾向を鑑みるに及んでは、尙更に商業地域に於ては營利的政策を敢行するに一坪の空地をもこれを營利化するであらう、又工業地域は生產能率の全面的活用化による增進を計り、住居地域に於てすら法定の四割を最小限とする空地も物置或は家庭工業の作業場化されつゝある現狀に於て、生產的綠地施設としては、或は屋上庭園、屋內庭園、特殊な工場造園的な自然制覇的人工を効用化されるであらう。又公園としてはその機能的種別の有機的交響的配置系統により、心身を慰安し、休養せしめ體育向上の運動施設を利用して、明日の活動能率增進を計るであらう社會情勢下にある現存の造構的公園が、「此の內に入るべからず」式の鑑賞的施設が、はたして幾許の存在價値を論じ得るのであるか。

更に都市美化の見地からしては綜合美に立脚するその本來の使命に對して、廣場の個別的な樹姿の配色美が、統制美を損しこそすれ、都市全面的構成美の感情には返つて煩雜を

加ふるのみであり、街路樹に至つては集團美と防火的効用から生れる旋律的植栽こそ、その存在價値を與へらるゝ唯一の重點である。

故に序言を繰返へす様であるが、前時代の遺構に胚胎する觀念的自然模倣の先入的藝術を脫却して、植物生理の自然科學の應用により適都市植物の檢出を研究しこれが單一的集團美を形成すべくその効用的、配植、即ち屋外運動場の周壁としての構造美的手法を創成することの研鑽には、從來の平面的曲線美技巧より生れる立體的煩雜感は絕對的に排撃さるべく、統制的單一美による効用的全能率の發揮を以て、都市構成の科學的一要素に化成せしめることが現實に綠地の社會的存在價値を認識され得る技術的手法の動向であらねばならぬと信じて都市と綠地の科學に對する序論として駄辯をものした次第である。

本號執筆者紹介

（五十音順）

淺野新一	大阪府警察部建築課・技師
伊藤正文	大阪市校園建設所設計係長
大須賀巖	辯護士
澤島英太郎	文部省宗教局
菅陸二	大阪府警察部建築課
武田五一	法隆寺國寶保存工事事務所長・工學博士
增田誠一	鐵道局技師、名鐵工務部
横山三四次	大阪市土木部公園課

4月號

新名古屋驛建築工事を通じて見る旅客驛建築の使命

増田誠一

顧れば、茲幾星霜、數多の人々の營々として、絶えざる努力と、撓まざる精神力とにより繼續されて來た、さしもの名古屋驛改良工事の大造營も、2月1日の朝まだき、2千名に近き動員に依り見事に成し遂げられた線路の切換を以て、茲に目出度く大團圓をとげるに到り、新構內に辷り込んだ第五列車より、新驛は華々しく開業され、屋上には竿頭高く翩翻とひるがへる、日の御旗が、朝日に映ゆるを見る。我々の胸中は、肝銘更に新たなるものに溢れ、唯徒らに熱涙の頰に傳はるを覺ゆるのみである。

今此の大工事の來し方を回想して、此の建築の生れたる意義に就いて、聊か思ふ所を述べ度い。

先づ、旅客驛建築の持つ使命とは何であるかといふ事である。之は、見方に依り、多様の內容を持つてゐるもので、此の建築が單純な記念的建造物でないのは勿論、第一に複雜な驛の機能を充分滿足させるものでなければならない事である。之と同時に、旅客驛が都市の構成要素として重大な役割を持つて居り、都市が形成されるに先立ち、先驅的に建築されなければならない使命を負はされてゐるのである。從つて、此の意味から、此の建築が可成り進んだ將來の見通しを付けて計畫されなければならないのと、尙之には、都市の構成されるに必要な、大きな指導精神が與へられてゐなければならず、又その都市の文化產業の發展に對して、正しき動向を指示するものでなくてはならない。

現今、我國有鐵道の本來の行き方を考へて見るに、之は或地方々々の旅客及貨物の運輸量に追從して、鐵道設備を充實して行くといふのではなく、むしろ、其の地方に一步進んだ設備を與へることに依つて、その地方の產業を開發し、文化を向上し、我國の隅々迄も健全なる日本であらしめ度いといふ風に動いてゐる。國有鐵道の本來の使命から云へば、當然かくあらねばならぬ。建設の行き様、改良の行き様、共に此の精神には變りはない。邊鄙な山間に建てられた驛舍を中心として、其の地方の產業は起り、部落は形成され、更に發展される。之と同様に、近代都市に於ても、旅客驛の建造物は、その持つ機能と共に都市の振達に重要な意義を賦與されてゐるのである。

あの赤煉瓦の巨軀を横へてゐる大東京驛は今日、既にその平面計畫の缺陷を露骨に表はして、旅客運用上行き詰り狀態を呈し、種々の非難攻擊を受けてゐる。然し、之が建築された當時は、全く三菱ヶ原の一偉觀を呈し、何人も其の巨大な機構には驚かされたもので

ある。その後、急激な國運の進展に伴つて、大東京市の發展は、總て東京驛を中心として起り、海上ビル、郵船ビル、丸ビル等續々と建設さるゝに及び、今日の丸の內を形成した即ち、都市の發展が如何に旅客驛の建築と、その機能と、その精神とに刺戟を受け、啓發せしめられるかと云ふことは、近代建築の群中に骨董的存在に感じられる。あの老いたる巨體を見る度に考へられることである。而も、之が發刺として、活動の「エマナチオン」を發散してゐた壯年期を思ひ浮べる時は、既に大きな使命を果した功績を稱へるべきであつて、徒らな今日の非難を差し控へ度い氣持さへ持つことが出來、同時に第二次的大改築の時機に到達したことを覺える次第である。

今、新興都市名古屋市に誕生した新名古屋驛を見るに、之は、建築工事として我國屈指の大工事であり、耐震耐火鐵骨鐵筋混凝土構造としては、其全長に於て、東洋一である許りでなく、其規模も從來に見られない所であり、而も、鐵道局廳舍と合築されてゐることに依つて、偉大な風裁を保つてゐる。此の建築の竣功と同時に、都市計畫の24間道路櫻町線は新しく完成を見るに到り、引續き施工されつゝある驛前大廣場を距てゝ、名古屋市は茲に大都市への第二期的建設途上に昇つた觀を呈し、將來、旅客驛と相對峙して、高層建築が相櫛比して建築され、偉觀を呈する時代の來るのも遠き將來ではあるまいと思ふ。

此の驛が、その形態の大なるに止らず一見、從來の驛とは、その機構の非常に異るのに氣付くであらう。之は、日と共に增大する運輸數量に對して、充分の順應性を持たすべく計畫されてあるが爲であつて、實に、此の旅客驛の壽命に關する問題に就いては、計畫立案に際し、充分各方面より檢討されたものである。此の事に就て、無暗に遠き將來を考へることは、資本の固定を來す許りでなく、却つてその時期に到る迄は不便を忍ぶことゝなり、又反對に餘りに近きに過ぎる場合は、早晩、行詰り狀態を來して更に莫大なる改良費を要する結果となる。名古屋驛は大體、昭和初年前後の運輸量が、同じ增加率を以てして昭和20年頃に達する數量を想定し、之を基準として計畫されたものであつて、昭和3年頃の約倍量に相當するのである。尙、此驛は我國に於て從來研究されて來た大旅客驛の一つの「タイプ」を持つて居るので、いづれの國に於ても此の型の實例を見受けられない所である。即ち、驛の本屋といふ大建造物の外に、高架線下を利用した、一千三百坪を有する宏大なる「コンコース」を持つてゐる。之は乘降客一日平均約6萬といふ數字に依つて計畫されたものであつて、片側に待合室を設け、各待合室と向ひ合つた片側に改札口を持つてゐる此の「コンコース」の利用は、驛の將來の發展に對して、非常に大きな餘裕を持たすことが出來、此の驛の將來性にかゝる强みも一に此處に在るのである。

而も、此の「コンコース」は即ちに西裏口に相通じてあるが爲、驛の內部は東西に步行者の交通は自由であり、之に依つて、膨大な地積を有する高架線の存在の爲に生ずる都市交通の支障を緩和する許りでなく、西裏驛地方を開發せしめる意義を有してゐるのである。

尙、此の外、驛本來の設備は云ふに及ばず、郵便局、警察官派出所、移動警察、憲兵派出所、名古屋市觀光案內所、ツーリストビユロー旅客大食堂等を屋內に集め、更に「コンコース」の左右、乘車地下道、降車地下道の中二階の通路を利用して、設置せられた、食堂街、並に商店街は旅客設備としては新機軸であり、理髮店、浴場、等も整備されてゐる。

此等の諸設備に配せられる、電力、通信、機械設備は、完全に科學日本の誇を標榜し、旅客驛としては、從來見られなかつた機能を具體化し、茲に一つの新しき進み樣を示してゐるのである。

而も、此の驛はその外部より見る形態は實に簡明の二字に盡るものである。正玄關を中心として、將來增築される部分を除いて、正面は全くの「シムメトリー」をなして、長大な建造物の中心を强調し、外觀は單調な「タイル」を以て覆れて建築の構造を如實に表現し、無用の死荷重を輕減し、採光面積を充分取るが爲には、外壁の3分の1程度の「ガラス」の面をさえ持つてゐる。尙、その內部に至つても、壁といひ、天井といひ、耐震耐火建築の構造を其儘現して何等の虛飾を持つて居ない。特に出札廣間の如きは、從來工場建築にしか見なかつた鐵骨構造をさへ、其儘の姿を以て、露出してゐる。最早、我々は從來の建築に見られた樣な裝飾的な細部內、構造を詐る無意味な添加を施す事に對しては、我々の理性も感情も之を許容し得られないものであつて、之こそ、我國民の本來の美意識に順應する所ではあるまいかと思ふ。

古く、明治5年、塗壁式の洋風建築であつた新橋驛から、初めて汽車の通つた、繪草紙に見られる時代より、我國有鐵道が世界に擢で、「日本の鐵道」の現在をあらしめたのは、之全く廣く外國文化を攝取し、消化し、よく世界的なものゝ理解によつて齎らされた一つの創造であつて、決して、自主的、排他的な狹量からではあり得ない。

我國民性は常に溢れる進取的な、剛健な、而も率直な氣質を以て、古きを棄て一步進んで新しきを攝り入れ、常に以前の態度を以て、之を日本的なものを造り上げ、完成して行く。今日の日本は、旣に外來模倣の時代の殼を破つて、最早、過去に執着する時でなく、世界的文化に對し充分正しき認識を以て、批判出來る丈の發展をして居る。建築に於ても未だ新しき日本的なものには現在到達してゐるのを見得られないが、今日、その道程にあることは明言し得られると思ふ。蓋し、我々の美意識に訴へられるものは、伊勢神宮の素朴な白木の鳥居や、淸楚森嚴な神殿に見られ、桂離宮の禪味ある構成に過ぎずして、現代の誤れる日本的と稱せられる、虛飾的細部に滿された建築物に於てゞはない。自分は、此の新名古屋驛の建築か、斯ういふ意味から今云ふ日本的な樣式を完成してゐるものであることは、敢へて、云ひ得ない。然し乍ら、此建築物が、他から何の物拘束をも受けず、ノビノビとした自由な氣持で建設され、而も、之に從事せる我々が、此の日本精神に就て、教育され、自覺し、鞭韃督勵されて、此の工事に終始したといふ事丈は云へると思ふ。從つて、日本的なるや否やは、結局は、後世の歷史家の批判に俟たねばならないが、此の建築の樣式を問はれた際、日本式だと憚らず答へてゐるのは、斯うした意味からであるにす

ぎない。然し、此の建築の持つ、唯一の指導精神は此の日本式なる言葉に盡きるのである。

凡そ、此の名古屋驛改良工事はその計畫立案より今日迄に十九年の星霜を經てゐる。その間、斯様な公共的大工事には、驚くべき多方面に關聯を有して居るのであつて、之が今日正しく豫定の進捗を爲し得たのは、實に上司、同僚の別なく、關係關廳、民間關係者等の終始變らざる熱誠なる支持を得た所以であることは云ふ迄もないことである。然し此工事と寢食を供にし、身命を堵して、從事した我々技術者の目から見ても、よく打續く艱難を克服して、今日をあらしめた原因を追究すれば、結局は此の工事が得難い幸運に惠れてゐるといふ言葉以外に說明し難いものがある。

抑々、此の改良工事が本格的になり始めたのは、大正12年頃からであつて、その前年は主として土工、並びに貨物關係の大工事に終始したのであつて、盛土された廣大な高架線を背景として、旅客驛建築工事の初鍬を入れられたのは、昭和9年の8月であつた。

此の建築工事が、それ以來2ヶ年半にして、鐵道局廳舍、及び、貴賓室關係の內部工事を除き、茲に無事豫定通り開業の運びに到達し得た。

今、この期間を顧るにつけ、此の工事の背後に流れる、力强き時の力と、此の工事の進捗上、惠まれた自然の力と、此の工事に當る係員の不斷の努力と、民間業者の不撓の精力が一體となつた成果であることを考へることが出來る。いづれも直ちに人間の智能を以つてしては、克服し得ざるものであつて、之をよく摑み得たる建築こそ、初めて內容外觀共にその充實せるものを見られるものと思ふ。

時は恰も、我が國鐵が全國的に創業以來始めての華かな大建築時代を實現して居る現在である。各種各都市の改良工事の進展と共に、愈々鐵道の建築物が從來の應急彌縫的改良設備では到底滿足する所とならず、殆んど同時に大改築を必要とする時期に遭遇し、國家的に高まりつゝある文化產業の動向に相呼應せんとして居る狀態にある。本省の廳舍、信濃川發電所、新大阪驛新天王寺驛を始め、仙臺、金澤、鳥取の各驛、其の他新潟、廣島の鐵道局廳舍等一齊に工事は進められ、我國鐵の一大建築時代を呈してゐるのである。

此の際、名古屋驛がその先驅を爲した譯であつて、近來稀な國鐵の黑字時代と、一般の物價安、好景氣との順調なる時代の波に旨く乘り得たのである。

亦、此の建築工事は進捗上如何に、自然の惠みを受けて居るであらうか。何といつても工事は天然自然を克服して文化を建設せんとする戰場であつて、人と人との間の工作ではなく、對手は侮るべからざる自然そのものなのである。頗る單一であるが、容易に人智を以つて豫知し得られぬ事態に遭遇する。土を堀り、「コンクリート」を練り、鐵骨を建て、壁を塗る、總べては原始的な單純なる人の力によらねばならぬ。我々に怖ろしきものは、自然の力である。この開業以前の2ヶ月の間に、昨年の如き寒氣に遭遇し、又降雪があつたならば、又、昨年の梅雨期が、あれ程に空梅雨でなかつたならば、2月1日の豫定の開業は到底困難であつたであらう。かくの如き單純な天候と云ふものにも、我々は最早抵抗

し得られないのである。工事上重大な天候は最後の1ヶ年を通じて極めて好調であつて、豫期以上に進捗し得たのはむしろ天佑であらう。

尙此の外に、此の巨大な名古屋驛が極めて良質な地盤の上に建てられてゐて、爲に、基礎工事に一本の杭も用ひなかつたと云ふことを考へるに至つては、全く、地の利を得たと言ひ得られるのであつて、之が工費の節約と同時に、工期に動きを生じなかつた大なる原因をなして居る。當名古屋市は全般に洪積層の砂盤上に立つてゐて、東京、大阪の兩市に於いては想像も出來ない地質的に良好な土地である。基礎に對する種々の埋設された工法は、今見ることは出來ないが、此の驛が一本の杭も打つことなく建つて居る。と云へば夢の如く驚く人もあるであらう。

次に、新名古屋驛が建築工事として持つ一つの大きな誇は、之が如何に迅速に施工されたかと云ふ事實である、2月1日の開業期日はこの大改良工事の當初より約束されて居たものである。然し設計上の調査研究とか、不慮の災害とか、工事從業員の不足とか、その他種々の困難な事情に煩はされて長期に渉る此の廣汎な工事は、仲々、豫定通り進行するものでなく、結局、此の工事の總決算を擔當する大建築工事も、充分なる工期を與へられなくなるのは當然の事である。然し之は此の工事に止まらず、公共建築中、旅客驛の持つ特徴であつて、關係筋の廣い此の複雜な組織の上に出來上つて行く旅客驛の工事が、如何に煩鎖な上にも、如何に「スピーディ」な施工計劃によつて進められたかを考へて欲しい。

特に旅客驛の建築は、單純な造型でなく、機械でなく、構造でもない、一ケの複雜な巨大な有機體を形成して、之が豊かな感情と强い意志を持つは云ふ迄もなく、生物の如く呼吸もすれば飯も食ふし、排泄もする、全身をめぐる神經系統もある。そして總べての部分に無駄を排し、機能的でなければならぬ。而も、之が、鐵と「コンクリート」と「ガラス」等とによつて、形態付けられる。我々は之を造り、育て、之に榮養を與へ教育する責務を負はされて居るのである。

今、1ヶ年以前の今日を振り返つて見るに、當時は未だ、基礎混凝土の上に10米位の鐵骨が極めて、マバラに建てられ寒風と吹雪に曝されてゐたのである。全く、何事もなす所を知らず、徒らな不安と焦燥の中にどうして此の開業を期待し得たであらうか。鐵骨工事も總量5500噸を有し、之が組立も、豫定より1ヶ月早く竣工させなければ後の見通しが着かない。昨年3月中旬、愈々軀體「コンクリート」工事に取かゝつた當時、此の4200立坪を有する、大量「コンクンクリート」を遲くとも、9月迄約5ヶ月の間に完了すべく決心した吾々の胸中はむしろ悲壯なものがあつた。頭上では、鐵骨をブンブンと持ち上げ組立てゝゐる、眞赤な鐵滓は、思はない箇所に飛び散る。その下で大工、鐵筋工、混凝土工等 500名近くの人夫が、決死の覺悟を以て、上下入り亂れて作業する狀態となつた。全く危險極るのである。怪我人が次から次からと出る。時に犧牲者も出る。當時現場に出ると云ふことは戰場に出る氣持であつて、我々毎日の仕事は力闘（FIGHT）そのものであつた。し

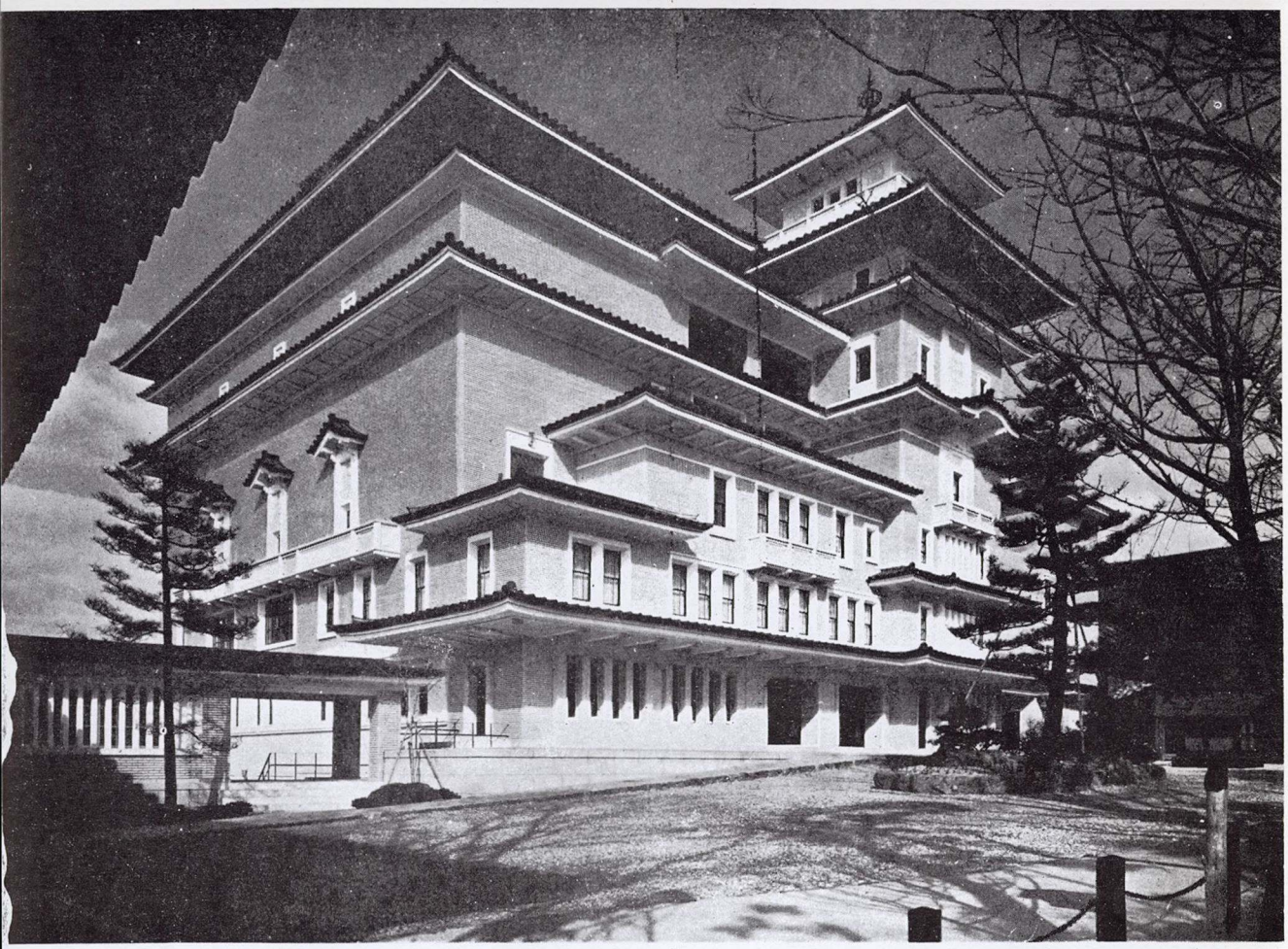
かも夜間作業し得るものは總べて夜間を利用し、各種配管工事の如きすべて夜間に實施され、翌朝の「コンクリート」の作業開始迄に終らなければならない有様であつた。雨のない空梅雨は、春より夏にかけて、工事に拍車を加へ、我々に休養の餘裕を與へなかつた。身體は疲れ、精神は弛み、我々は、之によつて起る、思はざる事故に如何に氣を砕いたであらうか。唯神頼みするより他はないといふ、あんな時期のあつたことも、今は只、夢の様である。然しその中、殊に記憶に新しく蘇るのは、8月31日午前5時より9月1日正午3分前迄の間、晝夜引續き行はれた最終「コンクリート」打上げである。約30時間で總量 115立坪の大量「コンクリート」を、百尺近い正面の屋上に於いて實施され、全く前例のない新記錄を作つた。半年の絶へざる努力の酬いられた瞬間、人夫共々互に手を握り合つて感激に震へたものであつた。そして思はず萬歳を唱へたあの時、この調子なら何とか豫定の開業に間に合ふぞといふ仄かな曙光を初めて見出した譯である。その後。5ヶ月軀體混凝土工事の終了と同時に、一階の驛關係平面積丈でも7千坪を有する内部に一齊に各種の工事は着手されるに至り、毎日1千名を遙かに超へる人員が、晝夜の別なく、入れ亂れて寒風吹きすさむ屋上から、地下に凍る土の底まで、幾多の得難き記錄を殘して、開業前日迄必死の力闘により、茲に漸く開業に到達し得た。幸ひ各工事擔當の業者がよく工事の重大性を認識し、互に聯繫協調一丸となつて、よく工事の完成に努力された爲であり、更に上司同僚の格別なる同情と激勵によりたる成果であつて、肝銘更に新なるものがある次第である。之全く此の工事がよく人の和を得たものであると考へられる所である。

今日迄、此の建築工事の現場に働いたものは40萬人の多きに達する。然し此の他、全國的に此の大造營の爲に動員された人數は數百萬に上るであらうことは想像出來る。木を伐るもの、土をねるもの、石を割るもの、熔鑛爐に鐵を造るもの、纖維を織るもの、等々等、之が此の一つの工事に働かされ、之が一つ一つ集積されて行く。考へて見れば我々は嚴肅な氣に打たれ襟を正さねばならぬ。

かくて我國民の人格の表象であり、科學の發現であり、且つ人生に即した一ケの大建築が出來上つたのである。一ケの鐵鋲、一ケの砂利、一枚の「タイル」、一枚の「ガラス」、が夫々箇々の意識を持ちピチピチ躍動するのを感ずる。

斯くの如くして、此の名古屋驛は、その計劃に當り、設計に當り、且つ又その施工に當つて、多年に亘る個人の積極的な意識と活動により、之が集積され形造られたものであつて、從來の無意識、無批判なる踏襲でない許りでなく、今日の日本を自覺せる技術者の尊き精進の賜であつて、其處に日本精神を具現して居るものと云へると思ふ。之によつて茲に我國文化の發展性を明示すると共に、我國本來の姿を表現するものであらう。大名古屋市が此の新驛の誕生により、更に振達に一段の拍車を加へ、健全なる發展をなし、あらゆる文化産業の方面に、進んで本來の認識を向上し、躍進の第二期に邁進するならば、此の驛の持つ指導精神に則るのみに止らず、幾百萬の人々の献身的な努力も報いられるものと云へると思ふ。

昭和12年2月中旬(終)

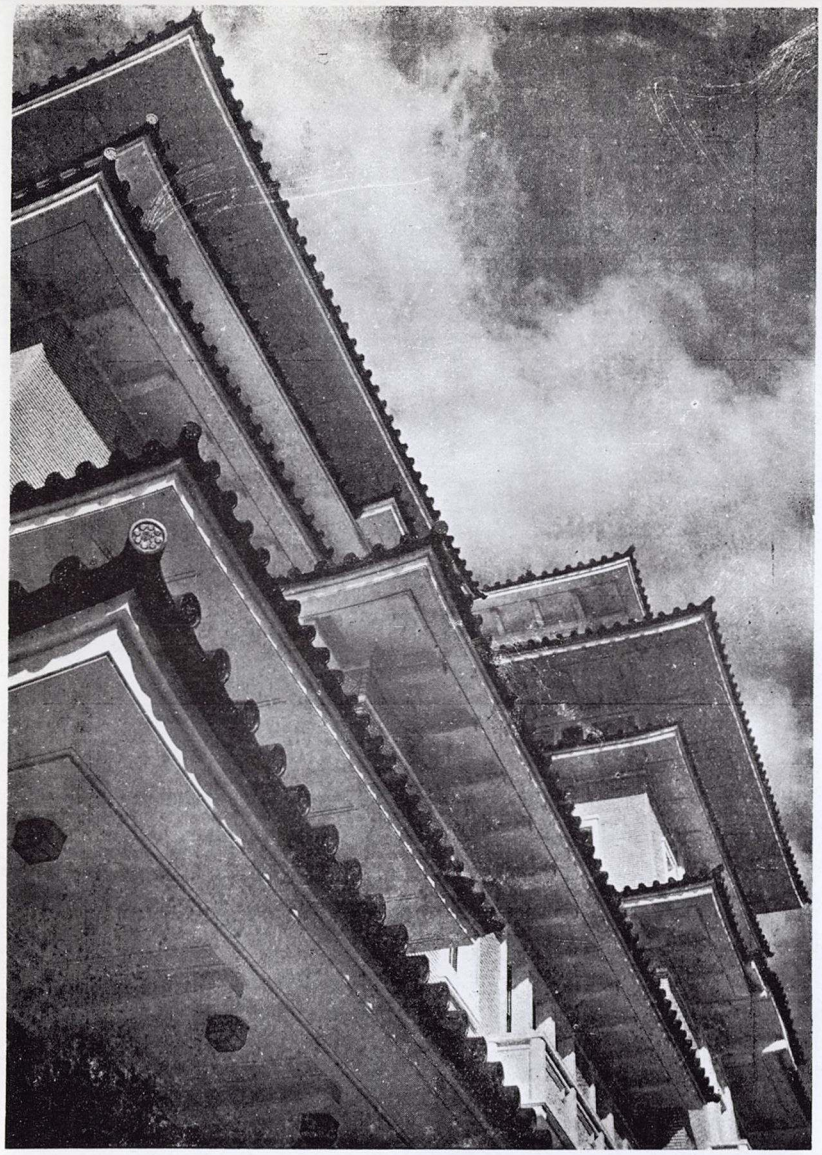


外觀全景

祇園新地彌榮會館

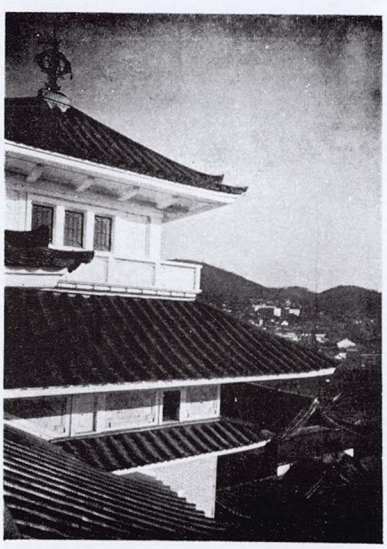
位置	京都市東山區祇園町南側570番地の2
工程	起工 昭和10年10月4日 竣工 昭和11年12月30日
敷地面積	14209.09平方米(4290.25坪)
建築面積	建坪 1629.110平方米(492.81坪) 延坪 8268.213平方米(2501.03坪)
建築高	軒高 最高 24.50米(80.85尺) 棟高 最高 26.60米(87.78尺)
主體構造	鐵骨鐵筋混凝土造
設計・施工	株式會社 大林組

"彌榮會館" 設計・施工・大林組

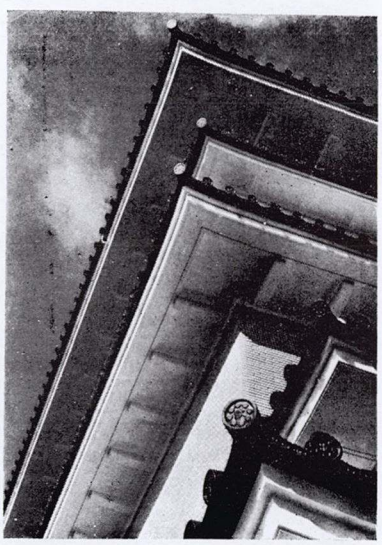


軒廻見上圖

軒廻見上圖



最上層屋根

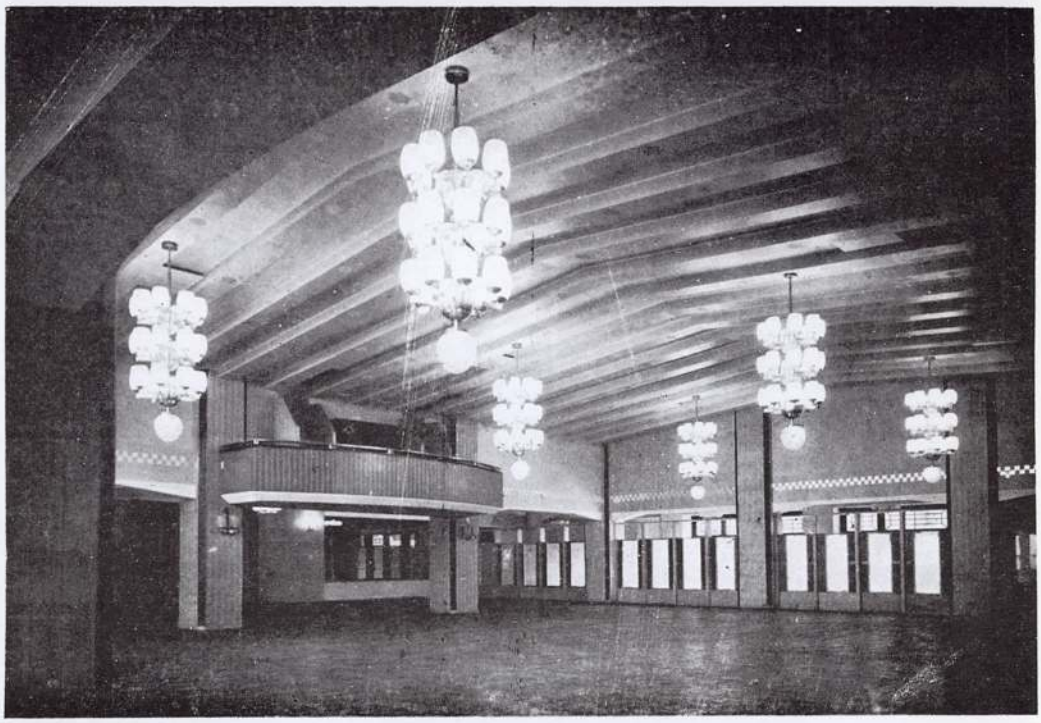


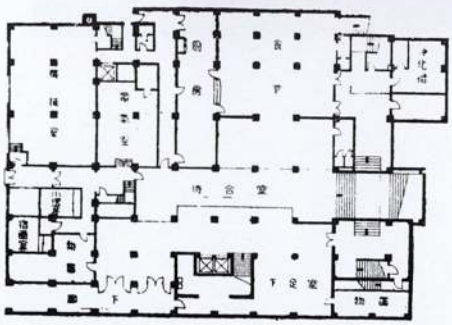
IV 2 "彌榮會館" 設計・施工・大林

正　　門



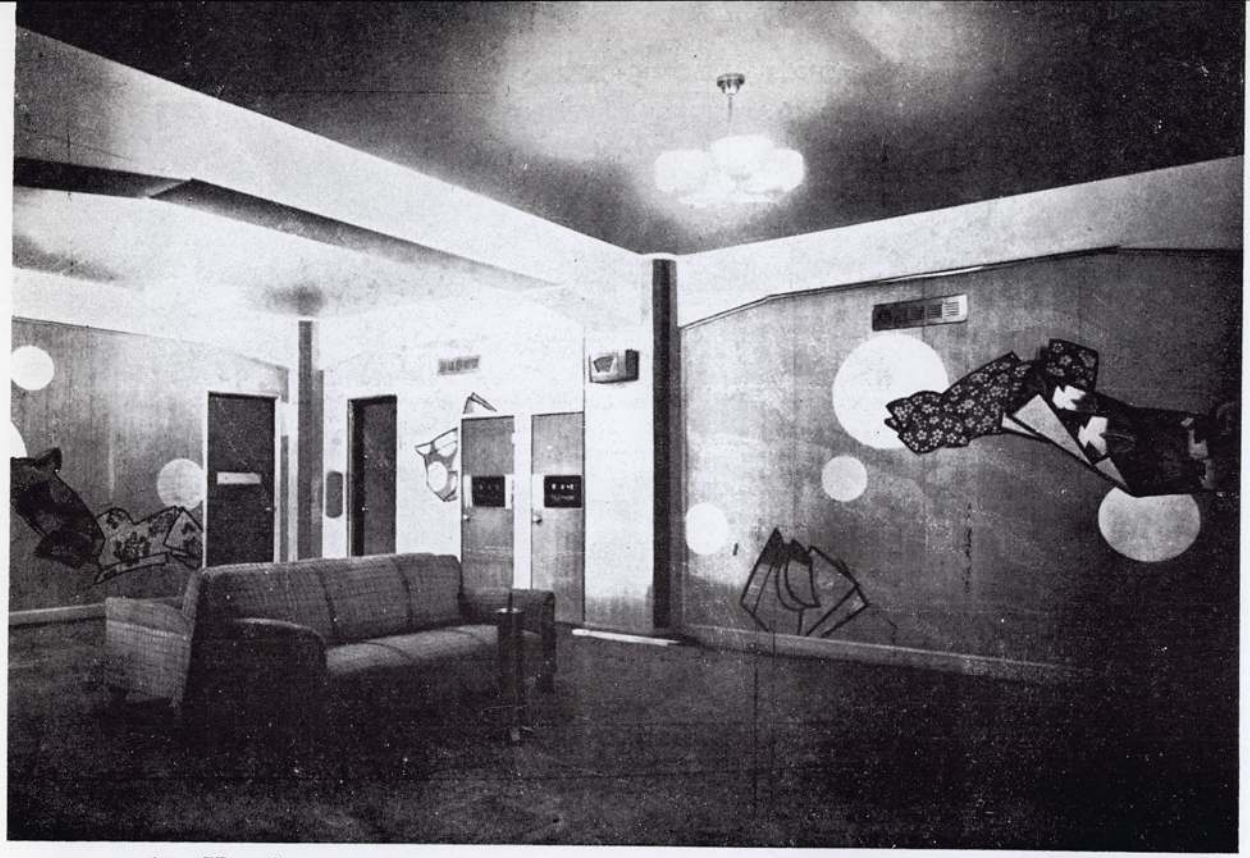
1階大ホール





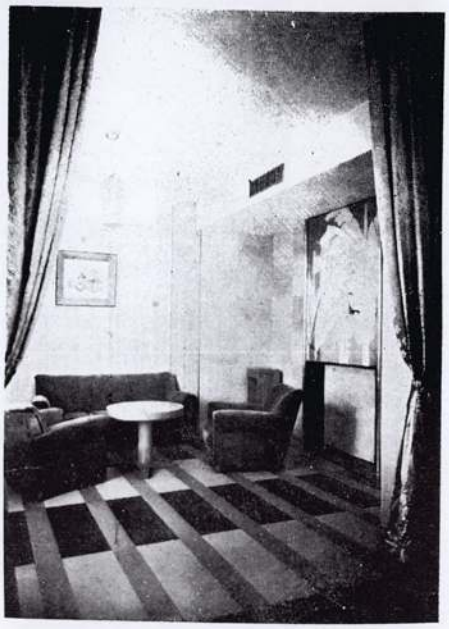
地階平面

“彌　　榮　　會　　館”　設計・施工・大林組　3 IV



玄關ホール

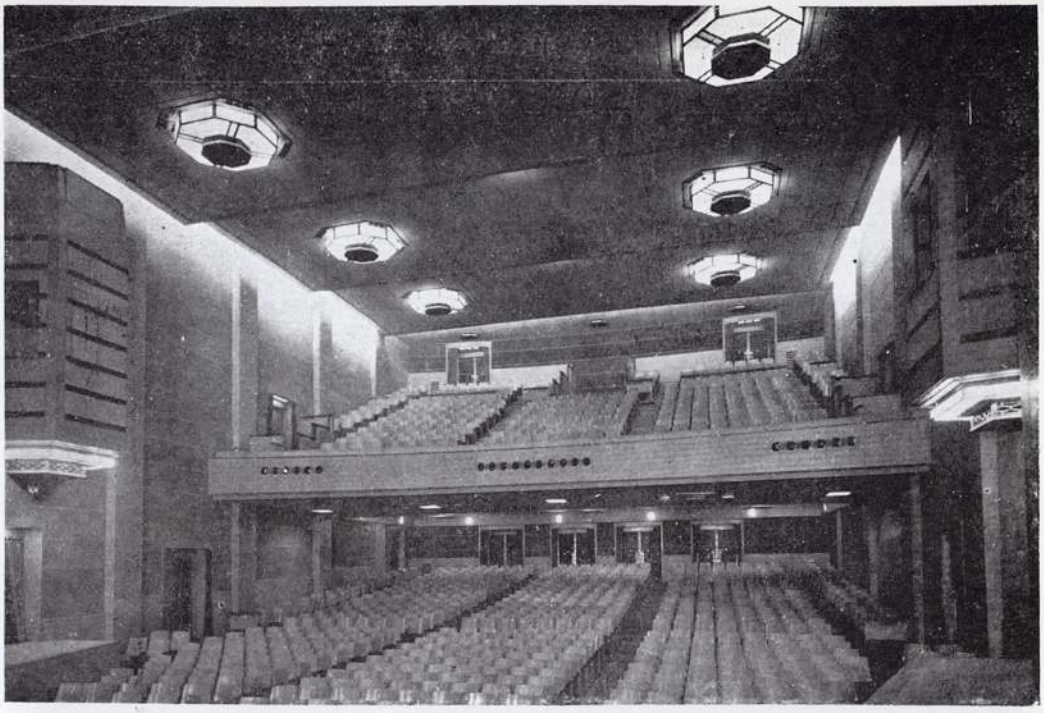
貴賓室



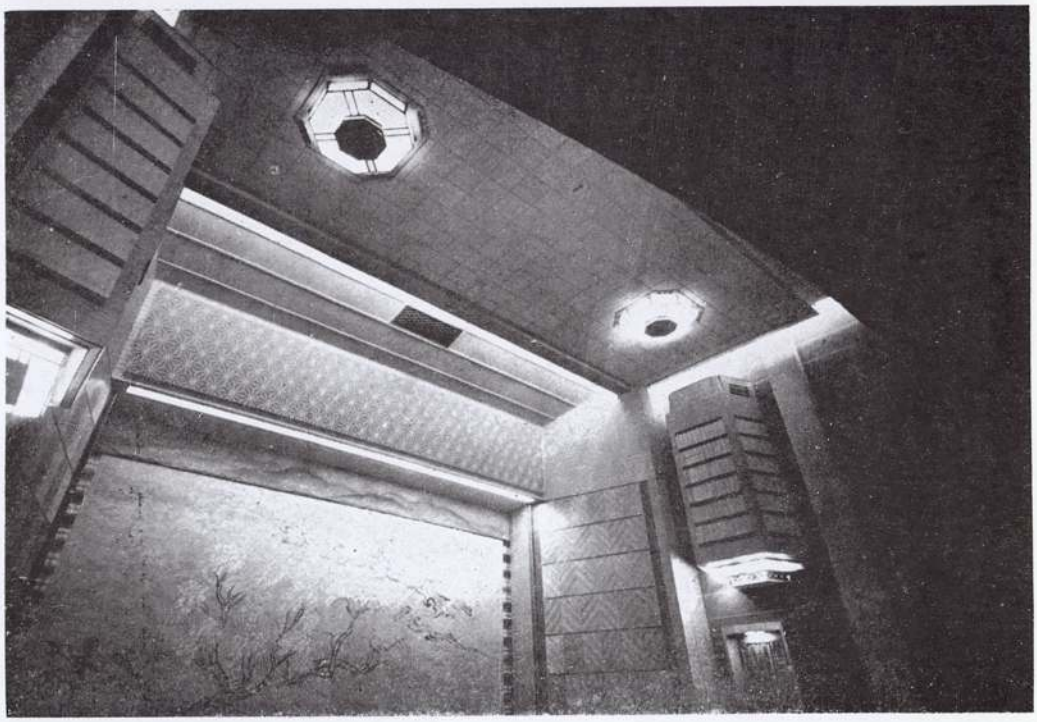


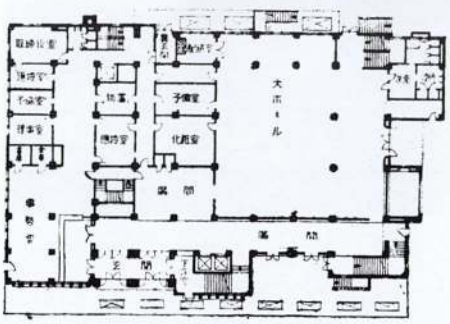
會議室

公　演　場



公　演　場

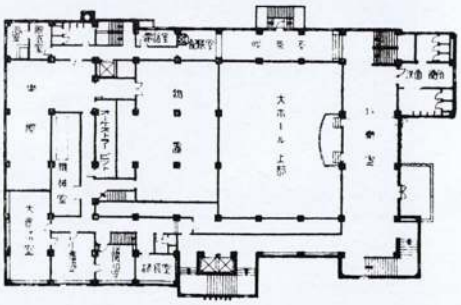




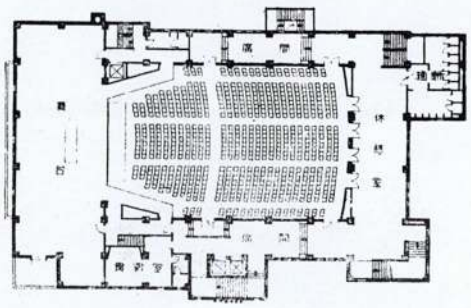
1 階 平 面 圖



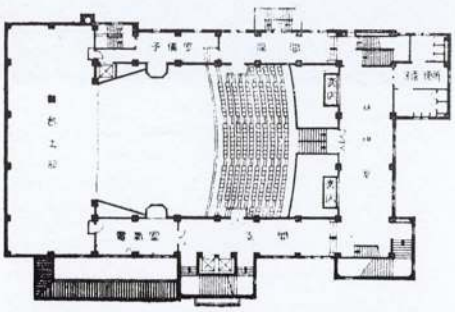
3 階 休 憩 室



2 階 平 面 圖

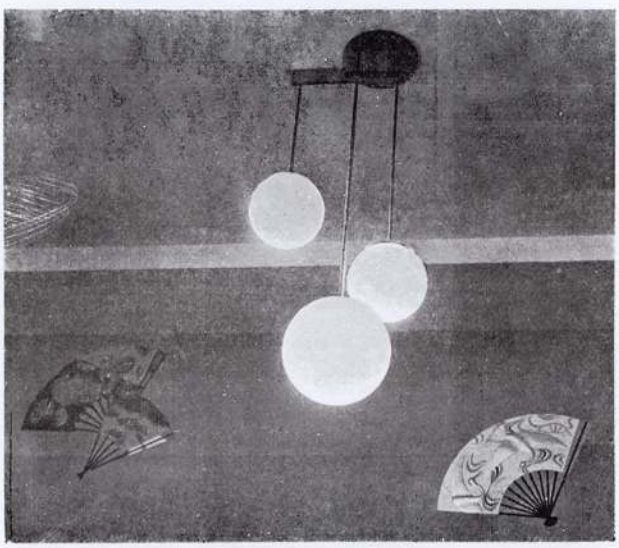


3 階 平 面 圖



4 階 平 面 圖

休 憩 室 電 燈 器 具



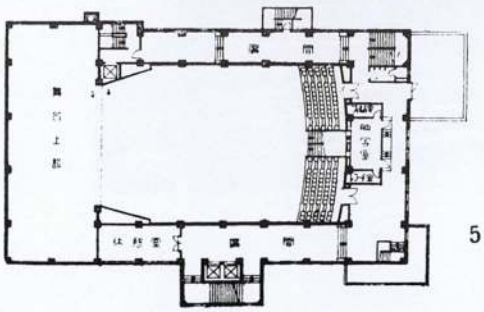
IV 6 "彌　　榮　　會　　館"　設計・施工・大林組

地下室食堂

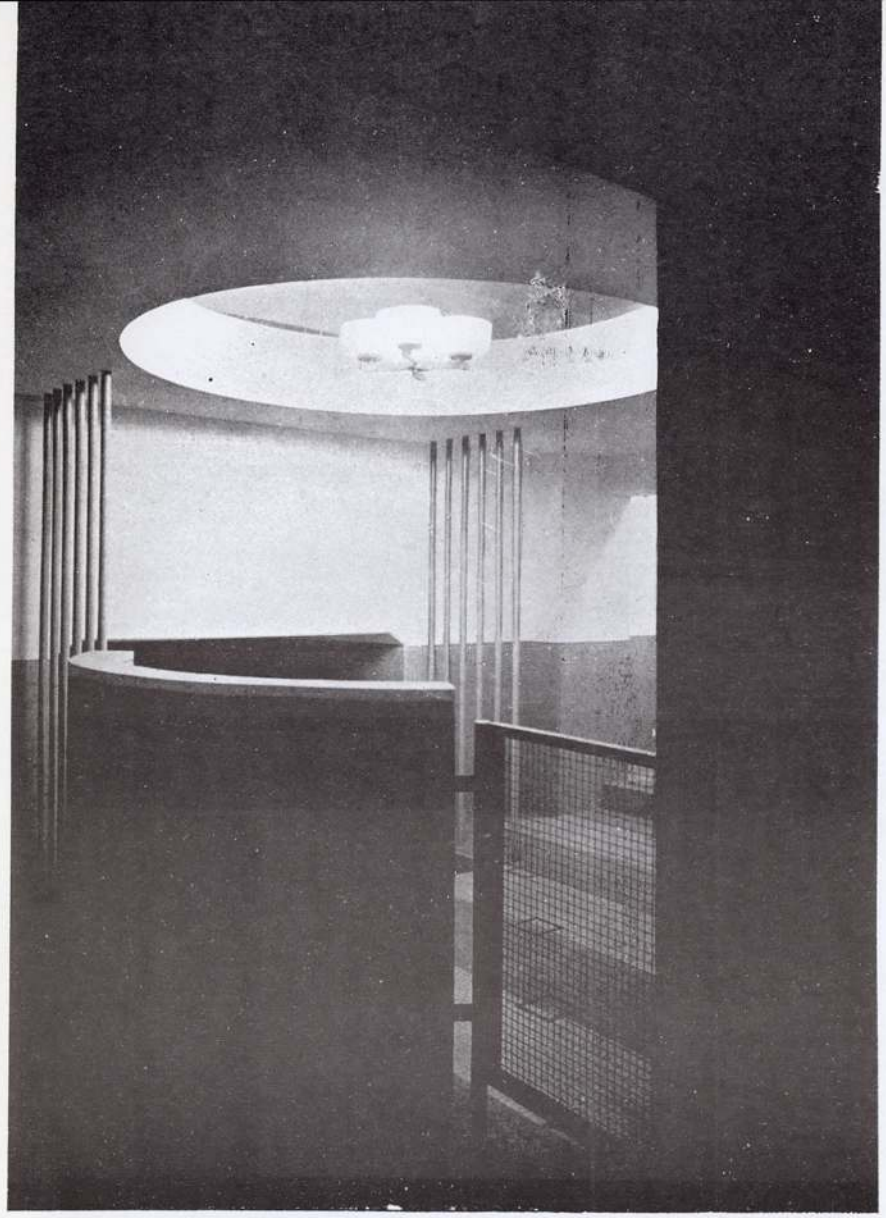


地下室食堂

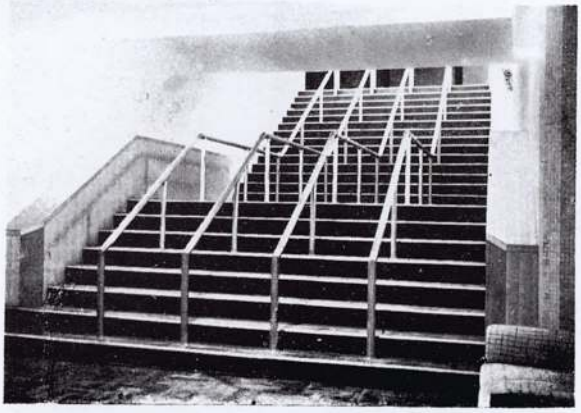




5階平面圖



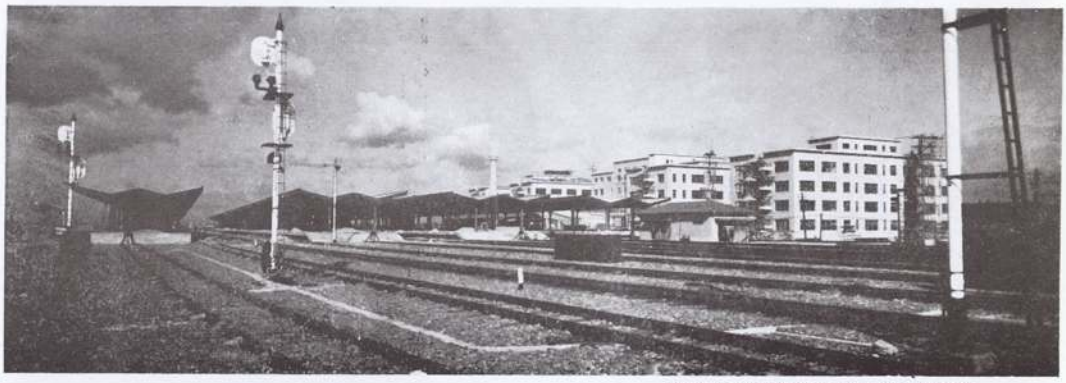
地階ホール



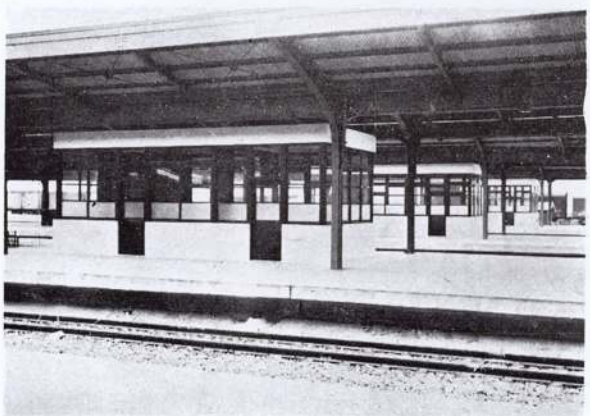
大階段



驛本屋正面



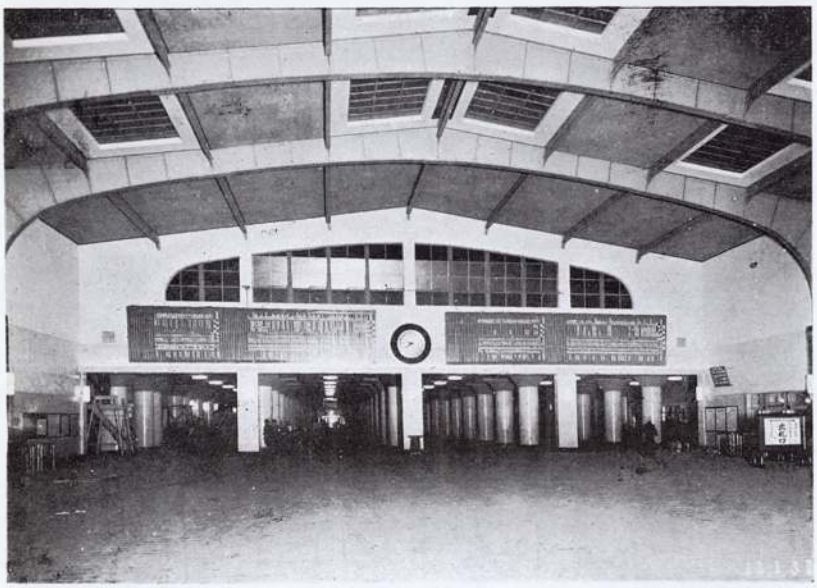
構内より乗降場上家及本家を望む



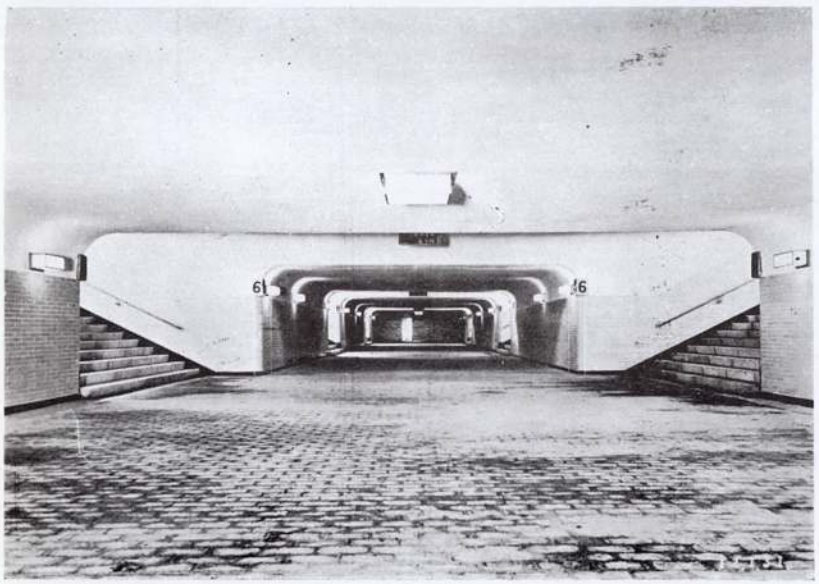
乗降場上家内待合室



集　札　廣　間



集　札　廣　間



降　車　地　下　道

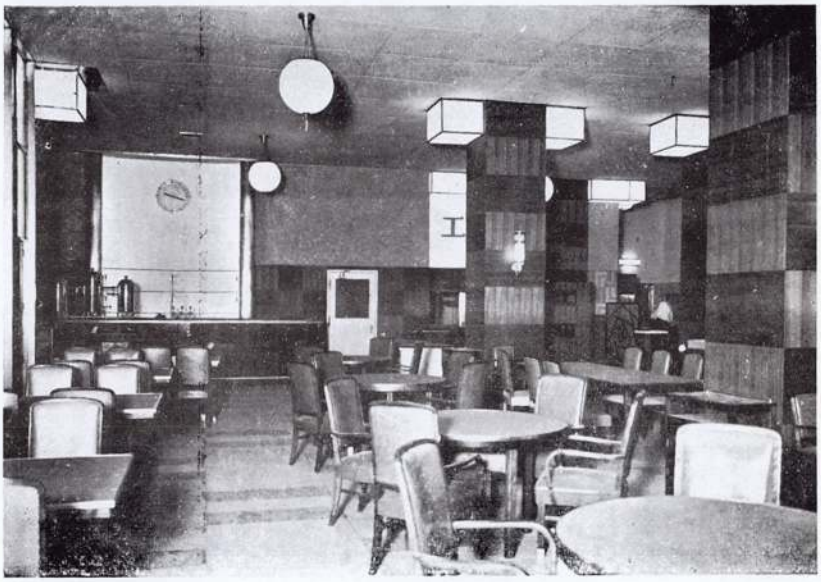
乗降場階段



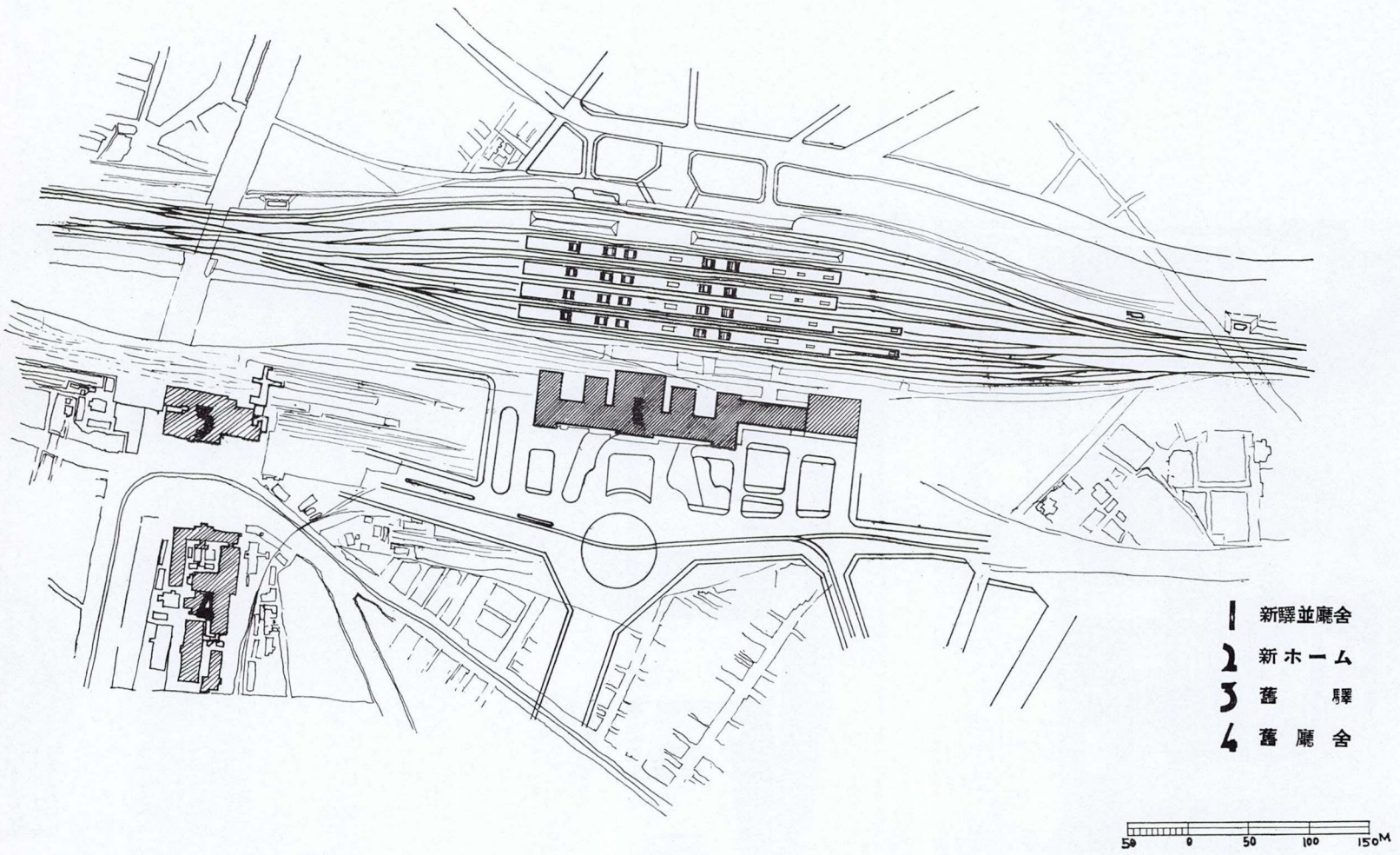
東海道線
3等待合室

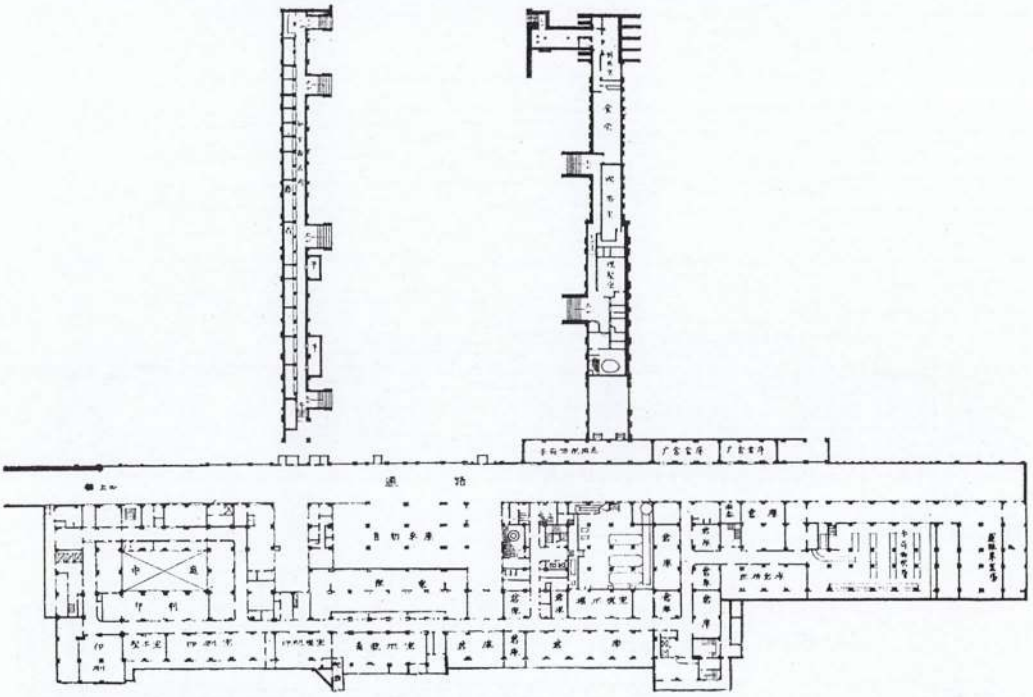


旅客大食堂

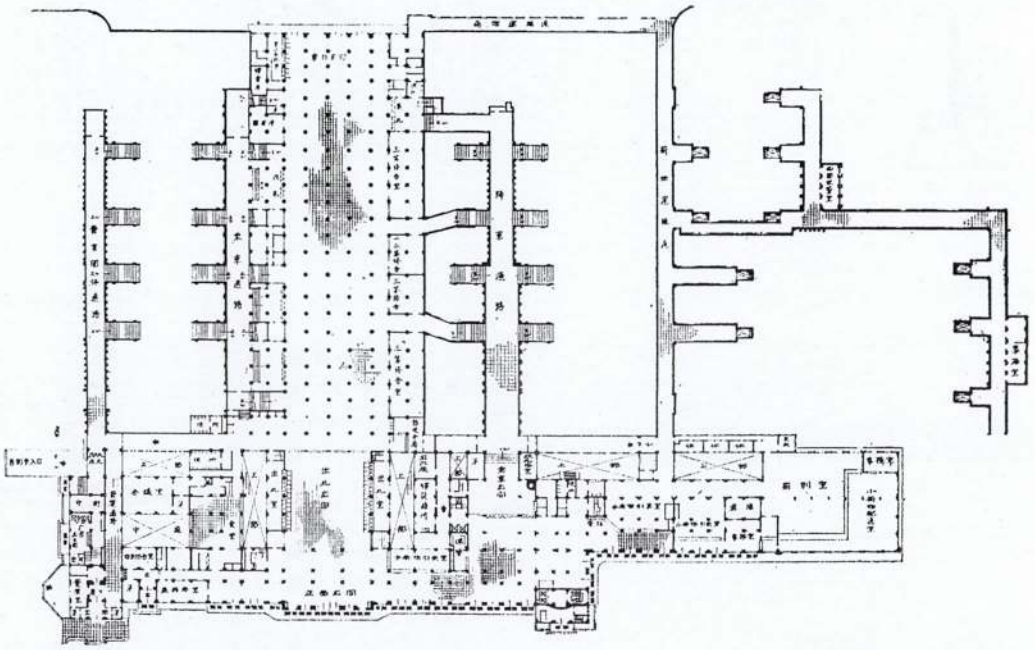


位　　置　　圖

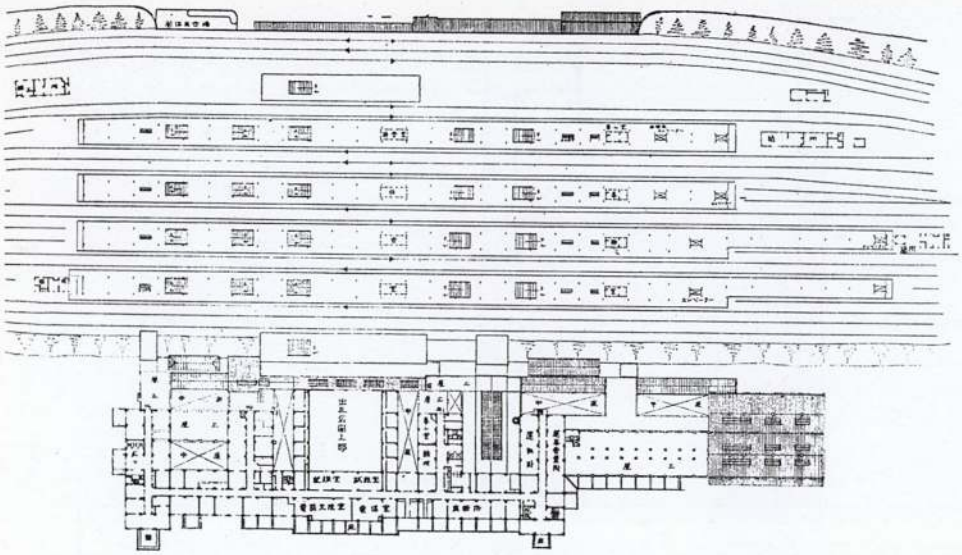




地階平面圖

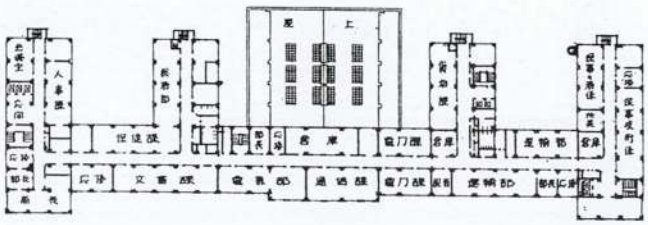


1階平面圖

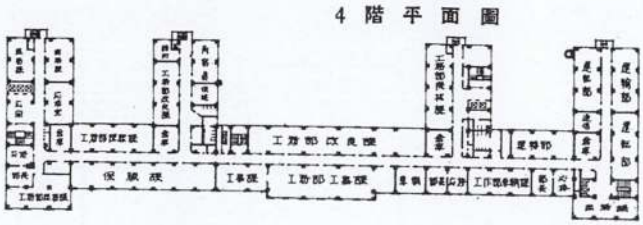


2 階 平 面 圖

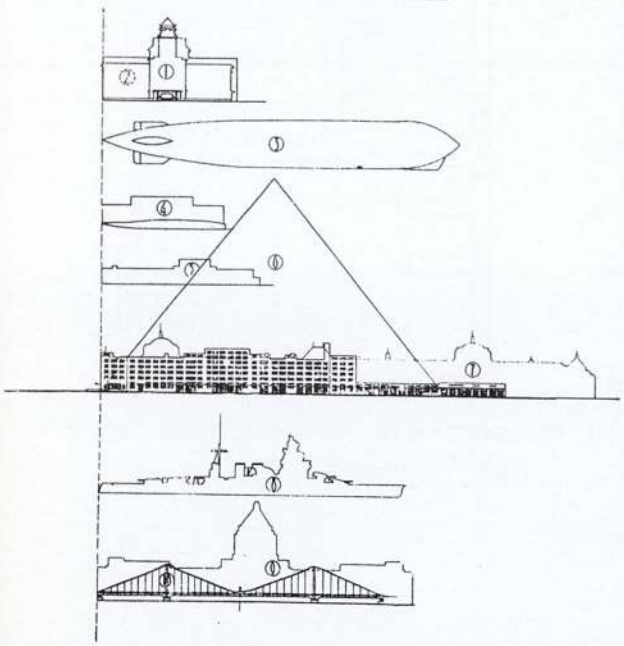
3 階 平 面 圖



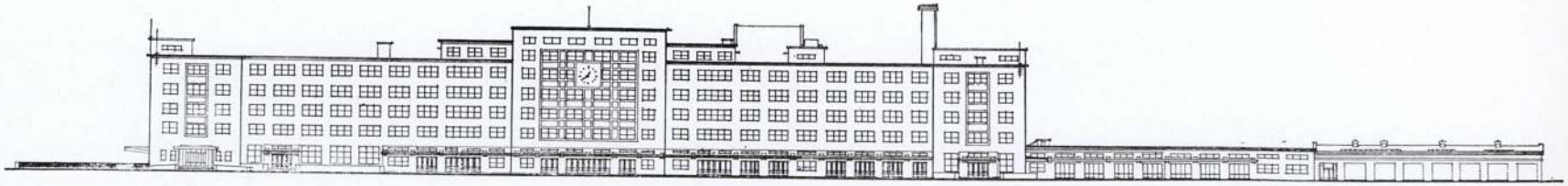
4 階 平 面 圖



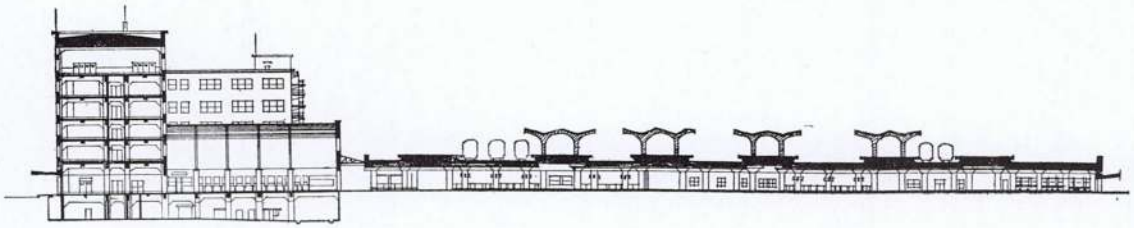
新名古屋驛並新廳舍	
全 長	264.400米突
	882.720尺



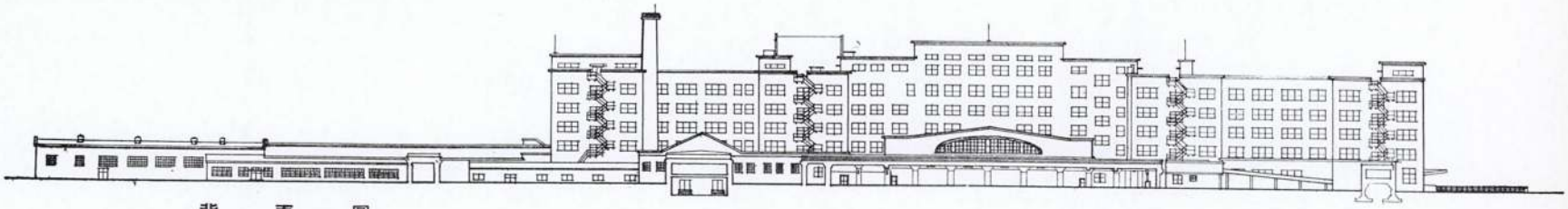
No.	名 稱	所在地	長さ メートル	長さ 日本尺
1	名古屋市廳舍	名古屋	85.000	280.5
2	愛知縣廳舍	名古屋	88.000	290.4
3	ツエツペリン飛行船	ドイツ	235.000	775.5
4	上野驛	東京	80.449	265.5
5	横濱驛	神奈川	99.500	328.5
6	ピラミツト	エジプト	224.200	740.0
7	東京驛	東京	334.540	1104.0
8	軍艦陸奥	日本	200.910	663.0
9	國會議事堂	東京	206.360	681.0
10	清洲橋	東京	186.730	616.3



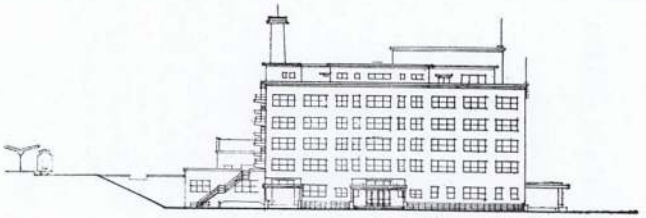
正面立面圖



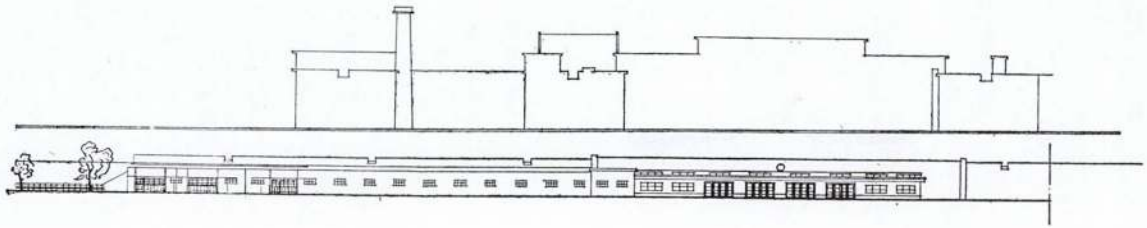
斷面圖



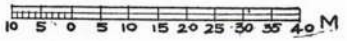
背面圖



裏口正面圖



裏口正面圖



名古屋旅客驛工事概要

1. 名古屋驛改良工事計劃要旨

名古屋驛は明治19年3月1日營業を開始したるものにして、漸次その機構は擴張せられたるも、中部日本產業の中心地たる名古屋市の發展は、逐年發盛を極め、旅客の乘降及貨物の集散は年と共に激增し、舊來の設備にては完全なる使命を果すこと不可能となりたるに至り、大正8年12月漸く、當改良計劃案の骨子が決定さるるに至る。

即ち、運輸數量逐年增加の將來に備へ、昭和20年の推定量の下に、從來の形式を變更して、旅客驛、客車操車場、貨物驛、貨物操車場、と夫々作業狀態による分離を行ふことゝなり、就中、旅客驛は、その中心を西北約5百米の地に變更し、且つ乘降場を高架線上に置きて、其下部を『コンコース』、待合室と充當し、驛本屋と鐵道局廳舍とは合築して建築され、驛本屋西口の新設前に、驛前に大廣場を設置する等の根本的大改良計劃を樹立せられたり。

1. 旅客驛建築設備概要

(1) 驛本屋並鐵道局廳舍

建物の大さ
- 間口　165.4米（全長264.4米）
- 奥行　52.5米
- 高さ　地上　27.8米（地下）（6.4米）

構造　地階を含み6階建、一部7階建、鐵骨鐵筋コンクリート造

外裝　大部分は青磁色を加味せる薄『クリーム』色『タイル』張、
一部琉球石張、正面各玄關腰壁は黑花崗張

驛內部仕上　床『クリンカータイル』張、腰壁琉球石張

1階は主として旅客驛にして、地階及2階の一部を除き、他は鐵道局廳舍、及び運輸、保線兩事務所に充當さる。

建築面積

驛本屋	延面積	約	14,400平米（4,320坪）
局廳舍	〃	約	25,500平米（7,650坪）
驛附屬建物	〃	約	1,200平米（ ,360坪）
總延坪	〃	約	41,100平米（12,330坪）
建坪	〃	約	11,300平米（3,400坪）

(2) 高架下

イ、『コンコース』
巾33米、長131米（約1,300坪）
床『アスファルトプロツク』敷
柱及腰壁　琉球石張、
天井『テツクス』張、

ロ、旅客待合室（合計220坪）
壁、一二等待合室は『ベニヤ』張、三等待合室は『タイル』張、床『クリンカータイル』張、天井『テツクス』張

ハ、各地下道
乘車地下道　巾7米、延長約100米
降車地下道　巾7米及10米、延長約124米
其他貴賓團體地下道、手小荷物運搬地下道、郵便地下道がある。

(3) 地下商店街
乘車及降車地下道の下部を利用す

(4) 乘降場
東海道線上下二本　幅員11,0米　延長30.0米
關西線及中央線　各一本宛　幅員9.8米　延長250米
鐵骨構造上家、床『アスファルトプロツク』敷、各乘降場に、待合室、助役派出詰所、洗面所を備ふ。

(5) 構內諸建物
信號扱所、構內從業員詰所等十棟。木造。合計延面積約300坪。

(6) 旅客驛內部設備
1. 貴賓室關係及特別待合室關係

1. 旅客設備關係

正面玄關廣間、出札廣間、集札廣間、『コンコース』、待合室構內郵便局、日本旅行協會、警察官派出所、名古屋市觀光案內所、旅客大食堂、公衆電話室、賣店等、
地下商店街には各種飲食店、賣店、食堂、理髮店、浴場等を配置す。

1. 業務設備

驛長及事務室、出札室、鐵道案內所、手荷物引受所、携帶品預所、小荷物引受所、手荷物引渡所等

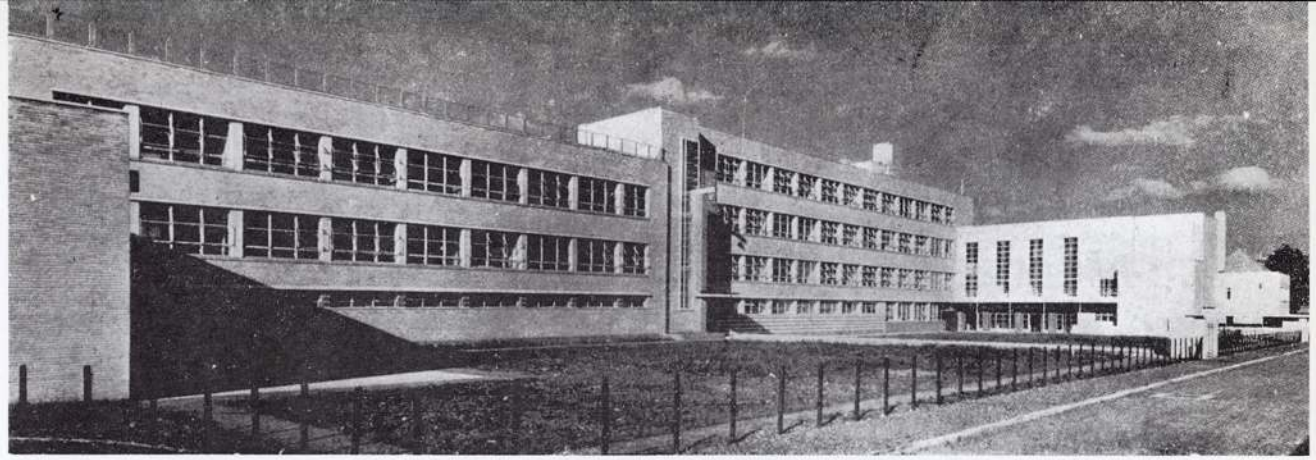
1. 工事工程

大正14年　用地買收開始、
昭和4年　旅客驛一部工事着手
昭和9年8月　驛本屋工事着手
昭和12年2月　驛營業開始
貴賓室關係工事並鐵道局廳舍關係工事は昭和12年9月完成の豫定、目下繼續施工中

1. 總工費

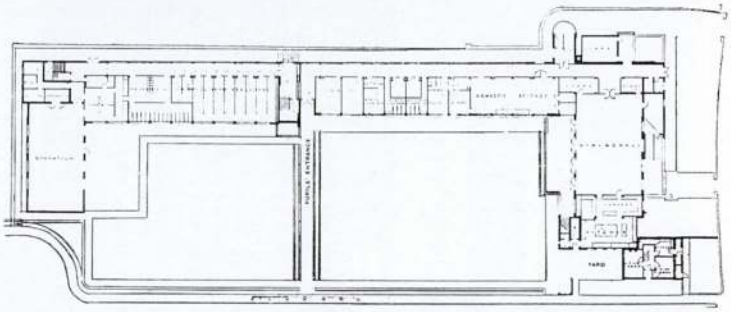
25,000,000圓（議會豫算）

內譯	用地費	7,200,000圓
	貨物設備費	3,000,000圓
	旅客設備費	5,600,000圓
	驛本屋局廳舍建築工事	6,200,000圓
	第二期工事費	1,700,000圓

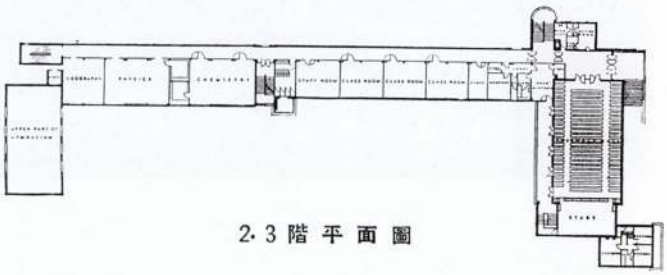


外　　觀

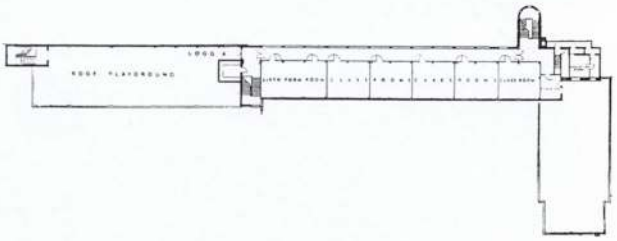
ロンドンの女學校中最古のものである本校の新校舍は男女の幼年生を含み收容人員 500人、講堂ブロックと食堂ブロックを道路側にとり、三階建の實驗室ブロックと四階建の教室ブロックは道路から遠ざけて騒音を防いである。
(Architectural Review, Jan, 1937より)



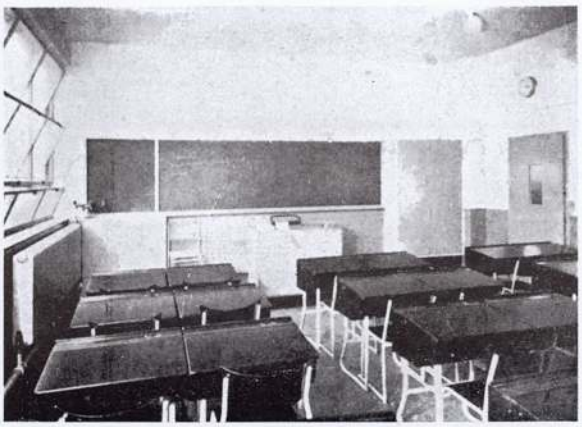
1 階 平 面 圖



2·3 階 平 面 圖

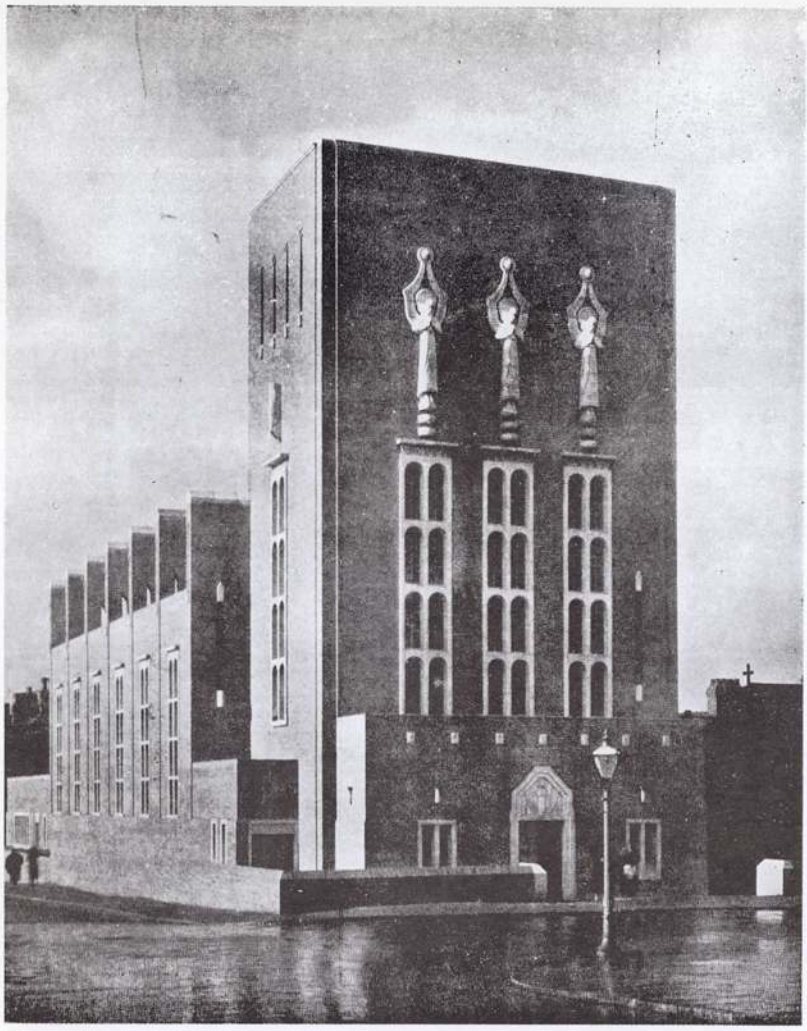


4 階 平 面 圖



教 室 內 部

(イギリス) バーリントン女學校　　建築家 Sin John Burnet, Tait 及 Lorne

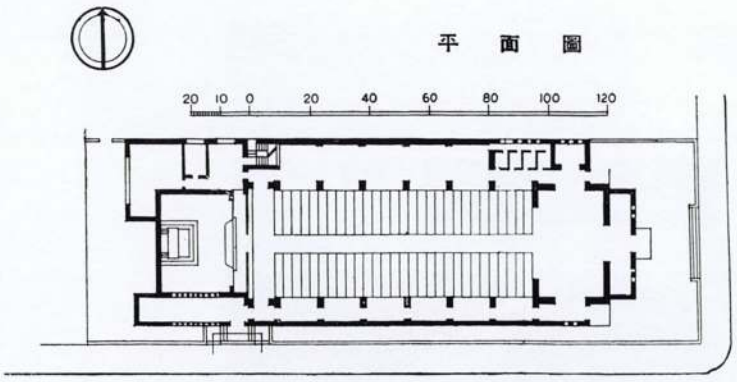


外　　觀

收容人員 850人、外部は淡紅灰色の煉瓦とポートランド石。

（Architectural Review, Jan., 1937より）

平　面　圖



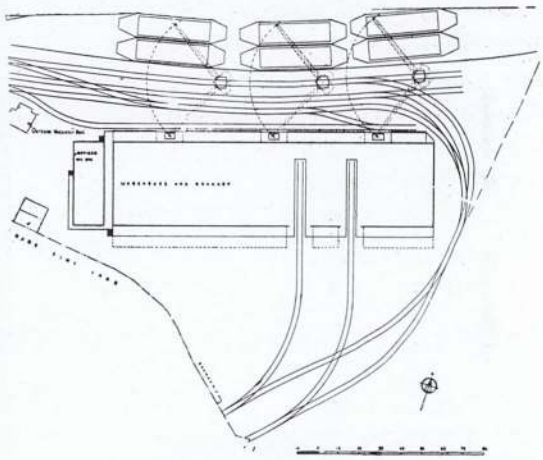
IV 18 （イギリス） リバプール附近のローマンカトリツク教會　建築家 F. X. Velarde



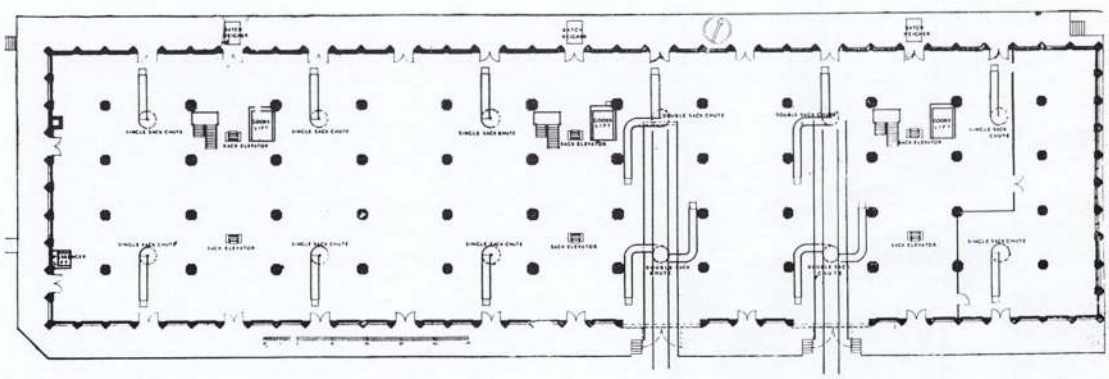
外　　觀

地盤軟弱のため基礎に長さ50尺の16吋角鐵筋コンクリート杭(耐力70t)800本を用ひ、建物は柱梁鐵筋コンクリート造、羽目壁は厚11吋の中空煉瓦造、建具は木造である。尙建物の大さは長さ93m. 幅 24m. 高塔上まで 30m. 河側及道路側には約 3m 幅の庇を有し、内部も貨物の運搬を機械的に行ふて人力を省するため、エレベーター、コンベイヤー、クレーン、スパイラル・シュート等の設備が設されてゐる。床は一、二階を Granolithic仕上、三、五、六階を穀物貯藏に適する4吋厚の松板張、1吋厚の楓板仕上等としてゐる。

(Architectural Review, Jan, 1937 より)



配　面　圖



平　面　圖

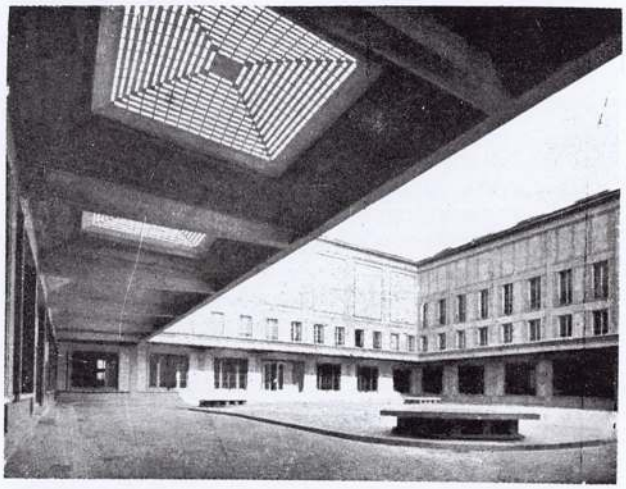


入　　口

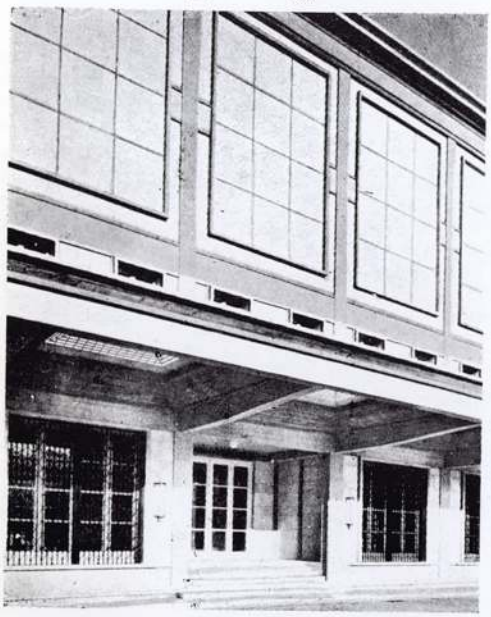
大統領邸やベルサイユ宮殿などに使ふ、室内装飾品を收藏しておく所。製作のためのアトリエもある。幾分モニュメンタールなデザインはフランス風な芳香を漂よはせてゐる。

平面圖に就て

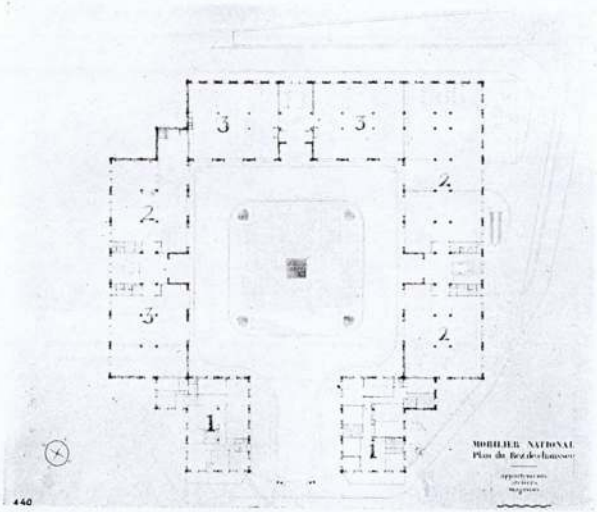
1 居　　室
2 アトリエ
3 倉　　庫



中　　庭



玄　　關

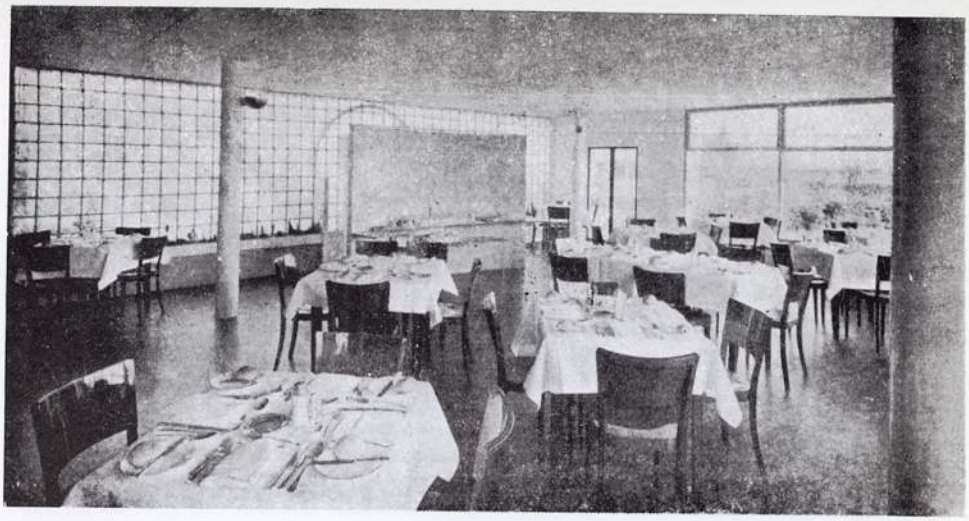


平　面　圖

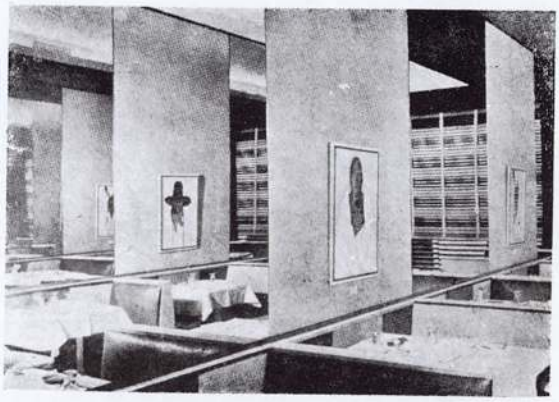
IV 20 （フランス） 國立家具寮

建築家 A. et G. Perret

Whipnade あたりで多くものしてゐる Drake & Tecton の設計のものでこれも Whipnade 動物園の近くにあるらしい。間仕切とサービス・テーブルとの組合せを入口のスクリーンに兼用してゐる寫眞の中央のハーフトーンの處が設計者の得意とする處らしい。

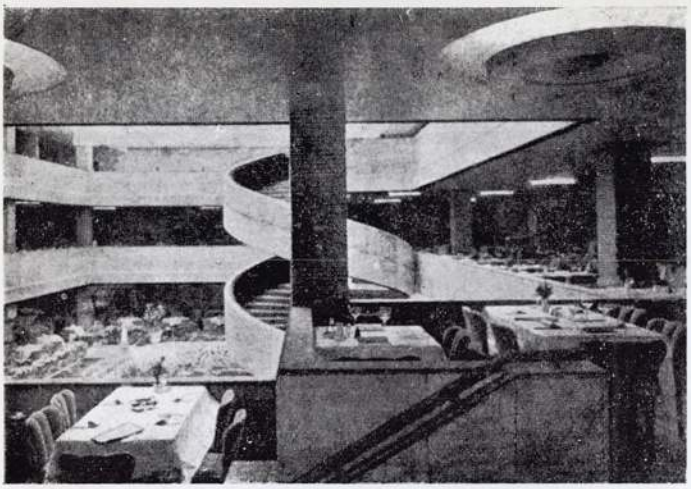


寫眞の向ふに見えてゐる室を大きく見せる爲の壁鏡と、輕いスクリーンによつて、とりとめもないプランを救つてゐる。

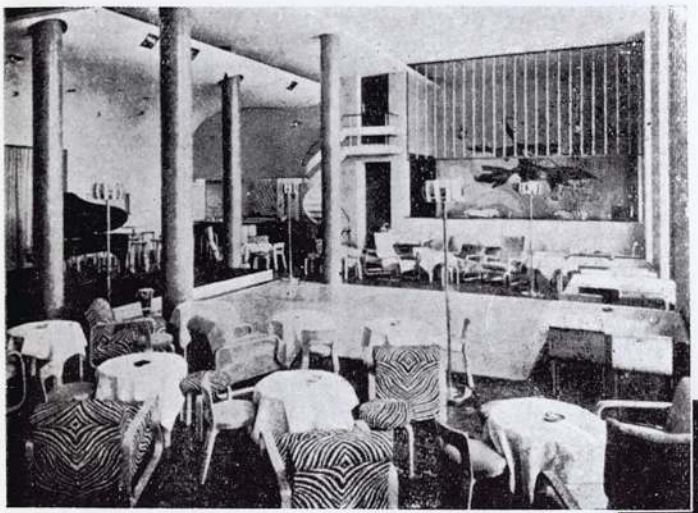


フランクフルト・アム・マインにあるさゝやかな Sun Parlor式の食堂。
(Architectural Record, Jan., 1937 より)

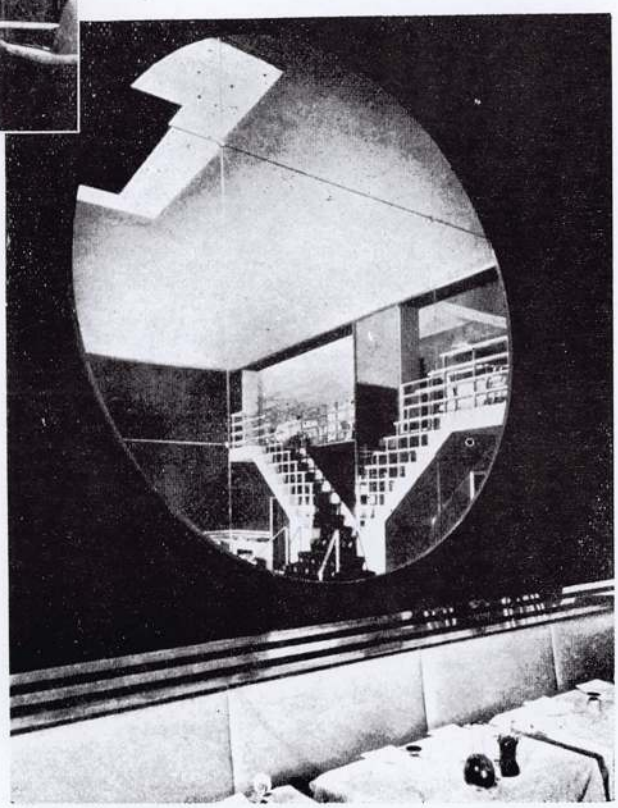




各階の食堂を連れる螺旋階段のあるベルリンのレストラン。
池園のある大中庭に面してゐる。



演奏用プラットフォームの上部に蓋さつてゐる反響板に注意。



寫眞では窺はれないが、黒色の壁と綠色の天井を對比せしめて特色あらしめようとしたくわだて。
(Architectural Record, Jan, 1937より)



外　觀　夜　景



外　　觀

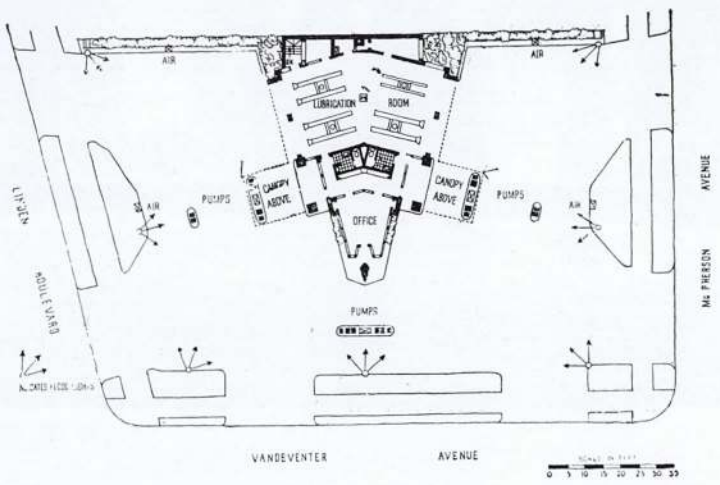
貨物及事務用自動車の交通頻繁な三叉道路の交點に建てられ、サーピス・ステイションとしては絶好の位置を占めてゐる。

法規に依つて煙突は隣接の建物より6呎高いことが必要であるから割合に高くなつてゐるが、夜間はそれをフラッドライトして遠くから目立つ樣に設計せられてゐる。

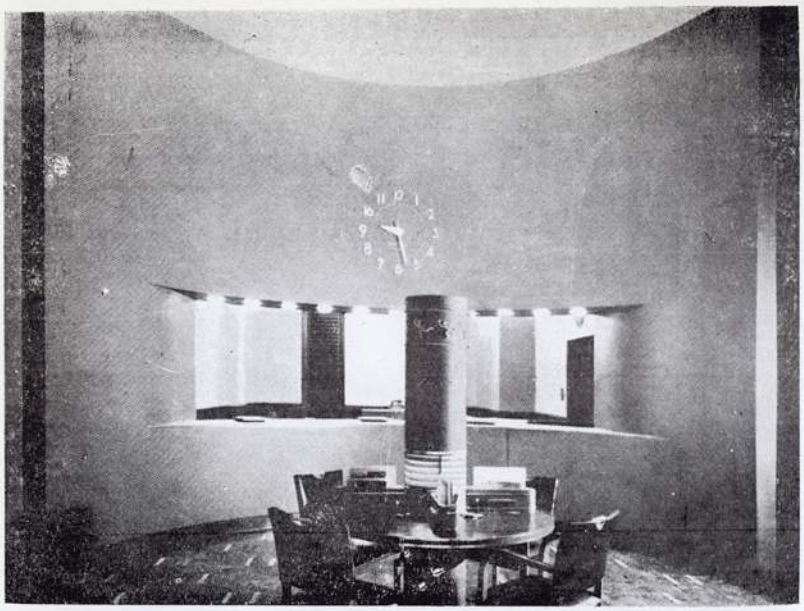
外部は固いテラコッタ仕上、サーピス・ルームの壁は磁器タイル貼、廣間床並に事務室及化粧室床はテラゾー、注油室（4臺の電動式リフトを備ふ）は壁は固い食鹽和藥掛タイル、床はセメントモルタル仕上。

事務室の窓は大きく開かれ、特殊なアルミニウムのサッシュが使用されてゐる。

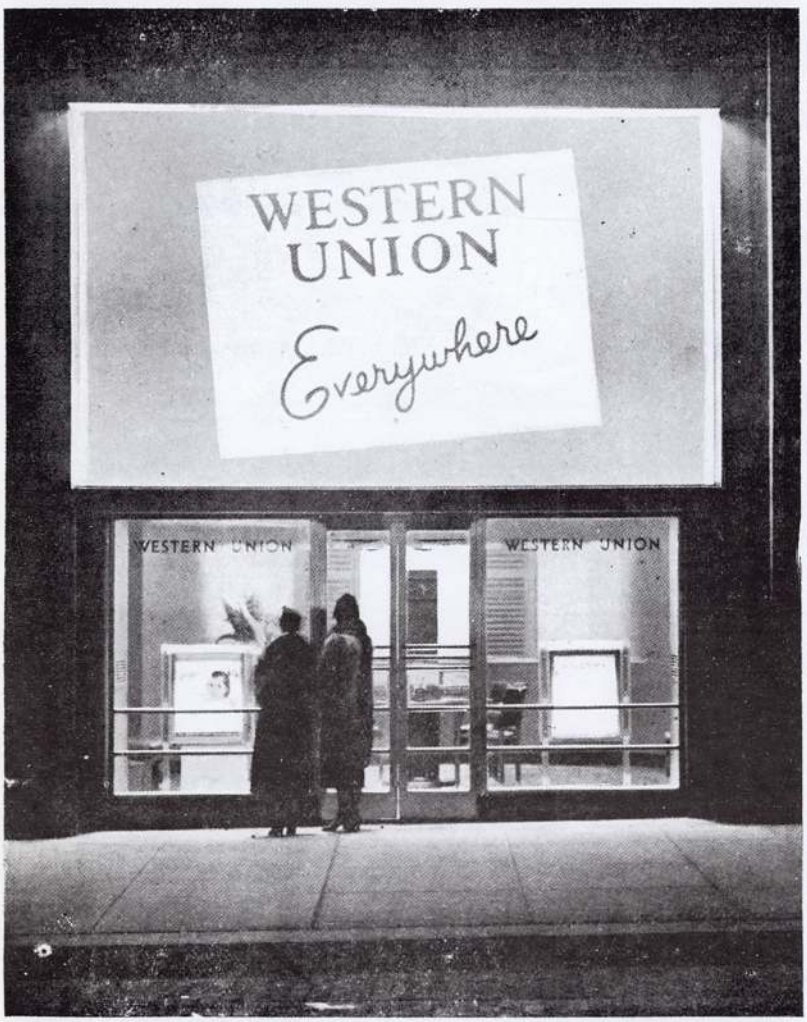
（Architectural Forum, Feb., 1937 より）



平　面　圖



待　合　室



外觀夜景

チエインストア設計の要點は、何んな場所に於ても容易に見分けられる特徴のあるタイプを作るにある。ウエスターン・ユニオン電信會社の各事務所はこの要求を滿足してはゐるが、一般に外觀が不統一で通行人の注意を喚氣するだけの魅力を持たないものが多い。

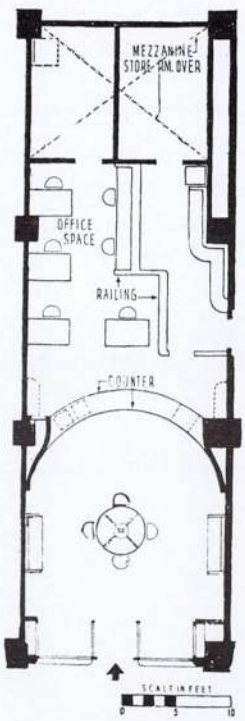
そこで、これが全般的改良の第一歩としてHenry Dreyfussは、いろいろ變化を與へることに依つて、この會社の米國各地に於ける事務所として適當な形となり得る樣な1つの實例を設計した。挿圖がそれである。

正面の外觀と、青と黃との內部の調子がこの設計の基調である。

待合室中央の圓卓、天井の間接照明、それからカウンターの上の受臺は回轉式になつてゐて事務員はそれを回轉して通信を讀むことが出來る樣になつて居る。

壁はプラスターの上にペンキ塗、巾木は青いゴム、床は褐色のアスファルトタイルの間に黃色のゴムを嵌め込む。

（Architectural Forum, Feb, 1937 より）



平　面　圖

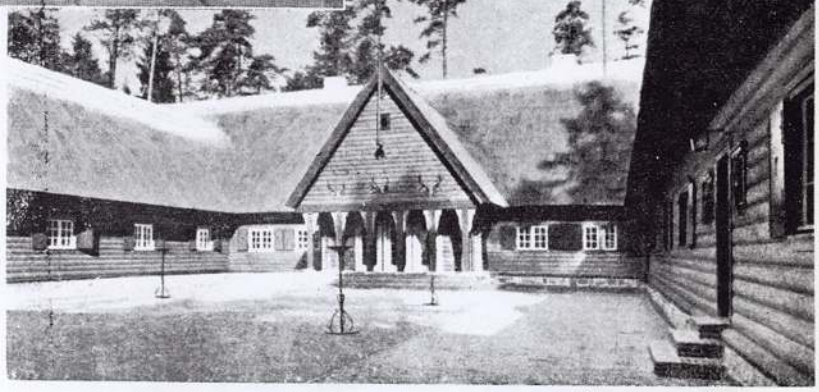


廣間より食堂を見る

ベルリン北方東プロシヤのロミンテン地方は昔から國の狩獵場として代表的のものである。この建築は6人の建築家の懸賞設計案によつて、その平面が決定され、昨年9月竣功せるもの、森の小高い土地を選んで建築され、その平面は中庭式で、自由な配室に依つて狩獵館らしい取扱いがみられる。

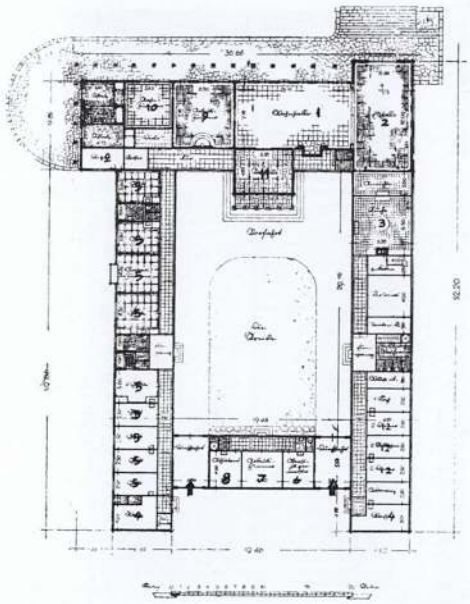
建築用材は松を主としすべてこの地方産のものばかり。木造建築として、その意匠並構造は最近の獨逸の國民建築の傾向に從つて、鄕土色の豊かなものである。木材の持つ特有の味をフンダンにきかせた室内の構造的な意匠は面白い。

〔Zentralblatt der Bauverwaltung, Jan., 1937 より〕

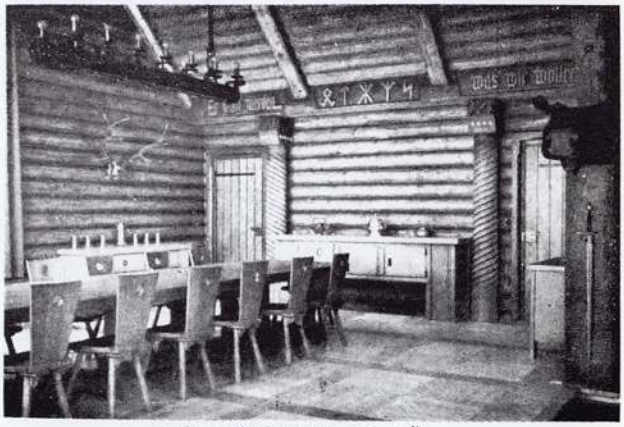


外　　觀

1 廣　間　　7 仕事場
2 食　堂　　8 副官室
3 調理室　　9 仕事室
4 衞兵室　　10 居　間
5 宿泊者寢室　　11 玄關廣間
6 上級狩獵官室　　12 使用人室



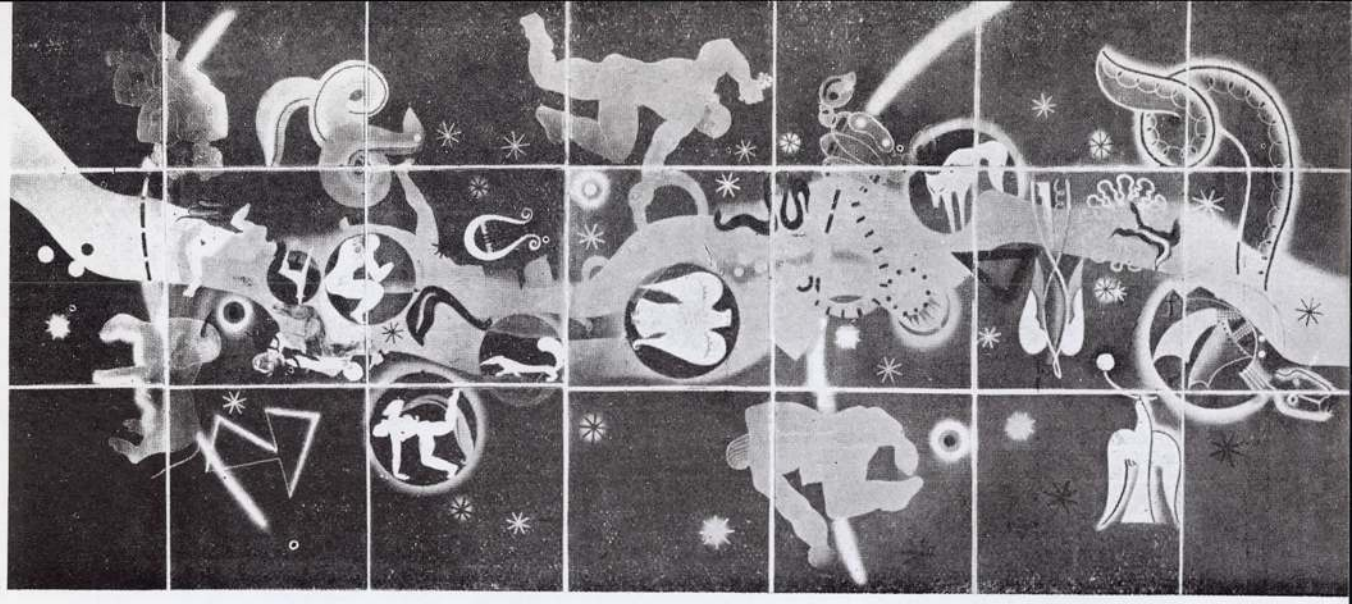
平　面　圖



食　堂（〃精神一到何事か成らざらむ〃の格言が彫まれてある）

（ドイツ）　ロミンテンの國立狩獵館

建築家 Friedrich Hetzelt　25 IV



第　3　圖

硝子の美術的用法は、何と言つてもビザンチン・モザイツクが最初で、而も非常に優れた境地にまで達してゐる。

次がゴシツクの伽藍の窓のステインド・グラス。

だが、ステインド・グラスの時代を過ぎてからは、硝子は窓に使はれるほか建築的に重要さを失つてしまつた形で、專ら工藝家の手に依つて工藝品としての境地を開拓してゐるに過ぎなかつた。以來、19世紀末まで、ベニスをはじめ優秀な硝子工藝の生産地が相繼いで出現した。

併し、今日の硝子工業の進歩はそうした過去とは同日の談ではない。品質に於ても生産量に於ても、及び硝子使用の範圍に於ても驚嘆すべき發達を見せてゐる。

ここに揭ぐる例は建築に於ける硝子應用の新しい可能性を示すもので、硝子に對する過去の觀念を全く放棄せしむるに足るものである。

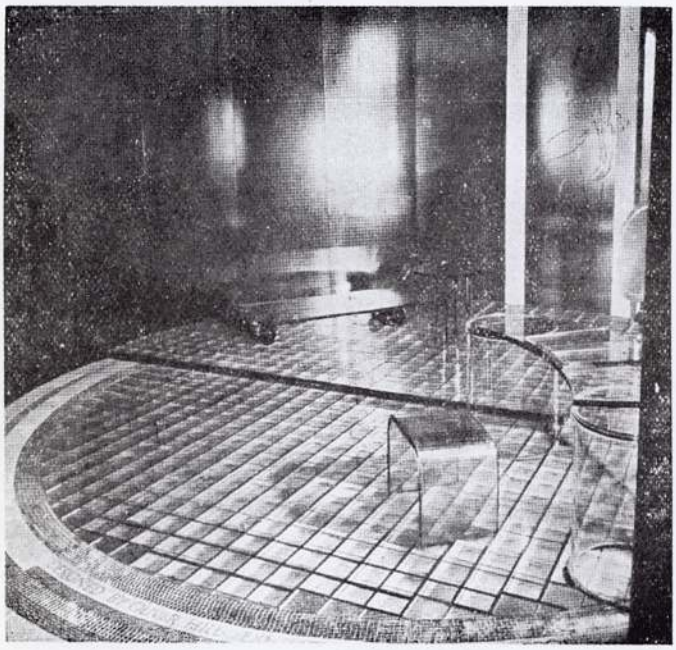
(Architectural Forum, Feb., 1937 より)

第1圖　ロンドンの建築展覽會に出品せられた床、壁、家具等全て硝子製の婦人室
——建築家 Oliver Hill 設計

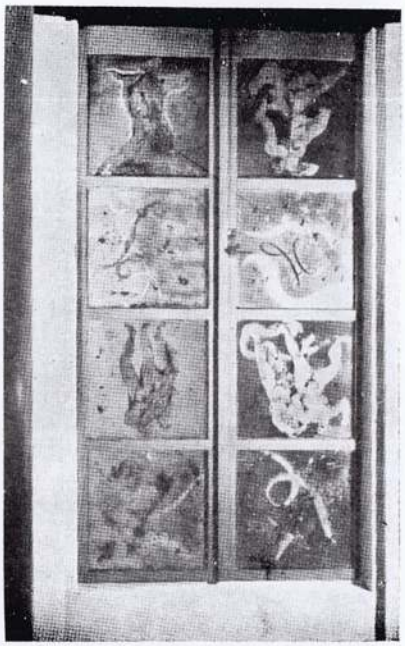
第2圖　金銀色の中に透明に彫刻せられた硝子天井

第3圖　彫刻及修飾應用の硝子の扉、第2圖、第3圖共フランスの Ingrand 夫妻の作品

第　1　圖



第　2　圖



ジードルング技術並に都市計畫の觀點よりみたる大ベルリンの區域

von Walter Koeppen, Berlin, 1928.

菅　　陸　　二　譯

既往の大ベルリン地方計畫組合の區域（1911—1920）は市街部 Berlin, Charlottenburg, Schöneberg, Rixdorf, Wilmersdorf, Lichtenberg, Spandau, 並に郊外部 Teltow, Niederbarnim を包含してゐた。之等の面積は 351,200ha であり、細長い南北に延びた形を有し其の最大の長及幅の距離は約 110km 乃至 60km あつた。（第1圖）

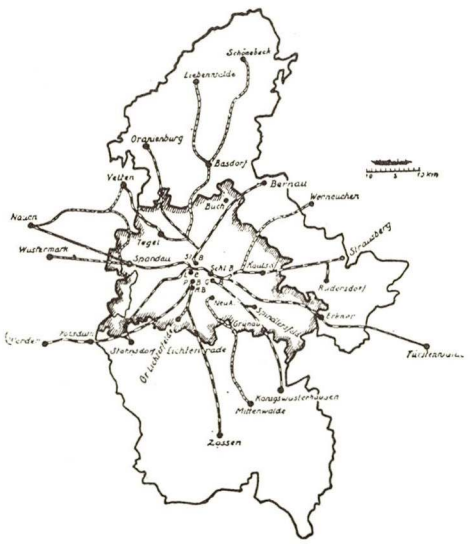
大ベルリン地方計畫組合の目的は次の三つであつたが其の目的に對して之等の區域は廣過ぎることが解つた。

1. 國鐵を除く交通關係の統制
2. 建築線制度及建築法規の改正
3. 廣い空地の供給及管理

Liebenwald 及大 Schönebeck に近い北部地區 Niederbarnim, 並びに Zossen に近い南部地區 Teltow は鐵道及國道の連絡以外に大ベルリンとは何等都市計畫技術的な關係はない。

斯る認識から新ベルリン市域の境界を地方計畫組合の面積に比して著しく縮小し、今少しく圓い形に區切らうとするに至つた。現在の市域は組合區域の約 1/4 たる 87,835ha を有し、境界の端は都市の中心點から直線距離で 17km距つてゐる。

然るに大ベルリンの一般的構築計畫の更改の結果今や1920年に選定された其の區域がジードルング技術上及都市計畫上の重要問題に對して多くの缺陷を示すやうになつた。之等の缺陷を次に條記しよう。（第2圖）



第　1　圖



第　2　圖

1. 舊組合區域である北ベルリンの Frohnaw は都市境界線の輪廓から遙かに突出し、其の一つの長邊の上に於て Oranienburg に至る郊外鐵道が境界線を爲してゐる。此處では Frohnau と Hohen-Nauendorf の中間の一停車場を通じて交通上及び農耕上理想的に開拓し得る一つのジードルング技術上の單位を郊外鐵道の兩側に於て形成する樣にすべきであつた。此の基礎的條件によつて農耕地及 Stolpe 村をベルリンへ連絡することが出來、同時に西方に接續した Stolpe の森林から自然的に境界を形成してゐる Havel 迄をも連絡することが出來ただらう。此の森林地は大都市人口の爲に空地として存續せしむべきである。

2. Frohnau を西にして Grienicke 町がベルリンに接續して居り、その區域は既に廣範圍にジードルングが建てられてゐる。居住者は大部分ベルリンに勤めてゐる。道路、運輸、交通及び空地に關する Glienicke の利害はベルリンのそれと密接に結び付いてゐる。故にベルリンの境界の一彎入部を滿たしてゐる此の區域も亦ベルリンに編入せらるべきであつた。

3. a. ベルリンの東方 Friedrichshagen 附近に於て Dahlwitz の區域の一部が楔形にベルリンの境界に割り込んでゐる。此の楔形地は Erpe-Tales の要塞を含んで居り、それがベルリンの中に横つてゐる限り既に空地として保證されてゐる。より廣い Erpe-Tales や隣接の森林地の維持の關係上此處でベルリンの區域境界を圓くすることは合目的であるだらう。

3. b. Glienicke と同じく東方にある Fichtengrund 町は一つの聚落をなし、他と完全に絶緣してベルリンと密接な關係を持つ人々が住んでゐる。全く交通關係の利害は一致してゐる。此の區域も亦楔形にベルリンの市域に侵入してゐるのであるから市に編入するのが合目的であらう。

4. 南ベルリンの Eichwalde 村には之と連續森林地 Grünau-Schmöckwitz-Forst に依つて遮斷された住宅地があり、その土地はベルリン市の所有である。此の地區の居住者はすべて職業上ベルリンと關係がある、彼等の特別な就學方法等に就して考慮されねばならぬ。それ故に Eichwalde 村が此の住宅地と一團になることが農業經營上合目的である。此のことは Eichwalde が市に編入することに依つて最も都合よく遂行される、何となれ

ばそれがベルリンの區域にうまく連絡するから。

5. 大 Ziethen 村はベルリンの境界線に著しい割込み部を形造つてゐる。それは Rudow, Buchow, Richtenrade に於けるベルリン市域の統一した ジードルング技術的な開發と合目的な道路網の完成を邪魔してゐる。航空機の研究機關の爲に計畫される一飛行場は一部はベルリン市域に、一部は大 Ziethen 區域に跨るだらう。既に大 Ziethen の大部分の土地がベルリン市の所有になつてゐるのであるから大 Ziethen のベルリンへの編入は極めて容易であらう。

6, 7, 8. 境界線の補充の問題は更に南方の Osdorf-Heinersdorf, Teltow, Klein-Machnow 及び Stahnsdorf に於て起る。

Osdorf-Heinersdorf の面積——現在ベルリン市の Rieselgut——はベルリン人口に對する空地の關係上、且又一部分はジードルング建設の爲に問題となる。

Teltow は交通上ベルリンと密接な關係がある。隣接ベルリン市域との統一的な產業及ジードルングの開發が痛切に要望される。

Klein-Machnow-Stahnsdorf には現在廣大な市の地所 Düppel と有名な大中央墓地公園がある。交通——及びジードルング技術上此の區域は Zehlendorf, Schlachtensee 及び Nikolassee と密接な關係がある。

9. 最後に、然し單に附け加へではないが Seeburg と云ふベルリン市域境界の彎入部がある。Havel に極めて近接せる此の彎入部は Kladow 及び Gatow の區域を他の Spandau の地方及びベルリンへ完全に結び付ける。Seeburg の楔形部は重要な綠樹帶を含むからそれを Pichelsdorf から Gatow-Kladow へ延長さすべきである。非常に重要な交通路、即ち Spandow から Gatow 及び Kladow に至る國道並びに Spandow から Groß-Glienicke-Krampitz を越えて Potzdam に至る國道が此の楔形地を通じて貫通する、特に此の最後のベルリン境界の彎入部は馬鹿々々しいものとして吾人の注意を惹く。

之等の數へ上げた大ベルリンの境界の諸缺點が取除かれたならば、この密接な都市區域に對する都市計畫並びにジードルング技術の觀點からの刻下の要求は滿足される。

更に之に關聯して、尙、大都市の更に廣い周圍部に對して有する關係が緊密に結ばれねばならぬ。

即ち以下のことがそれである。

1. 近隣の遠足區域の自然美と森林の保護
2. 郊外道路及び自動車路の充分な增設、及び
3. 適當な鐵道沿線の隣接都市への工業の移殖と增殖の指導。

1. ベルリンは美しい郊外に惠まれて居り、ベルリン市民は高速度で廉價な郊外交通機關の助けによつて其處へ出懸けることが出來る。土曜日や日曜日のより遠いハイキングの出發點は郊外鐵道の終點である。

今問題の周圍部の概念を得る爲に、主要地點を西から北、東を經て南へと數へ上げて見よう。

Potzdam-Werden, French 及 Paretz 迄湖沼と森林がある。
Spandau-Nauen, Brieselang, Finkenkrug 及び美しい Krämerwald を持つ。
Hennigsdorf-Velten-Cremmen,
Oranienburg, Oranienburg 山林を持ちそれは
Mühlenbeck-Wandlitz を經て
Bernau-Biesenthal まで續く。
Werneuchen,
Strausberg, その中間に莊麗な森 "der Blumenthal" を持つ。
Erkner-Eangschleuse, Woltersdorf や Rüdersdorf や湖水地方を持ち、それは
Schmöckwitz-Königswusterhausen 迄續き、最後に
Dahlwitz-Rangsdorf

都市計畫的意識の一般的覺醒に依つて今や多くのベルリンの隣接町村がその區域に對して大規模の構築計畫を立てることに關與してゐる。ベルリン市政は行政上單に直接隣接町村の計畫に注目してゐる丈である。而も此のことに依つては單に希望がある程度表示されるだらうが要求は滿足されないだらう。

2. 空地や森林地と同樣にベルリンから出發する郊外道路や自動車道路に就ても同樣な事情がある。何故ベルリンの區域內丈及び高々 5—10km の外迄丈について道路に完全な姿、鋪裝と維持が與へられ、狹い町村の放射線や環狀線が着手され、その上更に地方的な考慮が拂はれる必要があるだらう？

自動車道路建設の爲の學術協會は恰も全ドイツの最も重要な交通道路の決定に從事し交通街ベルリンに就て以下の遠距離道路を採擇した：

Wittenberge- Hamburg/Hannover- Köln/Magdeburg- Köln/Jüterbur g-Leipzig/Luckau-Dresden/Frankfurt a O-Breslau/Cüstrin-Danzig/Stettin/Neustrelitz-Ostsee.

學術協會の事業範圍は然し廣大であり、その權勢はあまりに微力である。ベルリンはそれ故に少なくとも自動車ドライヴが計畫され、そして比較的盛んな貨物輸送關係を維持する隣接區域の道路行政廳と共同すべきであつた。

3. 大都市に於ける工業の浸潤による缺陷は著明である。それがより盛んに大きくなる程より多くの人々が廣い高價な通勤道路を煩はし、より多くの人々が巨大な貸家の宿泊所に入れられる。

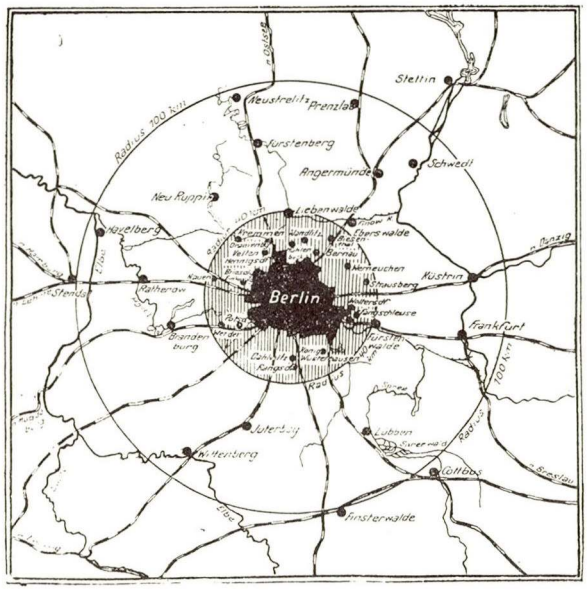
工業の分散及び配分の問題は益々根本的に都市計畫家の組織と都市の聯盟によつて研究されてゐる。最初 Letechworth 及び Welwyn の先例による純粹の田園都市は大都市の衞星と考へられた。之には非常に大きな困難が存在する。即ち此の衞星都市に於ける充分大きい勞働市場の創造、學校、養成所等の創設である。若し中心太陽たる大都市と適當な

關聯を持つ現在の統一的な町村區域内に移殖さるべき工業を持つて來るならば此の困難は極めて容易に克服することが出來る。例は HennigsdorfとVeltenである。同樣な發展がOranienburg に始まつてゐる。

次に尙幾分以下を考察しよう。

Teltow, Wildau, Fürstenwalde, Eberswalde, Brandenburg.

ベルリン市はこの共同利益の事柄に就て關係近接町村と共に遠大な社會的に考慮されたジードルング政策を志してゐる。



第　3　圖

第3圖は考察中の區域を表はし、且 40km の半經をもつ內側の圓で空地、森林及び自然美に關して大ベルリンと密接な關係を持つ區域を圍む。100km 半經の外側の圓はベルリンから其處までが交通路の計畫及び建設、並びにジードルング技術上缺點のない工業經營が整備せらるべき限界を示す。

（學士、地上構築委員 Walter Koeppen, Berlin: Städte bau; 1928, Helt. 4.より）

臺灣都市計畫令施行規則

（1）

◉臺灣總督令第109號

臺灣都市計畫令施行規則左ノ通定ム

昭和11年12月30日

臺灣總督 小林躋造

臺灣都市計畫令施行規則

第1章 總則

第2章 地域及地區ノ設定竝ニ建築物等ノ制限

第1節 通則

第2節 地域及地區內ニ於ケル建築物等ノ制限

第3節 建築物ノ敷地、高サ及其ノ敷地內ノ空地

第4節 建築物ノ構造設備

第1款 一般構造設備

第2款 構造強度

第1 概則

第2 木構造

第3 石構造、煉瓦構造及コンクリート構造

第4 鐵構造及鐵骨構造

第5 鐵筋コンクリート構造

第6 強度計算

第5節 工事執行

第6節 損害補償

第7節 雜則

第3章 土地區劃整理

第1節 一人施行及共同施行

第2節 行政廳施行

第3節 整理施行地ノ地租

第4節 換地處分

第5節 損害補償

附則

第一章 總則

第1條 都市計畫事業（以下計畫事業ト稱ス）ニシテ行政官廳ノ執行スルモノハ臺灣總督之ヲ指定ス

臺灣總督前項ノ規定ニ依ル指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス

第2條 計畫事業ハ前條ノ規定ニ依リ指定スルモノヲ除クノ外都市計畫區域市街庄ノ區域ニ屬スル場合ニ在リテハ之ヲ統轄スル行政廳、大正9年勅令第361號第1條ノ區（以下區ト稱ス）ノ區域ニ屬スル場合ニ在リテハ廳地方費管理者之ヲ執行ス但シ臺灣總督計畫事業が二以上ノ市、街庄又ハ區ノ區域ニ涉リ分割シテ之ヲ執行スルコト困難又ハ不利益ト認ムルトキ其ノ他特別ノ事情アリト認ムルトキハ事業ヲ執スベキ行政廳ヲ指定スルコトヲ得

臺灣總督前項但書ノ規定ニ依ル指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス

第3條 行政廳ニ非ザル者臺灣都市計畫令（以下計畫令ト稱ス）第4條第2項ノ規定ニ依リ計畫事業ヲ執行セントスルトキハ申請書ニ左ニ揭グル事項ヲ記載シ臺灣總督ノ特許ヲ受クベシ

1 事業ノ執行地

2 事業ノ種類

3 事業執行ノ年度割

前項ノ申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

1 事業計畫書

2 費用豫算書

3 財源調書

4 一般圖及計畫平面圖

第4條 計畫令第4條第3項ノ規定ニ依ル實施計畫ノ認可ノ申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

1 前條第1項各號ニ揭グル事項

2 計畫事業ノ著手及竣功ノ豫定年月日

前項ノ申請書ニハ前條第2項各號ニ揭グル書類、工事ノ設計書及工事ノ施行方法ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

第5條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ計畫令第1條第2項ノ規定ニ依ル費用ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得

1 行政官廳ノ執行スル計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル公共團體

2　事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル公共團體

3　計畫事業トシテ新設、擴築又ハ改良ヲ爲シタル營造物ヲ受クル者又ハ其ノ營造物ガ他ノ工作物トシテ効用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受クル者

4　計畫事業トシテ新設、擴築又ハ改良ヲ爲シタル營造物ノ附近ニ在ル土地又ハ物件ニ付權利ヲ有スル者ニシテ其ノ事業ニ因リ著シク利益ヲ受クルモノ

5　行政廳ノ施行スル土地區劃整理ノ整理施行地區附近ニ在ル土地又ハ物件ニ付權利ヲ有スルモノニシテ其ノ土地區劃整理ニ因リ著シク利益ヲ受クルモノ

第6條　官有又ハ公共團體所有ノ土地又ハ物件ニ付テハ前條ノ規定ニ拘ラズ計畫令第5條第2項ノ規定ニ依ル費用ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ爲ズ但シ公用又ハ公共ノ用ニ供セラレザルモノニシテ地上權、永小作權又ハ賃借權ノ目的タルモノニ付テハ地上權者、永小作權者又ハ賃借權者ニ對シ計畫令第5條第2項ノ規定ニ依ル費用ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得

第7條　計畫令第5條第2項ノ規定ニ依ル費用ノ負擔ヲ爲サシムル場合ノ負擔金額及負擔方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第8條　計畫令第6條ノ規定ニ依リ賦課シ得ベキ都市計畫稅ノ稅目及稅率左ノ如シ

1　地租附加稅又ハ地租割　地租100分ノ10以內

2　營業稅又ハ營業稅割　營業稅100分ノ8以內

3　雜種稅又ハ雜種稅割（特別所得ニ對スルモノヲ除ク）100分ノ5以內

第9條　鐵道、軌道、運河、飛行場、水道、下水道、土地區劃整理、運動場、神社、官公署、學校、病院、一團地ノ住宅經營、市場、屠場、墓地、火葬場、塵芥及汚物處理場、貯水池及防風防火防水防砂防潮ニ關スル施設ハ計畫令第9條第1項及第10條第1項ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス

第10條　計畫令第10條第2項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ハ土地區劃整理ヲ施行スルノ必要アル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第11條　前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ハ土地區劃整理ノ工事完了後ニ非ザレバ之ヲ賣却又ハ貸付スルコトヲ得ズ

第12條　前條ノ規定ニ依ル土地ノ賣却又ハ貸付ハ左ニ揭グル者ニ對シ每筆競爭入札ニ依リ之ヲ行フ

1　其ノ土地ノ附近地ガ計畫令第10條第1項ノ規定ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テ當該附近地ノ全部又ハ一部ヲ收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

2　前號ノ附近地ノ上ニ存シタル家屋ヲ當該附近地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

3　其ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

4　其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

前項ニ揭グル者一人ナルトキハ其ノ者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

第13條　前條ノ規定ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得ザル土地ノ賣却又ハ貸付ニ付テハ一般ノ競爭入札ニ依ル

第14條　第10條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニシテ前2條ノ規定ニ位リ賣却若ハ貸付スルヲ適當ナラズト認ムルモノ又ハ賣却若ハ貸付スルコト能ハザルモノニ付テハ當該公共團體ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ其ノ土地ノ處分又ハ管理方法ニ付必要ナル規定ヲ定ムベシ

第15條　計畫令第14條第1項又ハ第2項ノ規定ニ依リ當該官史（待遇官吏ヲ含ム以下之ニ同ジ）吏員又ハ都市計畫事業執行者（以下事業執行者ト稱ス）ニ於テ他人ノ土地ニ立入リテ測量又ハ調査ヲ爲サントスルトキハ土地ノ占有者ニ對シ豫メ其ノ立入ルベキ場所及日時ヲ、障害物ヲ變更又ハ除却セントスルトキハ其ノ物件ノ所有者及占有者ニ對シ少クトモ七日間前ニ變更又ハ除却セントスル物件ノ種類、場所及日時ヲ通知スベシ

第16條　第3條第1項ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケントスル者計畫令第14條第2項ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ廳長、郡守又ハ市尹ニ許可ヲ申請スベシ

前項ノ許可申請書ニハ立入ノ場合ニ在リテハ立入ルベキ場所、日時竝ニ土地ノ占有者ノ氏名及住所ヲ、障害物ノ變更又ハ除却ノ場合ニ在リテハ變更又ハ除却セントスル物件ノ種類、日時竝ニ物件ノ所有者及占有者ノ氏名及住所ヲ記載ス

ベシ

廳長、郡守又ハ市尹ニ於テ第1項ノ許可ヲ爲シタルトキハ同時ニ土地ノ占有者又ハ物件ノ所有者及占有者ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第17條　計畫令第14條第1項又ハ第2項ノ規定ニ依リ他人ノ邸內ニ立入ル場合ニ於テ日出前又ハ日沒後ハ其ノ占有者ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第18條　當該官吏又ハ吏員計畫令第14條第1項ノ行爲ヲ爲ストキハ當該官吏又ハ吏員タルコトヲ證スル證票ヲ携帶スベシ

第3條第1項ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル者又ハ第16條第1項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者計畫令第14條第2項ノ行爲ヲ爲ストキハ其ノ特許又ハ許可ヲ受ケタル者ナルコトヲ證スル證票ヲ携帶スベシ

第19條　計畫令第14條第3項ニ規定スル損害ノ補償ハ損害ノ原因タル行爲ニ因リ通常生ズベキ直接ノ損害ニ付之ヲ爲スベシ

第20條　國庫、事業執行者又ハ第3條第1項ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケントスル者計畫令　第14條第3項ノ規定ニ依リ補償ノ必要アリト認ムルトキハ同條第1項又ハ第2項ノ行爲ヲ爲シタル日ノ翌日ヨリ起算シ60日以內ニ損害ヲ受ケタル者ニ對シ補償金額ニ付協議ヲ爲スベシ

計畫令第14條第1項又ハ第2項ノ行爲ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ其ノ行爲アリタル日ノ翌日ヨリ起算シ90日以內ニ國庫、事務執行者又ハ第3條第1項ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケントスル者ニ對シ左ニ揭ゲル事項ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ協議ヲ爲スコトヲ得

1　損害ノ事實

2　損害ノ見積金額、內譯及算定方法前項ノ書面ニハ證據書類ヲ添附スベシ

第21條　計畫令第14條第4項ノ決定ヲ求メントスル者ハ申請書ニ協議ノ顚末書又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル事由書、竝ニ關係人ノ數ニ相當スル申請書及關係書類ノ副本ヲ添附シ知事又ハ廳長ニ提出スベシ

前項ノ申請書ヲ受理シタルトサハ知事又ハ廳長ハ申請ニ對スル意見書ヲ提出スベキ旨ノ告知書及同項ノ副本ヲ關係人ニ送付スベシ

前項ノ意見書ハ告知書ノ送付アリタル日ノ翌日ヨリ起算シ30日以內ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ期間內ニ意見書ヲ提出セザルトキハ意見ナキモノト見做ス

第22條　知事又ハ廳長ハ前條第3項ノ期間經過後速ニ補償ノ決定ヲ爲スベシ

前項ノ決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スベシ

知事又ハ廳長第1項ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ決定書ノ謄本ヲ關係人ニ交付スベシ

第23條　左ノ各號ノ1ニ該當スル場合ニ於テハ補償金ハ之ヲ供託スベシ但シ第3號ノ場合ニ於テ登記シタル權利者其ノ補償金ノ拂渡ニ同意シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

1　補償ヲ受クベキ者受領ヲ拒ミ又ハ忌避シタルトキ

2　住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ補償金ノ拂渡ヲ爲スコト能ハザルトキ

3　補償ノ目的タル土地物件ニ付登記シタル權利ヲ有スル者アルトキ

4　補償ノ目的タル土地物件ガ訴訟ノ目的タル場合ニ於テ訴訟當事者ヨリ請求アリタルトキ

第24條　知事又ハ廳長ハ補償ノ決定ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ鑑定人、事實參考人若ハ關係人ノ意見ヲ徵シ又ハ此等ノ者ヲ呼出シテ其ノ意見若ハ供述ヲ聞クコトヲ得

第25條　前條ノ鑑定人及事實參考人ニハ知事又ハ廳長ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ支給ス

前條ノ關係人ニハ前項ノ規定ニ準シ旅費及手當ヲ支給スルコトヲ得

前2項ノ旅費及手當ハ國庫ニ於テ支給ス但シ計畫事業ニ付費用ヲ負擔スル者ガ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ニ於テ之ヲ支給スベシ

前項ノ規定ニ依リ國庫ガ私人ニ於テ執行スル計畫事業ニ關シ旅費又ハ手當ヲ支給シタルトキハ國庫ハ之ニ相當スル金額ヲ其ノ私人ヨリ徵收ス

第26條　計畫令第14條第5項ノ規定ニ依ル裁決ノ申請ハ補償ニ關スル決定書ノ謄本ノ到達アリタル日ノ翌日ヨリ起算シ30日以內ニ理由ヲ具シ決定ヲ爲シタル知事又ハ廳長ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

知事又ハ廳長前項ノ規定ニ依ル申請書ヲ受取リタルトキハ受取リタル日ノ翌日ヨリ起算シ20日以內ニ意見ヲ附シ臺灣總督ニ之ヲ進達スベシ

第27條　第22條第2項及第3項ノ規定ハ計畫令第

14條第5項ノ規定ニ依ル裁決ニ之ヲ準用ス但シ知事又ハ廳長トアルハ臺灣總督トス

第28條　計畫令第15條第1項ノ規定ニ依ル公告ハ送付ヲ爲スコト能ハザル書類ノ要領ヲ記載シ少クトモ3日間之ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依ル公告第3日目ヲ以テ計畫令第15條第2項ノ公告ヲ爲シタル日ト見做ス

第29條　計畫令又ハ本令ニ依リ臺灣總督ニ於テ爲ス告示ハ府報ヲ以テ、其ノ他ノ行政廳又ハ公共團體ニ於テ爲ス告示又ハ公告ハ當該行政廳又ハ公共團體ノ公布式又ハ公告式ニ依リ之ヲ爲スベシ

計畫令第4條第2項ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル公共團體ニ非ザル事業執行者ガ爲ス前條第1項ノ公告ハ事業地ノ屬スル各市役所又ハ街庄區役場ノ揭示場ニ於テ之ヲ爲スベシ

第2章　地域及地區ノ設定竝ニ建築物等ノ制限

第一節　通　則

第30條　本章ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

1　建築面積トハ建築物ノ水平斷面ニ於ケル外壁ノ又ハ之ニ代ベルキ柱ノ中心線內面積中最大ナルモノヲ謂フ但シ地階ニシテ其ノ外壁ノ高サ地盤面上1メートル以下ノモノノ部分ノ面積ハ之ヲ建築面積ト看做サズ

軒、庇、桔出縁ノ類ガ前項ノ中心線ヨリ突出スルコト1メートルヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ外端ヨリ1メートルヲ後退スル線ヲ以テ前項ノ中心線ト看做ス

2　建築物ノ敷地トハ一棟ノ建築物ニ屬スル一團ノ土地ヲ謂フ

3　建築物ノ敷地ノ面積トハ建築物ノ敷地ノ水平斷面ノ面積中最大ナルモノヲ謂フ

4　建築トハ左ノ行爲ヲ謂フ

イ　新築　新ニ建築物ヲ築造スルコト

ロ　增築　既成ノ建築物ニ更ニ其ノ面積、容積又ハ延長ヲ增加スル目的ヲ以テ加工スルコト但シ渡廊下ノ類ヲ以テ接續スルモノハ新築ト看做ス

ハ　改築　建築物ノ一部又ハ全部ヲ取毀チ更ニ現在ノ敷地ニ築造スルコト

ニ　再築　災害ニ依リ壞滅シタル建築物ヲ元ノ敷地ニ築造スルコト

5　移轉トハ建築物ヲ取毀チ異リタル敷地ニ築造スルコトヲ謂フ

6　大修繕トハ壁體、柱、小屋若ハ基礎ノ過半ノ修繕又ハ之ニ準ズル構造上主要ナル部分ノ修繕ヲ謂フ

7　大變更トハ壁體、柱、床、小屋、基礎等構造上主要ナル部分ノ變更ヲ謂フ

8　建築物ノ高サトハ敷地ノ地盤面ヨリ建築物ノ最高部迄ノ高サヲ謂フ

9　軒高トハ敷地ノ地盤面ヨリ建築物ノ外壁上端迄ノ高サ、外壁上端ニ扶欄扶壁又ハ軒蛇腹アルトキハ其ノ最高部迄ノ高サ、出軒ノ場合ニハ軒桁上端迄ノ高サヲ謂フ但シ切妻ノ部分ハ軒高ニ之ヲ算入セズ

10　床高トハ床面ヨリ直下地面迄ノ距離ヲ謂フ

11　階高トハ其ノ階ノ床面ヨリ其ノ直上階ノ床面迄ノ高サヲ謂フ但シ最上階ニ在リテハ其ノ天井高ヲ謂フ

12　天井高トハ室ノ床面ヨリ天井迄ノ高サヲ謂フ

一室ニシテ天井高異ナル部分アルトキハ其ノ室ノ床面積ヲ以テ容積ヲ除シタルモノヲ謂フ

13　居室トハ居住ノ用ニ供スル室ヲ謂フ玄關、廊下、階段室、外套室、便所、手洗所、浴室物置、納戶、暗室ノ類ハ居室ト看做サズ

14　階數トハ地階及屋階ヲ除キタル階數ヲ謂フ

15　地階トハ其ノ床面地盤面下ニ在ル階ヲ謂フ但シ天井高ノ3分2以上ガ地盤面上ニ在ル階ハ之ヲ第1階ト看做ス

16　屋階トハ屋根裏ニ設ケタル階スル壁體ヲ謂フ但シ知事又ハ廳長ニ於テ其ノ植造用途床面積其ノ他ノ狀況普通階ト大差ナシト認ムルモノヲ除ク

17　外壁トハ建築物ノ外側ヲ構成スル壁體ヲ謂フ

18　間仕切壁トハ建築物ノ內部ヲ區劃スル壁體ヲ謂フ

19　不燃材料トハ煉瓦、石、人造石、コンクリート、石綿盤、瓦、金屬、陶磁器、モルタル漆喰ノ類ヲ謂フ

20　耐水材料トハ煉瓦、石、人造石、コンクリ

ート、鉛、アスファルト、陶磁器ノ類ヲ謂フ

21 石造トハ石造、人造石造及コンクリート造ヲ謂フ

22 壁體ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ1ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 厚サ30センチメートル以上ノ煉瓦造又ハ石造

ロ 厚サ12センチメートル以上ノ鐵筋コンクリート造

ハ 厚サ30センチメートル以上ノ孔煉瓦造、厚サ15センチメートル以上ノ鐵筋コンクリート・ホロブロツク造ノ類ニシテ知事又ハ廳長ニ於テ本號イ又ハロニ規定スル壁體ト同等以上ノ耐火効力アリト認ムルモノ

22 壁體ノ準耐炭構造トハ左ノ各號ノ1ニ該當スルモノヲ謂フ

1 鐵骨造ニシテ外部ヲ亞鉛引鐵板又ハ石綿スレート張ト爲シタルモノ

2 鐵骨造又ハ木造ニシテ外部ニ左ノ各號ノ1ニ該當スル被覆ヲ爲シタルモノ

イ 外面ニ石、人造石ノ類ヲ用ヒ其ノ厚サ10センチメートル以上ノモノ

ロ 瓦貼ノ上ヲセメント・モルタル塗トシ厚サ合計4センチメートル以上ノモノ

ハ セメント・モルタル塗又ハコンクリート塗トシ厚サ4センチメートル以上ノモノ

ニ セメントモルタル塗ノ上ヲ化粧煉瓦貼トシ厚サ合計4センチメートル以上ノモノ

3 前各號ニ掲グルモノノ外知事又ハ廳長ニ於テ之ト同等以上ノ耐火効力アリト認ムルモノ

24 床又ハ廻根ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ1ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 鐵筋コンクリート造

ロ 鐵骨ヲ有スル鐵筋コンクリート造、煉瓦造又ハ石造ハ煉瓦又ハ石造

ハ 煉瓦造又ハ石造

ニ 最下階ノ床ニ在リテハ土間、叩、石敷ノ類

ホ 鐵骨ヲ有シメタルラス・コンクリート、網入硝子ノ類ヲ以テ覆葺スル屋根ニシテ知事又ハ廳長ノ承認セルモノ

25 柱ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ1ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 煉瓦造又ハコンクリート造

ロ 鐵筋コンクリート造

ハ 鐵柱ニシテ耐火的ニ有効ナル被覆ヲ爲シタルモノ

ニ 石造ニシテ知事又ハ廳長ノ承認セルモノ

26 階段ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ1ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 鐵筋コンクリート造、煉瓦造又ハ石造

ロ 鐵煉ヲ有スル鐵筋コンクリート造、煉瓦造又ハ石造

ハ 鐵 造

ニ 知事又ハ廳長ニ於テ前各號ニ準ズルモノト認ムルモノ

27 防火戸トハ左ノ各號ノ1ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 鐵製ニシテ鐵板ノ厚サ1.5ミリメートル以上ノモノ

ロ 鐵骨コンクリート造又ハ鐵筋コンクリート造ニシテ厚サ3センチメートル以上ノモノ

ハ 鐵造ニシテ屋外ニ面スル部分ヲ厚サ3センチメートル以上ノモノタル漆喰又ハ適當ナル厚サノ石綿盤ノ類ヲ以テ被覆シタルモノ

ニ 知事又ハ廳長ニ於テ前各號ニ準ズルモノト認ムルモノ

第31條 計畫令第29條但書、第30條、第32條、第37條及第38條第1項ニ規定スル行政官廳ノ職權ハ知事又ハ廠長之ヲ行フ

第32條 知事又ハ廳長第35條第11號、第36條第4號、第37條第3號若ハ第5號、第38條第1項本文、第39條第1項本文、第45條乃至第48條、第59條又ハ70條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ヲ爲サントスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ但シ輕微ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第33條 本章ノ規定ノ適用ニ關シ土地、建築物又ハ作物ニ關スル測算方法、呼稱等ニ付疑義ヲ生ジタルトキハ知事又ハ廳長之ヲ決定ス

第34條 本章ニ規定スル建築物ノ採光、換氣、防火、防水、避難、清及强度ニ關スル構造設備ハ常ニ之ヲ有効ニ保持スベシ

第二節　地域及地區ニ於ケル建築物等ノ制限

第35條　左ノ各號ノ1ニ該當スル建築物又ハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ第1號乃至第5號ニ該當スル建築物ニシテ知事又ハ廳長ニ於テ住居ノ安寧ヲ害スル虞ナシト認メ又ハ公益上已ムヲ得ズト認メ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

1　常時使用スル原動機ノ馬力數合計3ヲ超ユル工場ニ左ニ揭グル事業ヲ營ム工場

イ　玩具用普通火工品ノ製造

ロ　アセチレンガスヲ用フル金屬ノ工作（單ニ修繕スルモノヲ除ク）

ハ　ドライクリーニング（單ニ拂拭スルモノヲ除ク）又ハドライダング

ニ　セルロイドノ加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工

ホ　塗料ノ吹付

ヘ　亞硫酸ガスヲ用フル燒品ノ漂白

ト　骨炭其ノ他動物質炭ノ製造

チ　羽又ハ毛ノ洗滌、染色又ハ漂白

リ　襤褸、屑綿、屑紙、屑絲、屑毛ノ類ノ消毒ノ選別、洗滌又ハ漂白

ヌ　製綿、古綿ノ再製、起毛、反毛又ハフエルトノ製造ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ル　骨角、牙、蹄、貝殼類ノ挽割若ハ乾燥研磨又ハ金屬ノ乾燥研磨ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ヲ　鑛物、岩石、土砂、硫黄、金屬、硝子、煉瓦、陶磁器骨又ハ貝殼類ノ粉碎ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ワ　墨、懷爐又ハ煉炭ノ製造

カ　煉瓦、土器類、陶磁器、人造砥石又ハ坩堝ノ製造

ヨ　硝子ノ製造又ハ砂吹

タ　動力槌ヲ用フル鍛冶

3　主トシテ貨物ノ積卸ヲ目的トスル棧橋、鐵道停車場又ハ軌道停留場

4　室面積ノ合計50平方メートルヲ超ユル自動車ノ車庫

5　劇場、活動寫眞館、演藝場又ハ觀物場

6　貸座敷、待合又ハ藝妓若ハ酌婦ノ寄寓スル料理屋

7　倉庫業ヲ營ム倉庫

8　火葬場又ハ產穢物處理場

9　屠場又ハ死畜處理場

10　塵芥又ハ汚物ノ處理場

11　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外知事又ハ廳長ニ於テ住居ノ安寧ヲ害スル虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル建築物

第36條　左ノ各號ノ1ニ該當スル建築物ハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ第1號又ハ第2號ニ該當スル建築物ニシテ知事又ハ廳長ニ於テ商業ノ利便ヲ害スル虞ナシト認メ又ハ公益上已ムヲ得ズト認メ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

1　當時使用スル原動機ノ馬力數ノ合計15ヲ超ユル工場但シ日刊新聞印刷所ヲ除ク

2　前條第2號ニ該當スル工場

3　前條第8號乃至第10號ニ該當スル建築物

4　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外知事又ハ廳長ニ於テ商業ノ利便ヲ害スル虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル建築物

第37條　左ノ各號ノ1ニ該當スル建築物ハ工業地域内ニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ第1號、第2號又ハ第4號ニ該當スル建築物ニシテ知事又ハ廳長ニ於テ衞生上有害若ハ保安上危險ノ虞ナシト認メ又ハ公益上已ムヲ得ズト認メ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

1　常時使用スル原動機ノ馬力數ノ合計50ヲ超ユル工場但シ日刊新聞印刷所ヲ除ク

2　左ニ揭グル事業ヲ營ム工場

イ　臺灣銃砲火藥類取締規則ニ依ル火藥ノ製造

ロ　鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類、硝酸鹽類、黄燐、赤燐、硫化燐、金屬カリウム、金屬ナトリウム、マグネシウム、過酸化水素水過酸化カリ、過酸化ソウダ、過酸化バリウム、二硫化炭素、メタノール、アルコール、エーテル、アセトン、醋酸エステル類、ニトロセルロース、ベンゾール、トルオール、キロシール、ピクリン酸、ピクリン酸鹽類テレピン油又ハ石油類ノ製造ハ燐寸ノ製造

ニ　セルロイドノ製造

ホ　ニトロセルロース製品ノ製造

ヘ　ビスコース製品ノ製造

ト　合成染料若ハ其ノ中間物、顔料、塗料（漆ヲ除ク、）印刷用インキ又ハ繪具ノ製造

チ　溶劑ヲ用フルゴム製造又ハ芳香油ノ製造

リ　乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造ヌ溶劑ヲ用フル塗料ノ加熱乾燥又ハ燒付

ル　石炭ガス類又ハコークスノ製造

ヲ　壓縮ガス又ハ液體ガスノ素製造ワ　鹽素、ブロム、ヨード、硫黄、鹽化硫黄、弗化水酸、鹽酸、硝酸、硫酸、燐酸、苛性カリ苛性ソーダ、アンモニア水、炭酸カリ、洗濯ソーダ、ソーダ灰、晒粉、次硝酸蒼鉛、亞硫酸鹽類、チオ硫酸鹽類、砒素化合物、バリウム化合物、鉛化合物、銅化合物、水銀化合物、シアン化合物、クロロホルム、四鹽化炭素、ホルマリン、ズルホナール、グリセリン、イヒチオールスルホン酸アンモン、錯酸、石炭酸、安息香酸、タンニン酸アセトアニリド、アスピリン又ハグアヤコールノ製造

カ　蛋白質ノ加水分解ニ依ル製品ノ製造

ヨ　油脂ノ採取又ハ加熱加工

タ　石鹸、フアクチス又ハベークライトノ製造

レ　肥料ノ製造

ソ　製　紙

ツ　製革、製膠又ハ毛皮若ハ骨ノ精製

ネ　アスファルトノ精製

ナ　アスファルト、コールタール、木タール石油蒸溜産物又ハ其ノ殘渣ヲ原料トスル製造

ラ　セメント、石膏硝石灰、生石灰又ハカーバイドノ製造

ム　金屬ノ熔融又ハ精煉

ウ　電氣用カーボンノ製造

ヰ　金屬厚板又ハ形鋼ノ工作ニシテ鋲打又ハ塡隙作業ヲ伴フモノ

ノ　鐵釘類又ハ鋼球ノ製造

オ　伸線、伸管又ハロールヲ用フル金屬ノ壓延

3　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外知事又ハ廳長ニ於テ衞生上有害又ニ保安上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル事業ヲ營ム工場

4　第2號イ、ロ、ハ、ニ及ヘノ物品、可燃性ガス又ハカーバイドノ貯藏又ハ處理ニ供スル建築物

5　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外知事又ハ廳長ニ於テ衞生上有害又ハ保安上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ貯藏又ハ處理ニ供スル建築物

第38條　第35條第1號乃至第10號ニ該當スル建築物其ノ他知事又ハ廳長ニ於テ風致ヲ害スルノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル建築物ハ風致地區內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ知事又ハ廳長ニ於テ支障ナシト認メ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

第39條　貸府敷、待合、藝妓又ハ酌婦寄寓スル料理屋其ノ他知事又ハ廳長ニ於テ風紀ヲ害スルノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル營業ノ用ニ供スル建築物ハ風紀地區內ニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ知事又ハ廳長ニ於テ支障ナシト認メ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前條第2項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第40條　前5條ノ規定ニ依リ現在地ニ建築スルコトヲ得ザル種類ニ屬スル建築物ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル日ヨリ15年間ヲ限リ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケ左記各號ニ規定スル制限內ニ於テ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲スコトヲ得

1　現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ敷地及之ト一團ヲ成ス土地ヲ超エテ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲サザルコト

2　建築物ノ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因ル增加スベキ建築面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ建築面積ノ2分ノ1ヲ超エザルコト

3　建築物ノ增築改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ增加スベキ床面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル都現ニ存在スル建築物ノ床面積ヲ超エザルコト

4　工場ノ常時使用スル原動機ノ馬力數ヲ增加

スル場合ニ於テ增加スベキ馬力數ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際常時使用スル馬力數ノ合計ヲ超エザルコト

但シ知事又ハ廳長土地ノ狀況、事業ノ種類、作業方法又ハ建築物ノ構造設備ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

5　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外用途ノ變更ニ付テハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ用途ニ類似スル用途又ハ設備ヲ變更セズ若ハ之ニ些少ノ變更ヲ加フルニ依リ供スルコトヲ得ル用途ニ限ルコト

第206條ノ規定ニ依リ建築ノ許可ヲ受ケタル建築物ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ト看做ス

第41條　第73條中10分ノ6·5トアルハ住居地域ニアリテハ住居地域ニ在リテハ10分ノ5·5、商業地域ニ在リテハ10分ノ7·5トス

第42條　建築物ノ高サハ住居地域內ニ於テハ20メートルヲ、住居地域外ニ於テハ30メートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ建築物ノ周圍ニ廣濶ナル公園、廣場、道路其ノ他ノ空地アル場合ニ於テ知事又ハ廳長交通上ノ衞生上及保安上支障ナシト認メ許可シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第43條　第66條第1項及第67條第1項中1倍2分ノ1トアルハ住居地域內ニ在リハ之ヲ1倍4分ノ1トス

第44條　建築物ノ敷地ガ2以上ノ地域若ハ地區又ハ地域及地區ニ跨ル場合ニ於テハ第35條乃至第39條又ハ前3條ノ規定ノ適用ニ關シテハ制限ノ最モ嚴ナルモノニ依ル但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第45條　風致地區內ニ於ケル風致維持ノ影響ヲ及ボス虞アル行爲ハ知事又ハ廳長命令ヲ以テ之ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第46條　知事又ハ廳長ハ美觀地區內ニ在ル建築物ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スト認ムルトキハ其ノ除却、改修其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第47條　知事又ハ廳長ハ美觀地區內ニ建築スル建築物ノ意匠ニ關スル設計ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スト認ムルトキハ其ノ設計ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第48條　知事又ハ廳長美觀上必要アリト認ムルトキハ美觀地區內ニ一定ノ區域ヲ指定シ其ノ區域內ノ建築物ノ高サ、軒高又ハ外壁ノ材料及主色ヲ指定スルコトヲ得

第49條　美觀地區內ニ在ル建築物ノ外部汚損セルトキハ速ニ之ヲ修理スベシ

第50條　美觀地區內ニ在ル座築物ノ排水管、排氣管、煖房鐵管、瓦斯管、煙突ノ類ハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ道路、廣場又ハ公園ニ面スル壁面ニ露出セシムルコトヲ得ズ

第51條　美觀地區內ニ在ル建築敷地ニシテ未ダ建築物ナキモノ又ハ建築工事中ノモノハ道路、廣場又ハ公園ニ面スル部分ヲ板塀ノ類ヲ以テ體裁ヨク遮蔽スベシ但シ適當ナル整理ヲ爲シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第52條　防火地區內ニ在ル建物ハ其ノ外壁ヲ耐火構造スル準耐構造トナスベシ

第53條　防火地區內ニ在ル建物ノ軒、軒蛇腹、屋窓、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ建築又ハ被覆スベシ

第54條　防火地區內ニ在ル建物ノ窓又ハ出入口ニシテ左ノ各號ノ1ニ該當スルトキハ防火戶ヲ設クベシ但シ鐵骨網入硝子造ニシテ其ノ面積4平方メートル以內ノ窓若ハ出入口又ハ屋根、床、柱及階段が耐火構造ナル建物ノ窓若ハ出入口ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

1　其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ5·5メートル未滿ノ距離ニ在ルトキ但シ建築線が道路幅ノ境界線ト一致セザル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路幅ノ境界線ト看做ス

2　隣地境界線又ハ隣接建物ニ面シ其ノ水平距離5·5メートル未滿ナルトキ隣地境界線又ハ隣接建物ヨリノ水平距離5·5メートル未滿ナルトキ

3　隣地境界線又ハ隣地建物ヨリノ水平距離5·5メートル未滿ノ位置ニ在ルトキハ但枠、組子棧及鏡板が鐵造又ハ金屬板ヲ以テ被覆セルモノナルトサハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ適用ニ付テハ窓又ハ出入口が公園、廣場、河、海等ノ空地ニ面スル場合ニ於テハ其ノ空地ヲ道路ト看做ス

松室重光君を悼む

武田五一

松室君と自分とは明治21年大阪にあつた第三高等中學校と云ふ學校に共に入學して正規の課程を經て明治30年東京帝國大學工科大學建築科を卒業して工學士としてもらつたまで不思議な緣で共に机を並べて勉强したものであつた。

松室君は京都下鴨の由緒高き社字の名家の長男として生れ非常に頭のよい溫和な性質の青年であつて極めて規定面な勉强家で、教室で取るノートなども君一流の細字で要領よく記されて自分などはよく松室君のノートを見せてもらふて自分のノートを訂正したこともあつた。

卒業して直ぐ君の古鄕京都府の技師となり京都府廳舍の設計をなし其現場主任技師になつて居られたとき、京都府管內の特別保護建造物の修理技師をも兼ねられて醍醐寺の諸堂廣隆寺の金堂金閣銀閣等の修理を見事にやつてのけられた。平等院の鳳凰堂の修理に取りかかられたとき、廣隆寺金堂の修理も同時にやつて居られたが、其時部下の技術者の瀆職事件に連坐されて一時困られたこともあり、其れから地方廻りをせられて晩年には關東州廳の土木課長となり其後歐米を巡遊して大に見聞を廣めて歸朝せられた。後大阪に於て片岡博士と共に設計事務所を經營し片岡博士引退の後は主として武田長兵衞製藥會社の工場建築の設計監督をやつて居られた。

昨年最愛の長男重博君に先だゝられた精神的の打擊は可なり强く、其れから後は强度の神經痛とか何とかと身體の違和が續いてとうとう本年の1月から2月にならふとする未だ梅の花も咲かない寒中に白玉樓中の人となられたのである。

松室君は身體は强健其物であり割合に衞生に注意して不養生などは決してせず、運動スポーツ山登りなども相當にやつて居られた。自分なども共に雪中に比良登山をして山上で辨當を谷に落してしまつて松室君の辨當を半分分配してもらつたこともあり、第三高等中學の陸上運動會で共に二人三脚をやつたこともまだ生々しい記憶に殘つて居る。まだ曙光時代の野球をやつて脚絆と足袋はだしで共にクラブを振つたこともある。此やうに松室君は相當なやじ的性質も持ち合はせて居て誰れとも距てなく交際して居られたが常に高所に居て同輩に對してなかなか辛辣な批評をして反省させられたものであつた。此性質は年を取られてからは益々盛んになつて來たやうであつて、政治經濟等に關して常に相當な意見を持つて居て時々自分も聽かされたことがある。建築家として置くのが惜しいと思ふこともあつた。

學生中は不言實行主義で故關野博士と好一對であつたやうに思ふ。

松室君が地方廻りをせずに中央に頑張つて居られたならば屹度立派な業績を殘されたことであらふが惜しいことである。

關東州の土木課長時代の作、大連の市役所、旅順の博物館などの大物が殘されて居るのでせめても同君の手腕を見るによき記念となるであらふ。病氣臥床中でも常に京阪の地に一大傑作を殘したいと云ふて居られたと云ふことであるが、其望みを達せずして逝去せられたことは返へす返へすも殘念なることである。

會報

常務會（第6回）

時　3月1日午後5時40分—6時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　理事　片岡會長
常務　井上主記　小川主記
中澤主記　中西主記
樋口主記　加田主計
清水主計　中村主計
伊藤編輯　堀口編輯

議事
1. 建築年鑑に關する臨時事務員1名採用の件
2. 都市計畫委員會より拔刷代金支出方要求の件
3. 昭和11年度常務會引繼事項研究の件
4. 都市美委員會より常務委員推薦に關する件
5. 會計係吉田仲子辭職願出に關する件並補缺採用の件
6. 集金月雜誌標示方の件
7. 倶樂部室娯樂用具修繕代支出方の件
8. 同室に於ける通信費節約に關する件
9. 會員詮衡

報告
1. 3月例會準備報告
2. 溫床暖房見學並講演に關する件報告
3. 日本ポルトランドセメント同業會申出に係ル懸賞金に關する交涉結果報告

常務會（第7回）

時　3月15日午後5時40分—6時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　理事　片岡會長
常務　井上主記　小川主記
中澤主記　中西主記
加田主計　中村主計
伊藤編輯

議事
1. 4月例會に關する件　附會員羽原德衛氏より希望の件
2. 關西理工團體聯合會本年第1回協議會に出席者の件
3. 都市計畫委員會より拔刷代金支出方要求の件
4. 災害强度委員會より臨時委員依囑方要求の件
5. 同委員會より大阪市地質調査圖表增補に付經費支出方の件
6. 都市武裝促進委員會記錄1部寄贈の件
7. 東京市監査局長より申越に係る土地整理事業實蹟周知方に關する件
8. 給仕1名補缺採用の件
9. 會員詮衡

報告
1. 3月例會終了報告
2. 2月分會計報告

會員動靜

入會者

會員

杉村榮次郎君　京都市上京區紫野上門前町69（京都府土木部營繕係）
千原　隆三君　府下吹田町1437（波江建築事務所）
鳥越　貞一君　東淀川區元今里町北通2ノ26 高橋方（大阪市役所營繕課）
平原　國雄君　東淀川區十三東之町2丁目 島田友明方（大阪市役所營繕課）
横山　新造君　府下北河內郡津田村津田（波江建築事務所）
井上　奬一君　住吉區山阪西之町1ノ41（西村工務所）
木村　精一君　兵庫縣武庫郡精道村打出久保10翠丘莊內（清水組大阪支店）
木村　辰雄君　兵庫縣武庫郡住吉村西ノ口 191ノ2（建築請負業）
久保　清盛君　西宮市中字須佐309（西宮市役所）
栗田　成計君　東區岡山町345（自營）
齋藤　寬治君　府下茨木町幸町803（大阪市役所營繕課）
島影岩次郎君　東區大手前大阪府廳建築課
高崎　武夫君　府下中河內郡繩手村六萬寺990

（大阪市電氣局高速鐵道部）

高橋　慶夫君　北區瀧川町34（長谷部竹腰建築事務所）

東本　修君　西成區田端通1ノ15 三好峯喜方（竹中工務店）

增田　虎雄君　西區土佐堀通3丁目 錢高組

山田　與八君　東區大手前大阪府廳建築課

芳野　寬一君　北區都島本通7ノ56（合資會社三共機械工業社）

地方會員

白幡　重雄君　滿洲國吉林市敷島街松江寮（吉林鐵路局工務處建築科）

藤井　定君　滿洲國新京惠民路301（新京大德不動產股份有限公司技術課）

特別贊助員

川勝　隆一君　京都市右京區花園宮ノ上町（日昭ライト工業株式會社）

乾　利之君　天王寺區谷町9ノ24（水道衞生工事請負業）

普通贊助員

大澤　政夫君　西區南堀江下通3ノ15（東方建築事務所）

鈴木庄太郎君　住吉區桑津町365 美芳野莊園（株式會社鹿島組大阪營業所）

東方　正君　浪速區稻荷町3ノ905（建築事務所自營）

七海　實君　岐阜縣稻葉郡那加村西野町酒井方（株式會社大林組）

南　繁雄君　天王寺區細工谷町43阿部菅三方（國產工業株式會社斷手製造所）

前田　忠次君　住吉區阿倍野筋2ノ33鹿島組

退會者

會員

安藤　芳雄君

南條　圓君

地方會員

松江　秀季君

普通贊助員

田垣內由信君

山下　平司君

轉居轉勤

會員

石井　猛君　尼崎市宮內町3ノ187

須藤　員雄君　豐中市櫻塚1209

杉田新五郎君　岐阜縣益田郡中原村瀨戶日本電力建設事務所

辻　卯藏君　府下北河內郡門眞村舊四番

平川　節三君　兵庫縣武庫郡瓦木村下新田南ノ口194

粟井　一馬君　住吉區昭和町中5ノ6

石垣　忠男君　神戶市灘區高羽町鷹匠ノ9

岩井金三郎君　住吉區昭和町東1ノ21

川勝　健二君　住吉區濱口町中1ノ31

小林　謙三君　神戶市葺合區籠池通4ノ47

島崎　政男君　西成區田端通1ノ11

菅澤　英夫君　廣島市外府中村大須121ノ1 キリンビール工事場大倉土木株式會社作業所

田村　四郎君　東成區生野田島町126

出崎　四郎君　神戶市灘區篠原中町5ノ132

福島　增三君　豐中市櫻塚50

政岡　基次君　住吉區濱口町414ノ4

三島　剛君　神戶市須磨區寺畑町2ノ11

村田　忠興君　尼崎市昭和北通3ノ10

森本　文章君　尼崎市灘波新町2ノ181

山內　庄治君　西區北堀江上通1ノ18 岡田組工務店

井上　芳夫君　堺市向陽町273

山田　壯二君　西宮市津門字綾羽15

荒木　正己君　市外千里山312

黑熊　春己君　住吉區阪南町中3ノ23

牧　毅君　兵庫縣川邊郡稻野村稻野住宅地

嶋　昇次郎君　東京市江戶川區平井2ノ915村上正藏方

杉山　七藏君　京都市上京區椹木町淨福寺東入出水小學校鹿島組作業所

井端　義明君　堺市南向陽町1丁目

楠　正己君　府下吹田町字勝水島4533オリエンタル酵母工業株式會社大阪工場建築場竹中工務店出張所

埴田　達枝君　港區八幡屋龜町1ノ232 福井方

元吉勇太郎君　京城府朝鮮總督府警務局警務課

地方會員

池田　訓章君　高松市鹽上町885ノ1
大野　順君　京都市河原町蛸藥師下ル京都電灯株式會社土木係
矢部　芳夫君　福岡市雁林町27
笠井駒之助君　愛知縣中島郡萩原町橋本毛織工場新築場白陽工務店
西村駿一郎君　廣島市猿樂町58清水組廣島出張所

終身賛助員

多田　學君　東京市芝區白金今里町164
白杉　龜造君　兵庫縣御影町御影字城ノ前1447

特別賛助員

赤司　健之君　北區都島中通1ノ103
河野　金秋君　東京市豐島區高田南町2ノ687杉本製作所内
西岡　隆夫君　東區北濱3ノ13杉本製作所
羽生　純君　此花區玉川町4ノ87萩原方

普通賛助員

長井才次郎君　京城府本町三越京城支店
前田佐太郎君　名古屋市東區矢田町6ノ36
三浦英太郎君　住吉區北田邊町820
石田　全男君　神戸市葺合區熊内橋通3丁目38ノ42
今井　齋君　京都市左京區吉田神樂岡町20
今津　三郎君　西宮市夙川安井町27
川崎吉之亟君　堺市甲斐町東2ノ7筈谷方
藤原　肇君　北區郁島本通6ノ23
正木　由雄君　住吉區阿倍野筋2ノ33　鹿島組内
藤島　幸滿君　朝鮮群山府昭和通4ノ155田崎方
大倉　荒吉君　奈良縣生駒郡平城村字秋篠奈良競馬場工事場大林組出張所
林　廣一君　府下北河内郡三郷町大技152
松永　嶷君　長野縣大町　大町紡績株式會社工場東畑建築事務所出張所
村岡　健次君　和歌山縣那賀郡東野上町野上病院内
清原　勝君　岡山市上石井岡山保線事務所内

改　姓

會　員

兒玉　春巳君　（舊姓黑熊）

普通賛助員

山崎　廣一君　（舊姓林）

編輯後記

★ 前號の華々しき交通建築の特輯號の後を承けて、本號輯成の事務の一部を桐本氏と共に受持つことになりてここ數旬、愈〻發行目睫に迫りて、あれやこれやと投稿依頼先への催促だけでも尋常のことでない事をつくづく悟る。

★ かれがれ念ふ、住宅、商店等の題目は特輯號として當を得た對象であるが、基本的な素材を中心とせるものも亦興味が深からうかと。そこでこの機會に建築計畫の本質的なものに觸れやうとの企圖を以て、投稿依頼先もこの道の權威を選定した次第である。

★ さて、出來ばへはかくの如く、大方の批判をまつ迄もなし。待望の平野、吉村兩氏のそれは止むなく次號に割愛を餘儀なくされ、豫定の企圖は本號よりも却つて次號あたりで、實を結ぶ事を想つて計畫の强ち無爲に了らなかつたことを獨りよがるわけである。かくて本號は評論あり構造あり、計畫ありで、論說は建築、計畫の內外より且て、緊急問題に觸れるものを多く得たことを喜びとする。

★ 口繪寫眞に就いて、——竣工の場合を見計つて、新裝區役所に驅付けてみると、早や開業で、門前市をなすに自轉車を以つてせられ、止むなく、內部を覗見するに、納稅期と來て、これ又、非常時日本の一場面がくり展げられ、寫眞どころでない區役所風景である。そこそこに次に廻ると、ここは旣に出來上つてはゐるが、さて完成の各室には、錠前が施されてゐるのに困惑する。かくて、編輯の一端でも容易ならぬ事を身を以つて味ひ、つれづれ常務の方々のなみなみならぬ努力を今更乍ら察する。

★ それにしても、本號にたまたま武田、大須賀、伊藤諸先生の玉稿を得て、錦上花を添ふ。

★ 奈良の〝お水取り〟の儀式了り春酣なる卯月を前にするとは云へ、黃昏どきのスチーム落ちた窓邊はまだほの寒く、早く巷に出でた波亂多かりし本議會の結末を夕刊にみんなこの〝編輯後記〟を急ぎ終る。（宮田秀穗）

建築と社會

第20輯第4號

毎月1回1日發行　定價　1冊 50錢(郵稅2錢)　12冊 6圓(同 24錢)

昭和12年3月25日印刷　昭和12年4月1日發行

發行・編輯　小板常男

印刷人

大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　大石堂印刷所

大阪市北區玉江町1丁目11番地

發行所　社團法人　日本建築協會

大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル

電話(北浜(23)4501番(9)

振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店

大阪市西區京町堀羽子板橋西

電話土佐堀2440番

振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	½頁	1回	8.00
普通（前附葉1頁）	1頁	1回	45.00
普通（前附葉2頁）	1頁	1回	40.00
普通（後附葉1及最終頁）	1頁	1回	25.00
アート（中插）	½頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5.00

廣告揭載御申込は本會へ直接願ひます。

本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第20輯第4號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……11
　淺野スレート株式會社……12
　有田製陶所……41
　淺海商會……25
イ　岩元工業株式會社……25
エ　榮進社……28
　英進商會……31
　荏原製作所……7
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　大阪伊丹商店……22
　大阪組立コンクリート製作所……36
　大野製作所……前附 1
　岡田建材店……41
　奥村重兵衛商店……15
カ　關城化學工業株式會社……表紙… 4
キ　梶田商會……24
　協和製作所……35
ク　黒川化學工業所……26
　久保商店……35
　窪島プレス工業所……43
サ　佐渡島四店……14
　佐久間パブコ工業株式會社……40
　三機工業株式會社大阪支店……表紙 2
　坂本商會大阪支店……31
　坂田ベンチレーター製作所……38
ス　須賀商會……45
セ　政正合資會社……37
　濟光社……38
タ　田島應用化學工業所大阪支店……前附 4
　大和工業株式會社……8
　大洋組建材部……22
　ダンロップ護謨株式會社……中挿
チ　チヨーホー商會……17
ト　東洋リノリユーム株式會社……表紙 3
　東京電氣株式會社……29
　東京相互瓦木工所大阪出張所……42
　東洋洋瓦株式會社大阪支店……13
　東洋キヤリア工業株式會社大阪支店……表紙 2
ナ　內外土木建築材料合資會社……9
　南滿鑛業株式會社……27
ニ　日本建築紙工株式會社……37
　日本放熱器商會大阪支店……19
　日本陶織社……34
　日本ドアーチエク製作所……23
　日本パイプ製造株式會社……44
　西村型而工廠……33
　西原衛生工業所……10
　西孫南店建築金物部……26
ノ　野澤幸三郎商店……45
ハ　長谷川利彦商會……33
　播磨造船所木材部大阪出張所……42
　汎建製作所……18
フ　藤田商會……16
　福原商店大阪支店……17
ホ　邦光化學工業所……20
　ボルネオ物產商會大阪出張所……42
マ　松井商店……36
ミ　三井物產株式會社……39
ヤ　矢橋大理石商店……18
　大和護謨製作所……32
ヨ　横河橋梁製作所……30
　米本榮商店……34
ラ　ライトラバー工業合資會社……21
リ　理研鋼材株式會社大阪支店……前附 3
　リーダ建材工業株式會社……中挿
レ　玲光社(木內眞太郎)……27